

令和2年度
新潟県立看護大学
自己点検評価報告書

－専任教員の活動業績－
－各種委員会等の活動報告－

令和3年3月



新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

専任教員の活動業績

1 研究、社会及び学内教育活動業績

(1) 制作要件

「研究活動」と「社会活動」及び「学内教育活動」について、令和2年4月から令和3年3月までの12ヶ月間の期間について、本学の在職各教員から申告のあった国内外における活動（業績）の一覧である。

ア 令和2年12月末日までに退職ないし転職している教員のものは含まない。

イ 原則として、各教員から提出されたものを修正せず掲載する。

ウ 掲載の順番は領域順・科目群順とし、個人は令和3年3月現在の職位順ついで採用順に掲載する。

エ 掲載に際して職位名等は入れず、氏名のみの表示とする。

オ 令和2年4月以降12月までに着任した専任教員の業績についても、ウに従って掲載する。

(2) 活動業績掲載順		小児看護学	大久保 明子……………	3 5
【共通科目】			山田 恵子……………	3 7
I 人間環境科学領域			野澤 祥子……………	3 8
社会科学	渡辺 弘之……………		伊藤 ひかる……………	3 9
	徐 淑子……………		小林 宏至……………	4 0
情報科学	中村 義実……………	母性・助産	中島 通子……………	4 1
	永吉 雅人……………	看護学	西田 絵美……………	4 2
	エルダトン・サイモン…		杉山 泰子……………	4 3
			上田 恵……………	4 4
II 自然科学領域		V 地域生活看護学領域		
生物・医学	境原 三津夫……………	老年看護学	小野 幸子……………	4 5
	堀江 正男……………		原 等子……………	4 7
			河原畑 尚美……………	5 1
【専門科目】			大口 洋子……………	5 3
III 基礎看護学領域			東條 紀子……………	5 4
看護教育学	舟島 なをみ……………	精神看護学	長谷川 雅美……………	5 5
看護管理学	岩永 喜久子……………		田口 玲子……………	5 7
基礎看護学	岡村 典子……………		後田 穰……………	5 8
	川島 良子……………		船山 健二……………	5 9
	谷内田 潤子……………		安達 寛人……………	6 1
	山岸 美奈子……………	地域看護学	平澤 則子……………	6 2
	上坂 唯子……………		高林 知佳子……………	6 4
IV 臨床看護学領域			川野 英子……………	6 6
成人看護学	石田 和子……………		井上 智代……………	6 7
	高柳 智子……………		野口 裕子……………	6 9
	酒井 禎子……………		前川 絵里子……………	7 0
	樺澤 三奈子……………	【学 長】		
	小林 綾子……………		小泉 美佐子……………	7 1
	石原 千晶……………			
	石岡 幸恵……………			
	相澤 達也……………			
	高橋 絹代……………			
	坂田 智佳子……………			

渡辺弘之

1. 原著論文(2件)

- 1) Hiroyuki WATANABE, Vu Tuan Anh, et al. (2020.8) : QoL of ex-leprosy patients' children in Vietnam, 日本ハンセン病学会雑誌, 89(1), pp1 - 11(査読有)
- 2) Hiroyuki WATANABE, Shri Lak Nanjan Chandran, Jan Hendrik Richardus, et al. (2021.3) : Revised estimates of leprosy disability weights for assessing the global burden of disease: A systematic review and individual patient data meta-analysis, PLOS Neglected Tropical Diseases, 15(3), pphttps://doi.org/10.1371/journal.pntd.0009209(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 渡辺弘之(2020.11) : The situation of QoL of ex-leprosy patients' children in Vietnam, 日本国際保健医療学会 グローバルヘルス合同大会 2020 大阪(大阪)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ じょうえつ外国人医療プロジェクト
- ・ 上越教育大学研究倫理審査委員会
- ・ 入院患者のQOL向上プロジェクト (ベトナム)
- ・ エラスムス医科大学ハンセン病による障害測定新基準プロジェクト (オランダ)

【学内教育活動】

学 部 : ふれあい実習, 社会学, 社会福祉概論, 基礎ゼミナール, ふれあい実習, 地域社会と住民組織, 専門ゼミナールI, 専門ゼミナールII

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

教務委員会委員, 国際交流委員会委員, 図書委員会委員

アウトドアサークル、バンドサークル、ほしみサークル、手話サークル、フットサルサークルサークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 渡辺弘之(研究代表者) (2019~2021) : ベトナムのハンセン病元患者の子どもが持つ「傷つきやすさ」とエンパワーメント支援, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

徐 淑子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 徐淑子(2020.7)：鍵概念・ハームリダクション，日本保健医療行動科学会雑誌，35(1)，pp72 - 77(査読無)
- 2) 樽井正義，生島嗣，徐淑子，山本大(2021.3)：ダルクにおけるMSM・HIV陽性者支援の調査，厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域においてMSMのHIV感染・薬物使用を予防する支援策の研究」，令和2年度報告書，pp1 - 5(査読無)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3件)

- 1) 徐淑子，樽井正義(2020.11)：ハームリダクションとは：その基本概念と諸外国および日本におけるハームリダクションの展開，第34回日本エイズ学会学術集会(オンライン会場)
- 2) 樽井正義，生島嗣，徐淑子(2020.11)：ダルクにおける性的少数者およびHIV陽性者への薬物依存症回復支援の現状，第34回日本エイズ学会学術集会(オンライン会場)
- 3) 池田光穂，井上大介，山崎スコウ竜二，徐淑子(2020.12)：スマートメディアユーザーのナルシズム化は「新しい孤独」を生みつつあるか？，第5回大阪大学豊中地区研究交流会(オンライン会場)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本保健医療行動科学会 評議員
- ・ 日本保健医療社会学会 会員
- ・ 日本健康教育学会 会員
- ・ 日本エイズ学会 会員
- ・ 日本アルコール関連問題学会 会員
- ・ 日本ヘルス・コミュニケーション学会 会員
- ・ International Sociological Association 会員
- ・ 第34回日本エイズ学会社会部門プログラム委員
- ・ 第34回日本エイズ学会シンポジウム18座長
- ・ 日本保健医療行動科学会第2回オンライントーク「孤立防止と健康支援」

【社会活動】

- ・ ATA-net:多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワークの構築(研究代表者・龍谷大学 法学部 石塚伸一) 主催第2回ティーチイン「ハーム・リダクションとは何か? ～非犯罪化、非刑罰化、非施設化のメリットとデメリット～」(2021年3月30日 ZOOM会場) 講師
- ・ 徐淑子，書評『下手くそやけど生きてるねん』，保健医療行動科学会ニューズレター第100号，100:15，2020.
- ・ 徐淑子，詩のもつ力と詩人の役割，津田塾たより，71(1):32，2020.
- ・ 新潟マック
- ・ NPO 法人ふれいす東京
- ・ 財団法人筑波バツハの森
- ・ 人と人研究会
- ・ 女性とアディクション研究会代表
- ・ 新潟ダルク通信「せーばなる!!」編集人

【学内教育活動】

学 部：基礎ゼミナール, 保健・医療行動科学, ふれあい実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：健康社会学

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

FD 委員会副委員長, 研究推進委員会委員, 入学委員会委員, 倫理委員会委員, ハラスメント防止委員会相談員

第1回授業検討会の企画補助 (FD 委員会), 第2回授業検討会企画補助 (FD 委員会), 令和元年度採択学内共同研究助成研究成果発表会

【外部資金獲得】

1) 徐 淑子(研究代表者)

池田光穂(2018～2020)：ハーム・リダクションと薬物依存者への社会的ケア：東アジアへの影響、移入、展開，科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 池田光穂(研究代表者)

徐淑子、山崎スコウ竜二、井上大介(2020～2022)：スマートメディアユーザーのナルシズム化と「新しい孤独」の誕生：民族誌的研究，科学研究費助成事業(基盤研究C)

3) 樽井正義(研究代表者)

生島嗣，若林チヒロ，大木幸子，徐淑子他(2018～2020)：地域においてMSMのHIV感染・薬物使用を予防する支援策の研究，厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

中村義実

1. 原著論文(1件)

- 1) 峯島道夫、三浦孝、中村義実、他(2021.3) : ヒューマンスティックな観点から見た高校 Communication 英語 I の教科書分析, Journal of Humanistic English Education in Japan, 1, pp27 - 70(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 中村義実(2020.10) : デニス作品が異文化理解に及ぼす効果について : 日常に横たわるコミュニケーション・ギャップの内実, 第34回異文化コミュニケーション学会(東京(オンライン))
- 2) 中村義実(2021.3) : 内発性に根ざした英語教育の成果 : 看護大生の英語に対する意識調査を基に, 第27回大学教育研究フォーラム(京都(オンライン))

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 異文化コミュニケーション学会
- ・ 全国看護英語教育学会

【社会活動】

- ・ 敬和学園大学非常勤講師「言語コミュニケーション論2」
- ・ 埼玉大学教養学部寄附講座講師「自己発見のための異文化理解」

【学内教育活動】

学 部 : 英語リーディングⅠ・Ⅱ, 英語ライティングⅠ・Ⅱ, 英語ライティングⅢ・Ⅳ, 基礎ゼミナール, 専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, ふれあい実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員長, 教務委員会委員, 入学委員会委員, カリキュラム検討委員会委員
授業検討会 授業担当「英語リーディングⅡ」(2020.12.23)

【外部資金獲得】

- 1) 柳田綾(研究代表者)

加賀田哲也、三浦孝、峯島道夫、永倉由里、中村義実、他(2020~2022) : 英語コミュニケーション能力と人間英を高める英語授業の活動・タスク・授業モデル開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

永吉雅人

1. 原著論文(1件)

- 1) Nakagomi S., Kitamura C., Elderton S. J. H., Nagayoshi M., Kondo Y., Yasukouchi S., Noguchi M., Kuraishi K., Muro A. (2021.3) : An examination of nursing support based on the care needs of children with 22q11.2DS after definitive diagnosis, 日本遺伝看護学会誌 (J. Genet. Nurs. Jpn), 19(2), pp1 - 13(査読有)

2. その他論文(1件)

- 1) 永吉雅人, 大庭重治(2021.3) : 小・中学校における健康管理に関する特別な配慮についての養護教諭の問題認識-新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 感染拡大直前に実施したアンケート調査の結果より-, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 27, pp27 - 33(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 永吉雅人, エルダトン・サイモン, 玉置久(2020.12) : マルチエージェント強化学習における揺らぎパラメータつき状態フィルタを利用した役割分化, 電気学会システム・制御合同研究会(on line)
- 2) Masato Nagayoshi, Simon Elderton, Hisashi Tamaki(2021.1) : A Method of Role Differentiation Using a State Space Filter with a Waveform Changing Parameter in Multi-agent Reinforcement Learning, International Conference on Artificial Life and Robotics 2021 (ICAROB' 21)(on line)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 電気学会 論文委員会 (C2 グループ) 主査
- ・ 電気学会 電子・情報・システム部門 編修委員会
- ・ システム制御情報学会
- ・ 計測自動制御学会
- ・ 電気学会
- ・ 室内環境学会
- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本精神保健看護学会
- ・ The 2021 International Conference on Artificial Life and Robotics (ICAROB2021) GS1 Chaos & Application Chair
- ・ 2021 IEEE 12th International Workshop on Computational Intelligence and Applications(IWCIA2021) Reviewer
- ・ 令和3年電気学会全国大会5グループ論文委員会 委員
- ・ 電気学会システム・制御合同研究会
- ・ 電気学会システム/分野横断型新システム創成合同研究会

【社会活動】

- ・ 新潟県立上越総合技術高等学校 学校評議員
- ・ ストップ! 香害 余計な香りはもういない, 日本消費者連盟 (2020.11.20 発行) (p26 掲載)
- ・ 化学物質過敏症 理解して 新型ウイルス禍、消毒液も恐怖, 新潟日報 (2020.10.6 発行)
- ・ NPO 法人 関川水辺クラブ
- ・ NPO 法人 新潟県難病相談支援センター
- ・ 手洗い研修により介護職員の手洗いが習慣化するかの検証～A介護老人保健施設における感染予防への

取り組み～

- ・ 電気学会 電子・情報・システム部門 システム技術委員会 先端システムの超知能化を指向した機械学習技術協同研究委員会 委員
- ・ 「香害をなくす連絡会」(事務局・日消連)：【記者会見】「香害」アンケート集約結果発表～9000 人の声を届けます～, 2020 (2020. 7. 1, 13:30-14:30 衆議院第一議員会館・第3会議室). (一部コメント紹介)
- ・ 福岡県古賀市議会議員からのメール取材と議会質問 (香害)による健康被害を防ぐ対策を, 令和2年第4回定例会 12月11日 本会議 一般質問)

【学内教育活動】

学 部：情報処理演習, 情報科学, 疫学, ふれあい実習, 基礎ゼミナール, 保健統計演習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：看護情報統計学, 看護学領域別特別研究

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

情報ネットワーク特別委員会委員長, 情報ネットワーク実行部会委員長, FD 委員会委員, 研究推進委員会委員
水研究, ソフトテニス, バスケットボールサークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 永吉雅人(研究代表者)(2019～2021)：強化学習によるメンバーシップ向上に寄与する共創的ナース・スケジューリングシステム, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 大庭重治(研究代表者)
葉石光一、笠原芳隆、八島猛、佐藤将朗、坂口嘉菜、上野光博、留目宏美、池川茂樹、境原三津夫、大久保明子、高柳智子、永吉雅人(2020～2022)：健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

エルダトン サイモン

1. 原著論文(1件)

- 1) Nakagomi S., Kitamura C., Elderton S. J. H., Nagayoshi M., Kondo Y., Yasukouchi S., Noguchi M., Kuraishi K., Muro A. (2021.3) : An examination of nursing support based on the care needs of children with 22q11.2DS after definitive diagnosis, 日本遺伝看護学会誌 (J. Genet. Nurs. Jpn), 19(2), pp1 - 13(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3件)

- 1) 北村千章, Elderton Simon, 中込さと子, 安河内聡, 稲葉雄二, 倉石圭織, 室亜衣, 石黒浩毅, 早川統子, 桐生徹, 榎本淳子(2020.9) : 22q11.2欠失症候群の子どものきょうだい支援, 日本遺伝看護学会第19回学術大会(Online)
- 2) 永吉雅人, エルダトン・サイモン, 玉置久(2020.12) : マルチエージェント強化学習における揺らぎパラメータつき状態フィルタを利用した役割分化, 電気学会システム・制御合同研究会(Online)
- 3) Masato Nagayoshi, Simon Elderton, and Hisashi Tamaki(2021.1) : A Method of Role Differentiation Using a State Space Filter with a Waveform Changing Parameter in Multi-agent Reinforcement Learning, International Conference on Artificial Life and Robotics 2021 (ICAROB' 21)(Online)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- The Japan Association of Language Teachers
- College and University Education SIG
- Pragmatics SIG
- 日本遺伝看護学会
- 日本比較文化学会
- 22q11.2 Society
- CAN (Conversation Analysis Network) -Kanto

【社会活動】

- NPO 法人親子の未来を支える会 22q11.2 就学サポート アドバイザー
- 他大学の教員の多数の研究の翻訳および英語の指導
- 上越教育大学で非常勤講師
- 十日町看護専門学校で非常勤講師

【学内教育活動】

学 部 : 英語コミュニケーションⅠA, 英語コミュニケーションⅠB, 英語コミュニケーションⅡA, 英語コミュニケーションⅡB, 英語コミュニケーションⅢ, 英語コミュニケーションⅣ, 基礎ゼミナール4, ふれあい実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会副委員長, 学生委員会委員, 入試・広報委員会委員, 紀要委員会委員

バレーボール、吹奏楽団サークル顧問

【外部資金獲得】

1) 北村千章(研究代表者)

エルダトン サイモン、中込さと子、榎本淳子、桐生徹、稲葉雄二、石黒浩毅、早川統子、室亜衣 (2019～2021) : 就学中の 22q11.2 欠失症候群の子どもの教育者と医療者の協働に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 境原三津夫(研究代表者)

エルダトン サイモン(2018～2020) : 小児病院におけるファシリテッドッグ導入促進のために—細菌学的視点からみた安全性—, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

3) ブラウン アイヴァン(研究代表者)

CARROLL DONALD、エルダトン サイモン(2018～2020) : Developing authentic teaching materials and activities for English conversation, based on the analysis of an expanding corpus of English spoken as a lingua franca between Japanese and cultural others, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

境原 三津夫

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 杉山泰子, 境原三津夫(2020.10) : 性暴力被害事件における新聞報道と二次加害、日本セーフティプロモーション学会誌, 13巻2号, pp37 - 42(査読有)
- 2) 相澤達也, 石原千晶, 塩谷幸祐, 石田和子, 境原三津夫(2021.3) : 精神的問題を抱える人に対する馬介在療法の効果に関する文献検討, 新潟看護ケア研究学会誌, 第7巻, pp30 - 35(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本セーフティプロモーション学会
- ・ 日本産科婦人科学会
- ・ 日本母性衛生学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部 : 臨床病態学Ⅰ, 臨床病態学Ⅱ, 人間社会と倫理, 母性看護学Ⅱ, ふれあい実習, 助産学Ⅰ, 基礎ゼミナール

博士前期課程 : 病態生理学, フィジカルアセスメント, がん看護学特論Ⅲ

博士後期課程 : 母指看護学特論, 看護学特別研究

【学内委員会等の活動】

図書委員会委員長, 衛生委員会(衛生管理者)委員, 情報ネットワーク特別委員会委員, 外部評価特別委員会委員, 自己点検評価委員会委員

学校医, バドミントンサークル顧問

【外部資金獲得】

1) 境原三津夫(研究代表者)

Elderton Simon(2018~2020) : 小児病院におけるファシリテッド導入促進のために—細菌学的視点からみた安全性—, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 大庭重治(研究代表者)

境原三津夫 他(2020~2022) : 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

堀江 正男

1. 原著論文(1件)

- 1) Horie M, Yoshioka N, Kusumi S, Sano H, Kurose M, Watanabe-Iida I, Hossain MI, Chiken S, Abe M, Yamamura K, Sakimura K, Nambu A, Shibata M, Takebayashi H(2020.5) : Disruption of dystonin in Schwann cells results in late-onset neuropathy and sensory ataxia., *Glia*, 68, pp2330 - 2344(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 堀江正男, 竹林浩秀(2020.11) : シュワン細胞における Dystonin 遺伝子の欠損は遅発性ニューロパチーの原因となる, 第42回神経組織培養研究会(online)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部 : 形態機能学 I, 形態機能学 II, 生物学, ふれあい実習, 基礎ゼミナール

博士前期課程 : 疫学

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員長, 入試広報委員会副委員長, 学生委員会委員, 倫理委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 堀江正男(研究代表者) (2017~2020) : Dystonin コンディショナルマウスを用いたジストニア症状の責任脳回路解明, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

舟島なをみ

1. 原著論文(5件)

- 1) 金谷悦子, 舟島なをみ(2021. 2) : 研究に携わる看護職者の研究倫理行動の質に関する研究 : 現状および看護職者の特性との関係, 千葉看護学会誌, 26(2), pp73 - 81(査読有)
- 2) 服部美香, 舟島なをみ(2021. 3) : 病院に就業するスタッフ看護師が職業上直面する問題の解明, 看護教育学研究, 30(1), pp17 - 32(査読有)
- 3) 伊勢根尚美, 中山登志子, 舟島なをみ(2021. 3) : 病棟看護師の実習指導役割自己評価尺度の開発-学生の実習目標達成と患者の療養生活の質保証に向けて、看護教育学研究, 30(1), pp33 - 48(査読有)
- 4) 山澄直美, 舟島なをみ, 中山登志子(2020. 12) : 「研修デザイン評価スケール-院内教育用-」の開発, 日本看護科学学会誌, 40, pp611 - 619(査読有)
- 5) 山下暢子, 舟島なをみ, 中山登志子, 植田満美子(2020. 5) : 看護学生のための問題自己診断尺度(看護学実習用)の開発: 学生自身の問題理解と解決を旨として, 東邦大学健康科学ジャーナル, 3, pp13 - 25(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(1件)

- 1) 舟島なをみ, 亀岡智美, 鈴木美和, 永野光子, 他8名(2020. 9) : 看護学教育における授業展開 第2版, 医学書院(東京)

4. 学会発表(8件)

- 1) 植田満美子, 舟島なをみ, 中山登志子(2020. 12) : 潜在看護師が望む復職支援-看護継続教育としての復職支援の検討, 第40回日本看護科学学会学術集会(オンライン開催)
- 2) 服部美香, 舟島なをみ(2020. 12) : 「学習ニードアセスメントツール-スタッフ看護師用-」の開発, 第40回日本看護科学学会学術集会(オンライン開催)
- 3) 伊勢根尚美, 中山登志子, 舟島なをみ(2020. 12) : 病棟看護師の実習指導役割自己評価尺度の開発, 第40回日本看護科学学会学術集会(オンライン開催)
- 4) 中山登志子, 舟島なをみ(2020. 12) : 看護学の修士論文指導に携わる教員が直面する問題, 第40回日本看護科学学会学術集会(オンライン開催)
- 5) 亀岡智美, 舟島なをみ(2020. 12) : 看護師の研究成果活用力向上を支援する教育プログラムの開発-第2段階「基盤技術修得研修」の有効性検証, 第40回日本看護科学学会学術集会(オンライン開催)
- 6) Mamiko Ueda, Toshiko Nakayama, Naomi Funashima(2020. 11) : Preparations of Inactive Nurses to Return to Nursing: A Qualitative Study, 10th Hong Kong International Nursing Forumcum 3rd Singma Asia Region Conference(Online)
- 7) Toshiko Nakayama, Naomi Funashima(2020. 7) : Graduate Students' Perceptions of Quality of the Teaching-learning Process on Master's Nursing Programs in Japan, 31st International Nursing Virtual Research Congress, Sigma Theta Tau International(Online)
- 8) Etsuko Kanaya, Naomi Funashima(2020. 7) : Ethical Dilemmas Encountered by Nursing Researchers in Japan , 31st International Nursing Virtual Research Congress, Sigma Theta Tau International(Online)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護教育学学会 相談役
- ・ 日本看護学教育学会 評議員
- ・ 聖路加看護学会
- ・ 千葉看護学会 評議員

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本看護管理学会
- ・ 文化看護学会
- ・ 日本教育学会
- ・ Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing
- ・ King International Nursing Group
- ・ 第24回日本看護管理学会学術集会／教育講演「看護教育学の研究成果活用による組織の診断と改革」

【社会活動】

- ・ 新潟労災病院看護部教育研修「看護理論」講師
- ・ 長野県看護協会研修「新人看護職員研修（院内研修）の企画立案と運用」講師
- ・ 長野県看護協会研修「新人看護職員研修の評価方法と結果のフィードバック」講師

【学内教育活動】

学 部：看護研究法

博士前期課程：看護学研究法, 看護理論, 看護教育学, 基礎看護学特論, 基礎看護学援助論 I, 基礎看護学援助論 II, 基礎看護学特別演習

博士後期課程：看護学研究法 I, 看護学教育論, 看護教育学特論

【学内委員会等の活動】

研究推進委員会委員長, 入学委員会委員, 教学委員会委員, 自己点検評価特別委員会委員, 図書委員会委員
看護教育学研究推進コース

【外部資金獲得】

- 1) 舟島なをみ(研究代表者)
中山登志子、上國料美香、横山京子(2019～2023)：医療事故防止のための「看護職包括型患者安全教育推進システム」の拡充と普及，科学研究費助成事業(基盤研究 B)
- 2) 舟島なをみ(研究代表者)
中山登志子、山下暢子、服部美香、小澤弘明、白川優治(2018～2021)：問題診断克服型 FD モデルの開発－教員の研究指導能力向上を目指して，科学研究費助成事業（挑戦的研究萌芽）
- 3) 亀岡智美(研究代表者)
舟島なをみ、金谷悦子、中山登志子、永野光子(2020～2024)：「看護学教員のための倫理的行動改善向上 FD プログラム」の開発と普及，科学研究費助成事業(基盤研究 B)
- 4) 植田満美子(研究代表者)
舟島なをみ(2019～2021)：潜在看護師の離職後の経験の解明－個別の状況に応じた復職支援提供に向けて－，科学研究費助成事業(基盤研究 C)
- 5) 山下暢子(研究代表者)
舟島なをみ、中山登志子(2018～2022)：看護学教育授業改善システム(成人期学生用)の開発－医療人確保の将来を見据えて－，科学研究費助成事業(基盤研究 C)
- 6) 山澄直美(研究代表者)
舟島なをみ、中山登志子(2018～2021)：院内教育担当者の能力向上プログラムの開発－研修評価に着眼して－，科学研究費助成事業(基盤研究 C)
- 7) 中山登志子(研究代表者)
舟島なをみ(2018～2022)：「研究指導能力自己評価尺度－看護系大学院修士論文指導用－」の開発と有効性の検証，科学研究費助成事業(基盤研究 C)
- 8) 宮芝智子(研究代表者)
舟島なをみ(2018～2022)：看護学教育における授業改善システム【講義・演習版】の開発，科学研究費助

成事業(基盤研究C)

9) 永野光子(研究代表者)

舟島なをみ、鈴木美和(2018～2021)：「訪問看護師としての倫理的行動自己評価尺度」の開発，科学研究費助成事業(基盤研究C)

10) 上國料美香(研究代表者)

舟島なをみ(2017～2021)：病棟看護師の患者教育能力向上を支援する教育プログラムの開発と有効性に関する研究，科学研究費助成事業(基盤研究C)

11) 服部美香(研究代表者)

舟島なをみ(2017～2020)：看護師の問題解決力向上支援システムの完成と普及—自律的な問題解決の推進—，科学研究費助成事業(基盤研究C)

岩永 喜久子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
 - 1) 新井 啓子(2020.12)：院内異動した看護師長が捉える病棟の組織文化，第40回日本看護科学学会学術集会(オンライン開催(東京))
 - 2) 猪瀬 紗都子(2020.12)：看護師長が行う産科混合病棟の病棟運営上の取り組み内容，第40回日本看護科学学会学術集会(オンライン開催(東京))
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 岩永喜久子、岡村典子、川島良子、谷内田潤子、山岸美奈子、上坂唯子：A大学の1年次生と2年次生が基礎看護学実習終了までに学んだ看護技術の自己評価，令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護技術学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：人間社会と倫理, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 国際看護論, 看護管理

博士前期課程：看護管理学特論, 看護管理学援助論Ⅰ, 看護管理学援助論Ⅱ, 看護管理学特別演習, 看護管理学特別研究

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

入学小委員会委員長, 紀要委員会委員長, 教学委員会委員, 実習委員会委員, 大学院入試実施本部委員

【外部資金獲得】

- 1) 岩永喜久子(研究代表者)(2016～2021)：チーム医療における高度実践看護師が担う看護専門外来システムの開発に関する研究，科学研究費助成事業(基盤研究C)

岡村典子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 岩永喜久子, 岡村典子, 川島良子, 山岸美奈子, 谷内田潤子, 上坂唯子 : A大学の1年次生と2年次生が基礎看護学実習で学んだ看護技術の自己評価, 令和元年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本看護技術学会
- ・ 日本カウンセリング学会
- ・ 日本心身医学会
- ・ 日本在宅ケア学会
- ・ 仏教看護・ビハーラ学会
- ・ 東京医科歯科大学お茶の水医学会
- ・ 聖路加看護学会
- ・ 日本精神保健看護学会
- ・ 日本看護管理学会
- ・ 北関東医学会
- ・ お茶の水看護学会

【社会活動】

- ・ 新潟県立中央病院看護部教育アドバイザー
- ・ 新潟県福祉保健部医師・看護職員確保対策課 専門性の高い看護職員の育成に関する打ち合わせ 委員
- ・ 新潟県立中央病院看護部主催 「副看護師長研修」講師 (2020年8月6日)
- ・ 県内看護職の学修支援の内容・方法の要望に関する調査
- ・ 開心術後の患者に対する早期リハビリテーションの効果

【学内教育活動】

学 部 : 看護学概論, 看護援助論Ⅰ, 看護援助論Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護学技術演習Ⅱ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, ライフステージと看護
博士前期課程 : 看護理論, 基礎看護学看護援助論Ⅰ, 基礎看護学看護援助論Ⅱ, 基礎看護学特別演習, 基礎看護学特別研究, 看護コンサルテーション論, フィジカルアセスメント, 看護研究法, 基礎看護学特
論
博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

教務委員会副委員長, 研究科委員会委員, 教学委員会委員, 倫理委員会委員, ハラスメント防止特別委員会委員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門長

ハンドマッサージ, 茶道サークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 岡村典子(研究代表者)(2017～2021):感情を的確にマネジメントする為のスキル習得に向けた看護管理者向けプログラムの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

川島良子

1. 原著論文(1件)

- 1) 川島良子(2020.11)：基礎看護学実習における清拭援助実施前の指導に関する研究—看護教員の指導時に着目している情報と判断および指導行動について—, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 70(4), pp331 - 341(査読有)

2. その他論文(1件)

- 1) 川島良子 三尾亜喜代 加藤明美(2020.5)：看護基礎教育における家族看護学の教育に関する文献検討—国内文献に焦点を当てて—, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 70(2), pp143 - 148(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 岩永喜久子 岡村典子 川島良子 谷内田潤子 山岸美奈子 上坂唯子, A大学の1年次生と2年次生が基礎看護学実習終了までに学んだ看護技術の自己評価, 令和元年度新潟県立看護大学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護学教育学会 学会員
- ・ 日本看護研究学会 学会員
- ・ 日本看護科学学会 学会員
- ・ 日本教師学学会 学会員
- ・ 日本協同教育学会 学会員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：看護学概論, 看護援助論Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 看護援助論Ⅰ, 総合実習, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員, 国家試験対策・就職委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

谷内田 潤子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 岩永喜久子、岡村典子、川島良子、谷内田潤子、山岸美奈子、上坂唯子：A大学の1年次生と2年次生が基礎看護学実習終了までに学んだ看護技術の自己評価，令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 看護科学学会
- ・ 慢性看護学会
- ・ 日本糖尿病学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：看護学概論，看護援助論Ⅰ，看護援助論Ⅱ，基礎看護技術演習Ⅰ，基礎看護技術演習Ⅱ，基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ，総合実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会委員，学生委員会委員，看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

【外部資金獲得】

なし

山岸 美奈子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(1件)
 - 1) 山岸美奈子, 樺澤三奈子(2020. 11): 急性期看護に携わる臨床看護師が「患者に触れてわかること」の実態調査, 日本看護科学学会(オンライン開催)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 川島良子, 岩永喜久子, 岡村典子, 谷内田潤子, 山岸美奈子, 上坂唯子: A大学の1年次生と2年次生が基礎看護学実習で学んだ看護技術の自己評価, 令和2年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 新潟日報「マスクの正しい着け方と洗い方」
- ・ 視覚を遮断した患者体験および看護師体験における専門学校1年次学生の看護技術に対する認識

【学内教育活動】

学 部: 看護援助論Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員, 看護研究交流センター先駆的学習支援部門員
学年担任, 合唱サークル顧問

【外部資金獲得】

なし

上坂唯子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 岩永喜久子、岡村典子、川島良子、谷内田潤子、山岸美奈子、上坂唯子：A大学の1年次生と2年次生が基礎看護学実習終了までに学んだ看護技術の自己評価，令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護教育学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ，基礎看護技術演習Ⅰ，基礎看護技術演習Ⅱ，看護援助論Ⅰ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

保健指導員

【外部資金獲得】

なし

石田和子

1. 原著論文(1 件)

- 1) 石原千晶, 大山ちあき, 村上千秋, 石田和子(2019. 5) : 医療療養型病院で終末期がん患者と関わる看護師が体験する困難, 新潟医学会雑誌, 133 巻第 5 号, pp205 - 214(査読有)

2. その他論文(1 件)

- 1) 相澤達也, 石原千晶, 塩谷幸祐, 石田和子, 境原三津夫(2021. 3) : 精神的問題を抱える人に対する馬介在療法の効果に関する文献検討, 新潟看護ケア研究学会誌, 第 7 巻, pp30 - 35(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(9 件)

- 1) 石岡幸恵 横川史穂子 石原千晶 石田和子(2020. 9) : 悪い知らせを伝えるインフォームドコンセントの意思決定に関する看護支援の現状と課題 (第 1 報) , 日本看護研究学会雑誌(オンライン)
- 2) 横川史穂子 石岡幸恵 石原千晶 石田和子(2020. 9) : 悪い知らせを伝えるインフォームドコンセントの意思決定に関する看護支援の現状と課題 (第 2 報) , 日本看護研究学会雑誌(オンライン)
- 3) 坂田智佳子 酒井禎子 石田和子(2020. 12) : 終末期がん患者の在宅療養移行を困難にする要因—看護師の視点から—, 第 40 回日本看護科学学会(オンライン)
- 4) 坂田智佳子 石田和子(2021. 2) : 語りから見る終末期がん患者の在宅療養移行支援に対する看護師の心理的苦悩, 第 35 回日本がん看護学会学術集会(オンライン)
- 5) 村上千秋 桶谷涼子 相澤達也 石田和子(2021. 2) : 終末期がん患者をケアする看護師のストレスおよび学習ニーズの検討—医療療養病床において—, 第 35 回日本がん看護学会学術集会(オンライン)
- 6) 佐藤充子 田口美代志 石田和子(2021. 2) : 新型コロナウイルス感染予防と向き合う訪問看護師とがん患者の現状, 第 35 回日本がん看護学会学術集会(オンライン)
- 7) 川田智美 石田和子(2021. 2) : 骨髄異形成症候群患者のコントロール感覚を高める要素, 第 35 回日本がん看護学会学術集会(オンライン)
- 8) Michiko Nakashima kazuko Ishida Junko Ishida Chiaki Ishihara(2021. 2) : An Educational Program Leading to Early-Detection of Breast Cancer for Female Nursing Students, ICCN (ロンドン (オンライン))
- 9) 酒井禎子, 相澤達也, 坂田智佳子, 樺澤三奈子, 石原千晶, 石岡幸恵, 小林綾子, 高橋絹代, 高柳智子, 石田和子(2021. 2) : 遠隔授業による「夜勤巡視演習」の取り組み, 第 25 回聖路加看護学会学術大会(オンライン)

5. その他の研究活動(1 件)

- 1) 小林綾子 樺澤三奈子 石岡幸恵 坂田智佳子 石田和子 : 新潟県民の食塩摂取量と簡易型自記式食事歴法質問票により把握される推定食塩摂取量との関連 —腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて—, 令和 2 年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会
- ・ 日本死の臨床研究会関東甲信越地区 役員
- ・ 群馬緩和医療研究会
- ・ JCAP (上越がんプロジェクト)
- ・ 新潟がん看護研究会

【社会活動】

- ・ 新潟県看護協会主催 緩和ケア研修会主催

- ・ 本庄児玉看護専門学校（2年）看護研究の基礎

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ，成人看護学演習，専門ゼミナールⅠ・Ⅱ，総合科目，ライフステージと看護，成人看護学実習

博士前期課程：看護学研究法，看護コンサルテーション論，病態生理学，臨床薬理学，がん看護学特論Ⅰ，がん看護学特論Ⅱ，がん看護学特論Ⅲ，がん看護学特別演習Ⅰ，がん看護学特別演習Ⅱ，がん治療看護介入演習Ⅰ，がん治療看護介入演習Ⅱ，がん高度実践看護学実習Ⅰ，がん高度実践看護学実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ，専門分野別課題研究，看護学領域別特別研究

博士後期課程：成人・がん看護学特論，看護学特別研究

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員長，教学委員会委員長，入試広報委員会委員

【外部資金獲得】

1) 石田和子(研究代表者)

石田順子 神田清子 石原千晶 相澤達也ほか(2017～2021)：がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価，科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 川田智美(研究代表者)

石田和子 佐藤充子(2019～2022)：がん化学療法患者の社会生活を支えるコントロール感覚獲得支援モデルの開発とその評価，科学研究費助成事業(基盤研究C)

3) 渡邊千春(研究代表者)

石田和子(2018～2022)：通院治療を継続する高齢独居がんサバイバーが持つ生活調整力の解明，科学研究費助成事業(基盤研究C)

4) 渡邊たつよ(研究代表者)

石田和子(2020～2022)：潰瘍性大腸炎患者のその人らしさを支える総合支援アセスメントモデルの開発とその検証，科学研究費助成事業(基盤研究C)

5) 石原千晶(研究代表者)

石田和子 石岡幸恵 相澤達也(2020～2022)：分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発，科学研究費助成事業(基盤研究C)

高柳智子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 結城真, 丸山和真, 八木美穂, 下村結花里, 高柳智子(2021.3): 心臓リハビリテーション外来に通院していない急性冠症候群患者の退院後の生活状況とその要因, 新潟県立看護大学紀要, 10, pp10 - 15(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 酒井禎子, 相澤達也, 坂田智佳子, 樺澤三奈子, 石原千晶, 石岡 幸恵, 小林 綾子, 高橋 絹代, 高柳智子, 石田 和子(2021.2): 遠隔授業による「夜勤巡視演習」の取り組み, 第25回聖路加看護学会学術大会(オンライン)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本リハビリテーション看護学会 査読委員
- ・ 日本看護研究学会 会員
- ・ 日本脳神経看護学会 会員
- ・ 日本老年看護学会 会員

【社会活動】

- ・ 上越教育大学 研究倫理審査委員
- ・ 上越地域消防事務組合情報公開・個人情報保護制度審議会委員
- ・ 新潟県立小千谷高等学校出前講義「看護職になるには」
- ・ 3次救急医療施設におけるNEWS活用の有効性についての検証

【学内教育活動】

学 部: ライフステージと看護, 成人看護学Ⅰ, 成人看護学Ⅱ, 成人看護学Ⅲ, 成人看護学Ⅳ, 看護倫理, 健康医療政策論, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: 看護学研究法

博士後期課程: 看護学研究法Ⅱ, 成人・がん看護学特論

【学内委員会等の活動】

FD 委員会委員長, 新カリキュラム検討委員会委員長, 教学委員会委員, 入試委員会委員, 新カリキュラム特別検討委員会委員

【外部資金獲得】

1) 高柳智子(研究代表者)

なし(2019~2022): 回復期脳卒中患者の病棟生活 21 時間の移乗を支える生活者目線の看護支援モデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 大庭重治(研究代表者)

葉石光一, 笠原芳隆, 八島猛, 佐藤将朗, 坂口嘉菜, 上野光博, 留目宏美, 池川茂樹, 境原三津夫, 大久保明子, 高柳智子, 永吉雅人(2020~2023): 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

酒井禎子

1. 原著論文(1件)

- 1) 高橋久美子、酒井禎子(2020.6)：慢性腎臓病（CKD）看護における外来・病棟・透析室の部署間連携の促進要因－CKD看護フローチャート作成過程を振り返って－，日本看護学会論文集：看護管理，50, pp51 - 54(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 坂田智佳子、酒井禎子、石田和子(2020.12)：終末期肺がん患者の在宅療養への移行を困難にする要因－看護師の視点から－，第40回日本看護科学学会学術集会(オンライン開催)
- 2) 酒井禎子、相澤達也、坂田智佳子、樺澤三奈子、石原千晶、石岡幸恵、小林綾子、高橋絹代、高柳智子、石田和子(2021.2)：遠隔授業による「夜勤巡視演習」の取り組み，第25回聖路加看護学会学術大会(オンライン開催)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本がん看護学会 代議員
- ・ 日本緩和医療学会 代議員、ELNEC-J WPG 員長
- ・ 日本死の臨床研究会 世話人
- ・ 聖路加看護学会
- ・ 日本在宅ケア学会
- ・ 日本老年看護学会
- ・ 日本死の臨床研究会関東甲信越支部 役員
- ・ 新潟看護ケア研究学会

【社会活動】

- ・ 上越地域人生の最終段階における医療・ケア協議会委員、実行委員会委員長
- ・ 新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院看護部特任教育コーディネーター
- ・ 金沢医科大学病院主催 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム講師
- ・ 新潟労災病院看護部教育研修「意思決定支援と多職種連携」「研究計画書作成の基礎知識」講師
- ・ 令和2年度新潟県立がんセンター新潟病院 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム講師
- ・ ELNEC-J コアカリキュラム指導者フォローアップ研修会ファシリテーター

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅰ，成人看護学Ⅱ，成人看護学Ⅲ，成人看護学演習，成人看護学実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習，看護倫理

博士前期課程：がん看護学特論Ⅰ，がん看護学特論Ⅱ，がん看護学特別演習Ⅰ，がん看護学特別演習Ⅲ，がん高度実践看護実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

博士後期課程：成人・がん看護学特論

【学内委員会等の活動】

倫理委員会委員長，学生委員会副委員長，国家試験対策・就職委員会委員，ハラスメント相談員

VSP サークル顧問, 国家試験対策セミナー, 研究倫理研修会, 研究推進委員会研修会

【外部資金獲得】

- 1) 酒井禎子(研究代表者) (2018～2020) : 化学放射線療法を行う高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデル構築, 科学研究費助成事業 (若手研究)
- 2) 本城由美(研究代表者)
山田雅子、中山和弘、酒井禎子、小高恵実、桃井雅子、相澤達也(2018～2022) : 実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究B)
- 3) 笹原朋代(研究代表者)
酒井禎子、水野道代(2017～2020) : 日本版エンド・オブライフ・ケアの提供に必要な看護師のコンピテンシーに関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

樺澤三奈子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(1件)

1) 樺澤三奈子(2021. 1) : 看護学テキスト NiCE がん看護 第VI章 緩和ケア 第3節 B. 倦怠感 (pp. 212-214) , 南江堂(東京)

4. 学会発表(2件)

1) 山岸美奈子, 樺澤三奈子(2020. 11) : 急性期看護に携わる臨床看護師が「患者に触れてわかること」の実態調査, 第40回日本看護科学学会学術集会(on-line)

2) 酒井禎子, 相澤達也, 坂田智佳子, 樺澤三奈子, 他6名(2021. 2) : 遠隔授業による「夜勤巡視演習」の取り組み, 第25回聖路加看護学会学術大会(on-line)

5. その他の研究活動(1件)

1) 小林綾子, 樺澤三奈子, 石岡幸恵, 坂田智佳子, 石田和子 : 新潟県民の食塩摂取量と簡易型自記式食事歴法質問票により把握される推定食塩摂取量との関連 -腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて-, 令和2年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 新潟県立中央病院内科病棟「臨地実習指導スキルアップ講習会」講師
- ・ 2020年度リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた in 新潟県立看護大学での「乳がんセルフチェック」動画教材作成・講師
- ・ 外来透析通院患者の透析治療継続における困難と取り組み(仮題)
- ・ 令和2年度看護職員確保・定着支援事業(新潟県糸魚川市)関係者意見交換会 アドバイザー

【学内教育活動】

学 部 : 成人看護学Ⅱ, 成人看護学Ⅲ, 成人看護学Ⅳ, 成人看護学演習, 成人看護学実習(慢性・回復期看護実習), 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習(成人看護学 がん看護・緩和ケア実習), 看護研究法

博士前期課程 : がん看護学特論Ⅰ, がん看護学特論Ⅱ, がん看護学特別演習Ⅱ, がん治療看護介入演習Ⅰ, がん治療看護介入演習Ⅱ, がん高度実践看護学実習Ⅰ, がん高度実践看護学実習Ⅲ, がん高度実践看護学実習Ⅳ, がん高度実践看護学実習Ⅴ, がん看護学特別演習Ⅲ

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会委員長, 教務委員会委員, 大学院入学委員会委員
学年担任, 国際交流セミナー(11/27)コーディネーター

【外部資金獲得】

1) 樺澤三奈子(研究代表者)

森 一恵(2017~2021) : 補助化学療法を受ける肺がん患者の倦怠感セルフマネジメント促進プログラムの臨床評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 大石ふみ子(研究代表者)

白鳥さつき, 葉山有香, 南 裕美, 樺澤 三奈子(2017~2020) : 化学療法を受ける乳がん患者の味覚障害に対する客観的評価を用いた看護援助の検討, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

小林綾子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(1件)
 - 1) 酒井禎子、相澤達也、坂田智佳子、樺澤三奈子、石原千晶、石岡幸恵、小林綾子、高橋絹代、高柳智子、石田和子(2021.2)：遠隔授業による「夜勤巡視演習」の取り組み，聖路加看護学会(東京(オンライン開催))
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 小林綾子 樺澤三奈子 石岡幸恵 坂田智佳子 石田和子：新潟県民の食塩摂取量と簡易型自記式食事歴法質問票により把握される推定食塩摂取量との関連 -腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて-，令和2年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 新潟県看護協会看護学会 学会委員長

【社会活動】

- ・ 新潟県看護協会 学会委員会 委員長
- ・ 新潟県看護協会 上越地区支部 看護師職能委員
- ・ 上越市食育推進会議 委員

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅲ, 成人看護学Ⅳ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, 看護研究法
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, 紀要委員会委員, ハラスメント防止特別委員会委員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員
学年担任, よさこいサークル顧問

【外部資金獲得】

なし

石原千晶

1. 原著論文(1 件)

- 1) 石原千晶, 大山ちあき, 村上千秋, 石田和子(2019. 5) : 医療療養型病院で終末期がん患者と関わる看護師が体験する困難, 新潟医学会雑誌, 133 巻第 5 号, pp205 - 214(査読有)

2. その他論文(1 件)

- 1) 相澤達也, 石原千晶, 塩谷幸祐, 石田和子, 境原三津夫(2021. 3) : 精神的問題を抱える人に対する馬介在療法の効果に関する文献検討, 新潟看護ケア研究学会誌, 第 7 巻, pp30 - 35(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(4 件)

- 1) 酒井禎子, 相澤達也, 坂田智佳子, 樺澤三奈子, 石原千晶, 石岡幸恵, 小林綾子, 高橋絹代, 高柳智子, 石田和子(2021. 1) : 遠隔授業における「夜勤巡視演習」の取り組み, 第 25 回聖路加看護学会学術大会(東京 (オンライン))
- 2) 中島通子, 石田和子, 石田順子, 石原千晶(2021. 2) : An Educational Program Leading to Early-Detection of Breast Cancer for Female Nursing Students, International Conference on Cancer Nursing(ロンドン (オンライン))
- 3) 石岡 幸恵, 横川 史穂子, 石原 千晶, 石田 和子(2020. 9) : 悪い知らせを伝えるインフォームドコンセントの意思決定に関する看護支援の現状と課題(第 1 報), 日本看護研究学会(札幌 (Web 開催))
- 4) 横川 史穂子, 石岡 幸恵, 石原 千晶, 石田 和子(2020. 9) : 悪い知らせを伝えるインフォームドコンセントの意思決定に関する看護支援の現状と課題(第 2 報), 日本看護研究学会(札幌 (Web 開催))

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本がん看護学会
- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 日本ストーマ・排泄プロモーション学会
- ・ 日本セーフティプロモーション学会
- ・ 群馬がん看護研究学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会
- ・ 新潟医学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部 : 成人看護学Ⅲ, 成人看護学Ⅳ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 災害看護活動論

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職員会委員, FD 委員会委員, 図書委員会委員

【外部資金獲得】

1) 石原千晶(研究代表者)

石田和子, 石岡幸恵, 相澤達也(2020～2023) : 分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 石田和子(研究代表者)

石田順子, 石岡幸恵, 神田清子, 石原千晶, 相澤達也(2017～2021) : がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

石岡 幸恵

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(3件)
 - 1) 石岡 幸恵, 横川 史穂子, 石原 千晶, 石田 和子(2020.9): 悪い知らせを伝えるインフォームドコンセントの意思決定に関する看護支援の現状と課題(第1報), 日本看護研究学会(札幌 (Web 開催))
 - 2) 横川 史穂子, 石岡 幸恵, 石原 千晶, 石田 和子(2020.9): 悪い知らせを伝えるインフォームドコンセントの意思決定に関する看護支援の現状と課題(第2報), 日本看護研究学会(札幌 (Web 開催))
 - 3) 酒井禎子, 相澤達也, 坂田智佳子, 樺澤三奈子, 石原千晶, 石岡幸恵, 小林綾子, 高橋絹代, 高柳智子, 石田和子(2021.2): 遠隔授業による「夜勤巡視演習」の取り組み, 第25回聖路加看護学会学術大会(オンライン開催)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 小林綾子 樺澤三奈子 石岡幸恵 坂田智佳子 石田和子: 新潟県民の食塩摂取量と簡易型自記式食事歴法質問票により把握される推定食塩摂取量との関連 -腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて-, 令和2年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 上越地域人選会議サポーター研修プログラム配信担当

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅳ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 看護倫理, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程：がん看護特別演習Ⅲ, がん高度実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

入試広報委員会委員, 実習委員会委員, 衛生委員会委員
ダンスサークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 石田和子(研究代表者)
石原千晶, 石岡幸恵(2017~2021): がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 石原千晶(研究代表者)
石田和子, 石岡幸恵, 相澤達也(2020~2022): “分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発”, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

相澤達也

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 相澤達也, 石原千晶, 塩谷幸祐, 石田和子, 境原三津夫(2021.3) : 精神的問題を抱える人に対する馬介在療法の効果に関する文献検討, 新潟看護ケア研究学会誌, 第7巻, pp30 - 35(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 酒井禎子, 相澤達也, 坂田智佳子, 樺澤三奈子, 石原千晶, 石岡幸恵, 小林綾子, 高橋絹代, 高柳智子, 石田和子(2021.2) : 遠隔授業による「夜勤巡視演習」の取り組み, 第25回聖路加看護学会学術大会(WEB開催)
- 2) 村上千秋 桶谷涼子 相澤達也 石田和子(2021.2) : 終末期がん患者をケアする看護師のストレスおよび学習ニーズの検討ー医療療養病床においてー, 第35回日本がん看護学会学術集会(オンライン)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会
- ・ 日本緩和医療学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会

【社会活動】

- ・ 3次救急医療施設における早期警告スコア (National Early Warning Score:NEWS) 活用の有効性についての検証

【学内教育活動】

学 部 : 成人看護学IV, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習 (成人看護学), 専門ゼミナールI, 専門ゼミナールII

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員
屋外球技サークル顧問

【外部資金獲得】

1) 石田和子(研究代表者)

石田順子, 石岡幸恵, 神田清子, 石原千晶, 相澤達也(2017~2021) : がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 本城由美 (佐居由美) (研究代表者)

山田雅子, 中山和弘, 酒井禎子, 小高恵実, 桃井雅子, 相澤達也(2018~2023) : 実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

3) 石原千晶(研究代表者)

石岡幸恵, 石田和子, 相澤達也(2020~2023) : 分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

高橋 絹代

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 高橋絹代, 小野元, 古川博之, 江川裕人(2020.7): 臓器提供可能医療機関の院内コーディネーター状況調査報告, 移植, 55(2), pp119-124(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3件)

- 1) 高橋絹代(2020.11): 県の移植コーディネーターとして、ドナーコーディネーターとして, 移植学会 市民公開講座(秋田県 WEB開催)
- 2) 高橋絹代(2021.2): 臓器提供の本人意思を活かす代理意思決定に関わる2つのポイント, 日本臨床腎移植学会(茨木県 WEB開催)
- 3) 酒井禎子, 相澤達也, 坂田智佳子, 樺澤三奈子, 石原千晶, 石岡幸恵, 小林綾子, 高橋絹代, 高柳智子, 石田和子(2021.2): 遠隔授業による「夜勤巡視演習」の取り組み, 第25回聖路加看護学会学術大会(WEB開催)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本移植学会 代議員
- ・ 日本臨床腎移植学会
- ・ 第56回日本移植学会オンライン総会 「移植コーディネーター」座長
- ・ 日本臨床腎移植学会 メディカルスタッフ優秀賞 審査委員

【社会活動】

- ・ 富山県高岡看護専門学校 「医療概論・移植医療」講師
- ・ 公益財団法人富山県移植推進財団「脳死下臓器提供に関する関連団体の連絡会議」講演
- ・ 富山大学医学部看護学科 「高度先端医療と看護」12/1 12/22 講義
- ・ 富山県警察本部 「移植医療と警察の連携」講義
- ・ 東京歯科大学市川総合病院「千葉県移植医療講演会」講演
- ・ 新型コロナ対策 段ボール製カバーの開発に協力

【学内教育活動】

学 部: 成人看護学実習 急性期看護, 専門ゼミナールII

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

入試広報委員会委員

【外部資金獲得】

なし

坂田智佳子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(3件)
 - 1) 坂田智佳子、酒井禎子、石田和子(2020.12)：終末期がん患者の在宅療養への移行を困難にする要因—看護師の視点から—，第40回日本看護科学学会学術集会(東京)
 - 2) 酒井禎子、相澤達也、坂田智佳子、樺澤三奈子、石原千晶、石岡幸恵、小林綾子、高橋絹代、高柳智子、石田和子(2021.2)：遠隔授業による「夜勤巡視演習」の取り組み，第25回聖路加看護学会学術大会(東京)
 - 3) 坂田智佳子、石田和子(2021.2)：語りからみる終末期がん患者の在宅療養移行支援に対する看護師の心理的苦悩，第35回日本がん看護学会学術集会(兵庫)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 小林綾子 樺澤三奈子 石岡幸恵 坂田智佳子 石田和子：新潟県民の食塩摂取量と簡易型自記式食事歴法質問票により把握される推定食塩摂取量との関連—腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて—，令和2年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会 会員
- ・ 日本農村医学会 会員
- ・ 日本看護科学学会 会員

【社会活動】

- ・ JCAP 上越がんプロジェクト
- ・ 上越地域人生会議サポーター研修 運営協力

【学内教育活動】

学 部：成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

【外部資金獲得】

なし

大久保明子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 大久保明子(2020.10) : 障害児と共に生きる親への支援—仏教の教えと仏教看護の視点から—, 仏教看護・ビハーラ, 第15号, pp2 - 14(査読無)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 塚原美穂, 大久保明子(2020.9) : 小児がん患児のきょうだい支援の内容と課題に関する国内文献の検討, 日本小児看護学会第30回学術集会(Web開催)
- 2) 大久保明子, 野口裕子(2020.12) : 学童・思春期にある医療的ケアを必要とする児を養育する母親の支援ニーズ, 日本看護科学学会 第40回学術集会(Web開催)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 仏教看護・ビハーラ学会 理事・編集委員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本小児看護学会 会員
- ・ 日本小児がん看護学会 会員
- ・ 日本家族看護学会 会員
- ・ 日本がん看護学会 会員
- ・ 日本小児保健協会 会員
- ・ 日本臨床死生学会 会員
- ・ 日本死の臨床研究会 会員
- ・ 新潟小児看護研究会 役員

【社会活動】

- ・ 新潟県立上越特別支援学校 学校評議員
- ・ 高等教育コンソーシアムにいがた 看護系大学タスクフォース幹事校担当者
- ・ 看護研究交流センター出前講座「自分のからだ・健康・いのちについて考えてみよう！」上越市立吉川中学校
- ・ 令和2年度療育支援事業部会 研修会講師
- ・ わかばの会(子どもを亡くした遺族の会)
- ・ いのちを語る会(子どもを亡くした遺族の会)
- ・ 重心・医ケア児の地域生活を考える会

【学内教育活動】

学 部 : ライフステージと看護, 小児看護学Ⅰ, 小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程 : 看護研究法, 看護学領域別特別研究

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員長, 入学委員長副委員長, 教務委員会委員, 実習委員会委員, 新カリキュラム検討委員会委員

いちょう食堂スタッフサークル、100 km徒歩サークルサークル顧問

【外部資金獲得】

1) 1 大庭重治(研究代表者)

葉石光一, 笠原芳隆, 八島猛, 佐藤将朗, 坂口嘉菜, 上野光博, 留目宏美, 池川茂樹, 境原三津夫, 大久保明子, 高柳智子, 永吉雅人(2020～2022) : 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

2) 2 稲垣応顕(研究代表者)

アントン・セベリア, 坂井祐円, 大久保明子, 得丸定子, 西平直, 小西達也(2020～2022) : 「いのち教育」の理論とその実践方法に関する臨床教育学的考察, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

山田 恵子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(1件)
 - 1) 山田 恵子(2020.8)：ゴールドメソッドを取り入れた小児看護学実習指導の一考察，日本医療教授システム学会(ZOOM)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本救急看護学会
- ・ 第22回日本救急看護学会学術集会 ファーストエイド委員会交流集会シンポジスト
- ・ 第22回日本救急看護学会学術集会 査読

【社会活動】

- ・ 愛知県私立保育園連盟研修会「子どもの“いのち”を守るために」講師
- ・ 愛知県半田市保育園・こども園看護師・保育士研修「保育施設における乳幼児の危機管理」講師
- ・ グリーフサポートあいちこどもの森監事
- ・ 全国訪問ボランティアナースの会キャンパス
- ・ 長久手いのちの学校プロジェクト実行委員会
- ・ 子どもの自殺を考える会

【学内教育活動】

学 部：小児看護学Ⅱ, 小児看護学実習, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国試・就職委員会委員, 先駆的学習支援部門委員

【外部資金獲得】

なし

野澤祥子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本小児看護学会
- ・ 日本小児保健協会
- ・ 日本成人先天性心疾患学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：小児看護学Ⅱ, 小児看護学実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター看護職学習支援部門員

【外部資金獲得】

- 1) 野澤祥子(研究代表者)(2018～2023)：成人先天性心疾患患者のための相互補完型の教育を応用した就労支援モデルの開発，科学研究費助成事業（若手研究）

伊藤ひかる

1. 原著論文(1件)

- 1) 伊藤ひかる, 田口玲子, 長谷川雅美(2021.3): スタッフナースの主観的世界から捉える病棟看護師チームのレジリエンス, 看護実践学会誌, 33(2), pp31-42(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 伊藤ひかる, 田口玲子, 長谷川雅美(2020.12): スタッフナースの主観的世界から捉える病棟看護師チームのレジリエンス, 第40回日本看護科学学会学術集会(オンライン)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本小児看護学会 会員
- ・ 日本看護歴史学会 会員
- ・ 看護実践学会 会員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部: 小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター看護職学習支援部門員

学年担任

【外部資金獲得】

なし

小林 宏至

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

1) 小林宏至, 水澤香澄, 北村千章(2020.5) : Family Centered Care による母親の心情の変化, 日本新生児看護学会誌, 26, pp25 - 31(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

1) 田中美央, S. P. K. J. Subasinghe, 小林宏至, 和田雅樹(2021.2) : A 県内 NICU 退院支援担当者の退院実践に関する報告, 第 25 回聖路加看護学会学術集会(Web 開催)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

・ 新潟小児看護研究会 会員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部 : 小児看護学演習, 総合実習, 小児看護学実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

中島通子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 上田恵 中島通子 西田絵美(2021.3) : レズビアンカップルが子どもをもつことに関する文献レビュー, 新潟県立看護大学紀要, 10 巻, pp1 - 9(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 中島通子 石田和子 石原千晶 石田順子(2021.2) : AN EDUCATIONAL PROGRAM LEADING TO EARLY-DETECTION OF BREAST CANCER FOR FEMALE NURSING STUDENTS, ICCN 2021 International Conference on Cancer Nursing, 世界がん看護学会(イギリス)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ この頃思うこと 図書館だより
- ・ 未熟児を育てる母親の FFC への思い

【学内教育活動】

学 部 : 母性看護学Ⅰ, 母性看護学Ⅱ, 母性看護学演習, 人間社会と倫理, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 母性看護学実習, ライフステージと看護

博士前期課程 : 看護学研究法, 母性看護学特論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学特別演習, 領域別特別研究 6 単位

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

教務委員会委員長, 研究科委員会委員, 看護交流センター委員, 遠隔授業特別委員会委員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員

【外部資金獲得】

なし

西田絵美

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

1) 上田恵、中島通子、西田絵美(2021.3)：レズビアンカップルが子どもをもつことに関する文献レビュー，新潟県立看護大学紀要，10, pp1 - 9(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 県内看護職を対象にした学習支援ニーズに関する調査
- ・ 在胎週数 25 週未満で出生した児を受け持つ母親のニード

【学内教育活動】

学 部：妊娠期助産診断・技術学, 分娩期・助産診断技術学, 産褥・新生児期助産診断・技術学, 助産技術学演習, 助産管理学, 助産学実習, 助産学概論, ウイメンズヘルス, 地域母子保健, 母性看護学Ⅱ, 母性看護学実習, 家族看護論, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習
博士前期課程：母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学特別演習
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

教務委員会委員, 入試・広報委員会委員, 国際交流委員会委員, 新カリキュラム検討委員会委員, 助産学履修選考委員会委員, 研究科委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門長

【外部資金獲得】

なし

杉山泰子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

1) 杉山泰子、境原三津夫(2020.10) : 性暴力被害事件における新聞報道と二次加害, 日本セーフティプロモーション学会誌, 13巻2号, pp37 - 42(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本母性衛生学会 (会員)
- ・ 日本周産期メンタルヘルス学会 (会員)
- ・ 日本助産学会 (会員)
- ・ 日本看護研究学会 (会員)
- ・ 日本看護科学学会 (会員)
- ・ 日本フォレンジック看護学会 (会員)
- ・ 日本セーフティプロモーション学会 (会員)
- ・ 日本母乳の会 (会員)
- ・ 三重母性衛生学会 (会員)
- ・ 三重看護研究会 (会員)

【社会活動】

- ・ 津市立美杉橋北中学校 思春期ライフプラン教育事業講師
- ・ 津市立南郊中学校 思春期ライフプラン教育事業講師
- ・ 津市立一志中学校 思春期ライフプラン教育事業講師
- ・ 岸和田市立朝陽小学校 思春期ライフプラン教育事業講師
- ・ 令和3年度県民参加型予算「みんなでつくるか みえの予算」(みんつく予算2021) 事業提案

【学内教育活動】

学 部 : 母性看護学Ⅱ, ウィメンズヘルス, 地域母子保健, 妊娠期助産診断技術学, 分娩期助産診断技術学, 産褥
・ 新生児期助産診断技術学, 助産技術学演習, 母性看護学実習, 助産学実習, 総合実習, 専門ゼミナール
Ⅰ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員, 国家試験・就職委員会委員
学年担任

【外部資金獲得】

なし

上田恵

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(1件)
 - 1) 上田恵、中島通子、西田絵美(2021.3)：レズビアンカップルが子どもをもつことに関する文献レビュー，新潟県立看護大学紀要，10, pp1 - 9(査読有)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：助産学実習, 総合実習, 母性看護学実習, 母性看護学演習, 助産技術学演習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター看護職学習支援部門員

【外部資金獲得】

なし

小野幸子

1. 原著論文(1件)

- 1) 大池真樹, 武田淳子, 小野幸子, 大塚真理子(2021.3): 青年期にある小児がんサバイバーのセルフケアと青年期に至るまでの病気体験並びにセルフケアの積み重ね, 小児保健研究, 80巻, 第1号, pp29 - 37(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(4件)

- 1) 島田玲児, 原等子, 河原畑尚美, 小野幸子(2020.6): 主介護者が公正証書に基づき推定した認知症高齢者の意思とその判断根拠, 認知症ケア学会(仙台市 (ON Line))
- 2) 島田玲児, 原等子, 河原畑尚美, 小野幸子(2020.6): 主介護者による「認知症高齢者の意思」の推定とその判断根拠, 日本老年看護学会(島根県 (誌上開催))
- 3) 真柄予右子, 河原畑尚美, 小野幸子(2020.8): A 地域医療施設の看護師が独居高齢者の自宅退院の可能性を判断する根拠-病棟看護師長の視点に焦点を当てて-, 日本看護管理学会(石川県 (ON Line))
- 4) 坪井桂子, 秋定真有, 岸上弥栄美, 山崎尚美, 小野幸子(2020.12): 高齢者ケア施設の新任期看護師の教育を担う看護職が活用可能な教育支援モデルの構成要素の検討, 日本看護科学学会(東京 (ON Line))

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本老年看護学会 代議員
- ・ 北日本看護学会
- ・ 千葉看護学会

【社会活動】

- ・ 上越市情報公開・個人情報保護制度等審議会委員
- ・ 新潟県厚生農業協同組合連合会上越総合病院看護師の特定医行為研修管理委員
- ・ つまり地域多職種連携セミナー企画・運営委員
- ・ 県内看護職の本学看護研究交流センターに望む看護職学習支援
- ・ 高齢患者の終末期における治療と人工栄養に関する意思決定支援の現状と課題-地域包括ケア病棟に勤務する看護師に焦点を当てて-
- ・ 地域課題研究: 三次救急病院に入院する高齢者に生じる倫理問題に介入する老人看護専門看護師の活動(共同研究者)
- ・ 地域課題研究: 東條助教と大口助教が学内共同研究者になっているに地域課題研究について、各々スーパーバイズ

【学内教育活動】

学 部: 人間社会と倫理, 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程: 看護学研究法, 老年看護学特論Ⅰ, 老年看護学特論Ⅱ, 老年看護学特論Ⅲ, 老年高度看護援助論Ⅰ, 老年高度看護援助論Ⅱ, 老年看護学特別演習Ⅰ, 老年看護学特別演習Ⅱ, 老年看護学特別演習Ⅲ, 老年高度実践看護学実習Ⅰ, 老年高度実践看護学実習Ⅱ, 老年高度実践看護学実習Ⅲ, 看護学領域別特別研究, 専門分野別課題研究

博士後期課程: 老年看護学特論, 看護学特別研究

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター委員長, FD委員会委員, 教学委員会委員, 入学委員会委員, 自己点検評価委員会委員, 教育研究審議会, 経営審議会委員, 看護研究交流センター特別研究部門長
大学院入試説明会における「修了生からのメッセージ」の発表者のコーディネーター

【外部資金獲得】

1) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美、原等子、大倉由貴、大口洋子、東條紀子、坪井桂子、山崎尚美(2018～2021)：看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 河原畑尚美(研究代表者)

小野幸子(2019～2021)：看護基礎教育における高齢者のケア倫理教育プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

3) 大口洋子(研究代表者)

河原畑尚美, 小野幸子(2020～2022)：豪雪地域に暮らす後期高齢者のストレングスを活かした自助・互助のあり方, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

4) 沢田淳子(研究代表者)

中山綾子, 小野幸子(2020～2023)：特別養護老人ホームにおけるWEB併用ケア管理教育プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

原等子

1. 原著論文(1 件)

- 1) 永井邦明, 川崎一平, 原田瞬, 江口恭子, 荏山和生, 原等子, 武地一, 小川敬之(2021. 3) : 認知症の人と共生する社会の実現に向けた「認知症サポーター養成講座」の在り方に関する研究～地域で働く人がもつ認知症のイメージに関する実態調査から～, 日本認知症予防学会誌, 10 (2) , pp14 - 20(査読有)

2. その他論文(1 件)

- 1) 原等子(2021. 3) : 認知症高齢者の気持ちを理解した接し方 認知症高齢者の思いを考え, 不安を軽減する接し方, 臨床老年看護, 28 (2) , pp8 - 15(査読無)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(8 件)

- 1) 島田玲児, 原等子, 河原畑尚美, 小野幸子(2020. 6) : 主介護者が公正証書に基づき推定した認知症高齢者の意思とその判断根拠, 第 21 回日本認知症ケア学会(Web (仙台))
- 2) 原等子, 江口恭子, 小川敬之, 荏山和生, 尾之内直美, 秋田谷一, 青山拓夢, 杉山孝博, 武地一(2020. 6) : 認知症にかかわるケアに関する認識の看護師と多職種との比較 認知症の支援者の調査から, 日本老年看護学会第 25 回学術集会(Web (島根))
- 3) 江口恭子, 原等子, 小川敬之, 荏山和生, 尾之内直美, 秋田谷一, 杉山孝博, 武地一(2020. 6) : 認知症の人と家族の暮らしに関する調査, 日本老年看護学会第 25 回学術集会(web(島根))
- 4) 島田玲児, 原等子, 河原畑尚美, 小野幸子(2020. 6) : 主介護者による「認知症高齢者の意思」の推定とその判断根拠, 日本老年看護学会第 25 回学術集会(web(島根))
- 5) 荏山和生, 武地一, 原等子, 江口恭子, 小川敬之(2020. 9) : 認知症本人の言葉による診断前後の心理面と生活面の変化～認知症の人と家族の会による認知症本人調査への協力から～, 第 54 回日本作業療法士学会(Web)
- 6) 小川敬之, 原等子, 荏山和生, 江口恭子, 武地一(2020. 9) : 一般市民を対象にした認知症のイメージ調査—アンケート調査を通して—, 第 54 回日本作業療法士学会(Web)
- 7) Naoko Hara, Atsushi Onodera, Eriko Okuyama, Reiko Nishino, matsuyo Kamada, Sanae Umehara, Kahoru Nagasawa, Norio Uchiyama, Morio Suzuki, Masatoshi Tsudome, Kazuo Miyanaga(2020. 12) : Impact of proposals by Liaison Committee among Dementia Stakeholders and Supporters Groups in Japan for the realization of a friendly society where people can live alongside "Dementia, The 34th International Conference of Alzheimer's Disease International ; Poster presentation(Web (Singapore))
- 8) Naoko Hara, Atsushi Onodera, Kazuo Miyanaga, Masatoshi Tsudome, Kahoru Nagasawa, Morio Suzuki, Sanae Umehara, Eriko Okuyama, Reiko Nishino, Nobuo Uchiyama, Matsuyo Kamada(2020. 12) : The Hopes of People with Dementia and Their Families in Japan during the COVID-19 Pandemic, The 34th International Conference of Alzheimer's Disease International ; Poster presentation(Web (Singapore))

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本認知症ケア学会
- ・ 日本老年看護学会
- ・ 日本看護協会日本看護学会 [在宅看護]
- ・ 日本認知症ケア学会事例ジャーナル
- ・ POTT プロジェクト

- ・ 日本老年社会科学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 新潟口腔ケア研究会

【社会活動】

- ・ 国土交通省移動円滑化等評価会議委員
- ・ 公共交通事業者等における認知症の人への接遇ガイドライン作成のための検討会委員（国土交通省）
- ・ 看護研究交流センター出前講座 板倉社協，認知症への対応を知りたい（初級編）（2/17，60分）
- ・ 認知症サポーター養成講座 上越市，上越市福祉交流プラザ（8/22，90分）
- ・ 看護研究交流センター出前講座 知命堂病院，認知症患者の対応の基本と応用-実践編-（9/17，90分）
- ・ 看護研究交流センター出前講座 板倉社協，認知症について知りたい(中級編)認知症についてもう少し深く知る 認知症を賢く恐れよう 認知症は怖くない!？，上越市板倉保健センター（11/2，60分）
- ・ 看護研究交流センター出前講座 大潟社協，認知症のこと知りたい(入門編)認知症の理解-認知症になっても安心して暮らすために，上越市大潟コミュニティプラザ（1/21，60分）
- ・ 看護研究交流センター出前講座 安塚社協，認知症のこと知りたい(入門編)認知症の理解-認知症になっても安心して暮らすために，上越市安塚コミュニティプラザ（3/16，90分）
- ・ Ethics Advisory Committee Report 2nd to “Attempts to CONTROL the END of life in people with dementia: Two-level approach to examine controversies (CONT-END)” (P. I. Jenny T. van der Steen, PhD, Netherlands), DL Willems, AD Dufner, T Wangmo, LCBrandt, N Hara, 25 February 2020 - 1 December 2020.
- ・ 公共交通事業者に向けた接遇ガイドライン（認知症の人編），公共交通事業者等における認知症の人への接遇ガイドライン作成のための検討会，国土交通省総合政策局安心生活政策課，2021. 2.
- ・ 認知症の人と家族の思いをより深く知りたいあなたへ，公益社団法人認知症の人と家族の会 老人保健健康増進等事業調査研究委員会，2020. 12.
- ・ 認知症の人と家族の思いやその状況に関する実態調査をふまえた支援のあり方に関する調査研究事業報告書（令和2年度老人保険事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業），公益社団法人認知症の人と家族の会 老人保健事業推進等事業調査研究委員会，2021. 3.
- ・ 認知症に関する国際交流プラットフォーム構築のあり方に関する調査研究事業報告書（令和2年度老人保険事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業），公益社団法人認知症の人と家族の会 認知症に関する国際交流プラットフォームのあり方に関する調査研究事業委員会，2021. 3.
- ・ 新型コロナウイルス感染症と人とのつながりを考える，公益社団法人認知症の人と家族の会新潟県支部，越佐「ぼ～れば～れ」通算 478 号付録，2020. 5.
- ・ 認知症の人と家族の生活を解く，ぼ～れば～れ，公益社団法人認知症の人と家族の会，(480)，2020. 7. 認知症にかかわる支援者が考える認知症の人と家族の生活，ぼ～れば～れ，公益社団法人認知症の人と家族の会，(482)，2020. 9.
- ・ 認知症の人の人生の最終段階にかかわる意思決定を支える，ぼ～れば～れ，公益社団法人認知症の人と家族の会，(487)，2021. 2.
- ・ 地球家族パートⅡオーストラリアからコロナ禍の面会，ぼ～れば～れ，公益社団法人認知症の人と家族の会，(488)，2021. 3.
- ・ 公益社団法人認知症の人と家族の会 常任理事
- ・ Web 番組「認知症にかかわるすべての人に安心を届けたい」番組動画編集(統括)，認知症関係当事者・支援者連絡会議，YouTube，2020. 5～2021. 3.
 - Vol.1 参加4団体による討論会(認知症関係当事者・支援者連絡会議)(2020. 5. 25 公開)
 - Vol.2 認知症の人とともにコロナの時代を生きる(認知症の人と家族の会)(出演)(2020. 6. 1 公開)
 - Vol.5 まるわかり「レビー小体病」-レビー小体型認知症をご存知ですか 第1回(レビー小体型認知症サポートネットワーク東京)(2020. 6. 22 公開)
 - Vol.6 厚生労働省老健局令和2年6月1日付「新型コロナウイルス感染症に係る介護サービス事業所の人員基準等の臨時的な取扱いについて」への緊急意見(認知症関係当事者・支援者連絡会議)(2020. 6. 29 公開)

- Vol.7 コロナ禍における認知症の人と家族の会の支部の取り組み 京都府支部(認知症の人と家族の会)(2020.7.6公開)
- Vol.10 まるわかり「レビー小体病」-レビー小体型認知症をご存知ですか 第2回(レビー小体型認知症サポートネットワーク東京)(2020.7.27公開)
- Vol.11 コロナ禍における認知症の人と家族の会の支部の取り組み 東京都支部(認知症の人と家族の会)(2020.8.3公開)
- Vol.14 まるわかり「レビー小体病」-レビー小体型認知症をご存知ですか 第3回(レビー小体型認知症サポートネットワーク東京)(2020.8.24公開)
- Vol.16 オレンジサロン 石蔵カフェでの活動 栃木県支部(認知症の人と家族の会)(2020.9.7公開)
- Vol.11 コロナ禍における認知症の人と家族の会の支部の取り組み 東京都支部(認知症の人と家族の会)(2020.8.3公開)
- Vol.19 まるわかり「レビー小体病」-レビー小体型認知症をご存知ですか 第4回 地域医療, DLB ケアのポイント, 施設ケアなど(レビー小体型認知症サポートネットワーク東京)(2020.9.28公開)
- Vol.20 やっぱり、直にふれあいたい”。デイ・ショートの特例措置・面会制限・“つどい”の今 滋賀県支部(認知症の人と家族の会)(2020.10.5公開)
- Vol.23 まるわかり「レビー小体病」-レビー小体型認知症をご存知ですか 第5回 質問への回答(レビー小体型認知症サポートネットワーク東京)(2020.10.26公開)
- Vol.24 認知症でつながるひろがる本人交流会「あいの会」から “今がいちばんといえる幸せを求めて” 徳島県支部(認知症の人と家族の会)(2020.11.2公開)
- Vol.27 全国の「エリア」代表からのメッセージ、活動フリートーク(レビー小体型認知症サポートネットワーク東京)(2020.11.23公開)
- Vol.28 緊急座談会 第3波コロナ禍でも認知症の人と家族が安心して暮らすために(認知症関係当事者・支援者連絡会議)(2020.11.30公開)
- Vol.29 コロナ禍における支部活動 座談会 神奈川県支部(認知症の人と家族の会)(2020.12.7公開)
- Vol.32 ひとりで抱え込まない、レビー小体型認知症 交流会で相談の多かった内容に答えて(レビー小体型認知症サポートネットワーク京都)(2020.12.28公開)
- Vol.33 結成41年目の認知症の人と家族の会の活動 新型コロナウイルス感染症とともに(認知症の人と家族の会)(2021.1.4公開)
- Vol.36 ひとりで抱え込まない、レビー小体型認知症 交流会で相談の多かった内容に答えて 薬剤過敏性, 社会資源の活用(レビー小体型認知症サポートネットワーク京都)(2021.1.25公開)
- Vol.40 一人で抱え込まない、レビー小体型認知症 交流会で相談の多かった内容に答えて レビー小体型認知症の幻視, レビー小体型認知症の変動する症状のケア(レビー小体型認知症サポートネットワーク京都)(2021.2.22公開)
- Vol.44 一人で抱え込まない、レビー小体型認知症 交流会で相談の多かった内容に答えて レビー小体型認知症と睡眠(レビー小体型認知症サポートネットワーク京都)(2021.3.22公開)
- Vol.45 認知症にかかわるすべての人に安心を届けたい 2020年度の活動とこれから(認知症関係当事者・支援者連絡会議)(出演)(2021.3.29公開)
- ・ 「レビー小体型認知症サポートネットワーク全国交流会 2020」研修会動画編集, レビー小体型認知症サポートネットワーク, YouTube, 2020.11.14.
 - ①団体・活動紹介 在宅医療連携 当事者の思い
 - ②内門大丈 基本とケア 在宅医療と他職種連携 Q&A つき
 - ③平みきさんインタビューQ&A つき

【学内教育活動】

学 部：ライフステージと看護, 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：フィジカルアセスメント, 老年看護学特論Ⅰ, 老年看護学特論Ⅱ, 老年高度実践看護援助論Ⅰ, 老年看護特別演習Ⅰ, 老年看護特別演習Ⅱ, 老年看護特別演習Ⅲ, 専門分野別課題研究

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

紀要委員会副委員長, 教務委員会委員, 学生委員会委員, 国家試験対策・就職委員会委員, 新カリキュラム検討委員会委員

認知症オレンジサークル顧問

【外部資金獲得】

1) 武地一(研究代表者)

原等子, 苅山和生, 江口恭子, 小川敬之(2020~2023) : 認知症の人と家族の思いやその状況に関する実態調査をふまえた支援のあり方に関する調査研究事業, 令和2年度老人保健健康増進等事業

2) 川井元晴(研究代表者)

鈴木森夫, 鎌田松代, 中野篤子, 原等子, 鷺巣典代, 堀部賢太郎, 新藤由美, 栗田俊一郎, 河野結, 栗野悠希, 金子智紀(2020~2020) : 認知症に関する国際交流プラットフォーム構築のあり方に関する調査研究事業, 令和2年度老人保健健康増進等事業

3) 上原喜美子(研究代表者)

加藤公則, 原等子, 中村圭子, 帆苅真由美(2020~2023) : 中山間地在宅高齢2型糖尿病患者の治療実態の改善に向けた新たなシステムの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

4) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美, 原等子, 大倉由貴, 大口洋子, 東條紀子, 坪井桂子, 山崎尚美(2018~2021) : 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

河原畑 尚美

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(3件)
 - 1) 真柄予右子 河原畑尚美 小野幸子(2020.8) : A 地域医療施設の看護師が独居高齢者の自宅退院の可能性を判断する根拠—病棟看護師長の視点に焦点を当てて—, 第24回 日本看護管理学会学術集会(石川県(金沢) WEB)
 - 2) 島田玲児, 原等子, 河原畑尚美, 小野幸子(2020.6) : 主介護者が公正証書に基づき推定した認知症高齢者の意思とその判断根拠, 第21回日本認知症ケア学会(Web(仙台))
 - 3) 島田玲児, 原等子, 河原畑尚美, 小野幸子(2020.6) : 主介護者による「認知症高齢者の意思」の推定とその判断根拠, 日本老年看護学会第25回学術集会(web(島根))
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本老年看護学会 会員
- ・ 日本看護学教育学会 会員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本死の臨床研究会 会員
- ・ 日本災害看護学会 会員
- ・ 北日本看護学会 会員
- ・ 日本感染看護学会 会員
- ・ 日本循環器看護学会 会員
- ・ 日本認知症ケア学会 会員
- ・ 大学病院の緩和ケアを考える会 会員
- ・ 日本公衆衛生看護学会 会員
- ・ 日本看護管理学会 会員

【社会活動】

- ・ 上越地域医療対策協議会救急医療・災害時医療専門部会委員
- ・ 上越市地域包括支援センター運営協議会委員
- ・ 上越市高齢者見守り支援ネットワーク会議委員
- ・ 一般社団法人日本看護系大学協議会災害連携教員
- ・ 新潟中央高校出前講義「大学で看護学を学ぶということ」講師
- ・ 2020年度新潟県看護協会看護学会論文指導者
- ・ つまり地域多職種協働セミナー, 企画委員
- ・ 令和2年度 上越地域看護研究発表会 実行委員

【学内教育活動】

学 部 : 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, 災害看護活動論, 看護研究法
博士前期課程 : 老年看護学特論Ⅰ, 老年看護学特論Ⅱ, 老年高度看護援助論Ⅰ, 老年高度看護援助論Ⅱ, 老年看護学特別演習Ⅰ, 老年看護学特別演習Ⅲ, 老年看護学特別研究

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会副委員長, 実習委員会副委員長, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員
学年担任

【外部資金獲得】

1) 河原畑尚美(研究代表者)

小野幸子 (2018～2021) : 看護基礎教育における高齢者のケア倫理教育プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美 原等子 大口洋子 東條紀子 大倉由貴 坪井桂子 山崎尚美 (2018～2021) : 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

3) 大口洋子(研究代表者)

小野幸子 河原畑尚美(2020～2022) : 豪雪地域に暮らす後期高齢者のストレングスを活かした自助・互助のありかた, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

大口洋子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本老年看護学会
- ・ 日本認知症ケア学会
- ・ 日ルーラルナーシング学会
- ・ 日本災害看護学会
- ・ 看護実践学会

【社会活動】

- ・ 新潟県中魚沼郡津南町立津南病院運営審議会 委員
- ・ 公益社団法人 認知症の人と家族の会
- ・ 公益財団法人 新潟県看護協会
- ・ CAP・じょうえつ
- ・ NPO 法人 女のスペース・ながおか
- ・ 新潟県認知症ケア専門士会

【学内教育活動】

学 部：老年看護学Ⅱ, 精神看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

ハラスメント防止特別委員会委員, 災害時看護支援特別委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 小野幸子(研究代表者)
河原畑尚美, 原等子, 大口洋子, 東條紀子, 大倉由貴(2018～2021)：看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 大口洋子(研究代表者)
小野幸子, 河原畑尚美(2020～2022)：豪雪地域に暮らす後期高齢者のストレングスを活かした自助・互助のあり方, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

東條 紀子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 東條紀子, 前川絵里子(2021.3): 難病患者のQOLを測定する尺度に関する文献レビュー, 日本難病看護学会誌, 25(3), pp331-342(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 東條紀子, 川野英子(2020.9): 在宅看護学実習における訪問看護師の終末期ケアの実習指導に対する信条, 日本看護学教育学会(オンライン開催)
2) 川野英子, 東條紀子(2020.6): 訪問看護師から見た終末期ケアに関する実習時の学修評価, 日本在宅ケア学会(オンライン開催)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護学教育学会 (会員)
- ・ 日本老年看護学会 (会員)
- ・ 日本在宅ケア学会 (会員)
- ・ 日本難病看護学会 (会員)
- ・ 日本看護研究学会 (会員)

【社会活動】

- ・ 救急外来における入院せず帰宅する患者に対する救急外来看護師による指導の現状

【学内教育活動】

学 部: 総合実習, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学Ⅰ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

入試広報委員会委員, 学生委員会委員

学年担任

【外部資金獲得】

- 1) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美, 原等子, 大口洋子, 大倉由貴, 東條紀子(2018~2021): 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

長谷川雅美

1. 原著論文(3件)

- 1) 小瀬古 伸幸, 長谷川 雅美, 田中 浩二, 進 あすか, 木下 将太郎 (2020.6): WRAP (Wellness Recovery Action Plan) の視点を取り入れた看護計画に基づく精神科訪問看護の効果: 予備的研究, 日本精神保健看護学会誌, 29 (1), pp23 - 32(査読有)
- 2) 高橋葉子, 田中美恵子, 阿部幹佳, 山内典子, 内野小百合, 異儀田はづき, 澤口利絵, 小松容子, 小山達也, 濱田由紀, 嵐弘美, 飯塚あつ子, 長谷川雅美, 近澤範子(2020.6): 東日本大震災における精神科看護師の体験, 日本精神保健看護学会誌, 29 (1), pp1 - 12(査読有)
- 3) 伊藤ひかる, 田口玲子, 長谷川雅美(2021.3): スタッフナースの主観的世界から捉える病棟看護師チームのレジリエンス, 看護実践学会誌, 33 (2), pp31 - 42(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(2件)

- 1) 長谷川雅美(2020.9): 自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード第3版, 日総研出版(大阪)
- 2) 宇佐美しおり, 岡田佳詠, 香月富士日, 河野佐代子, 小坂橋喜久代, 小高恵実, 佐藤寧子, 玉木敦子, 野末聖香, 長谷川雅美(2020.7): うつ病治療ガイドライン、うつ病看護ガイドライン 高齢者のうつ病看護, 日本うつ病学会(東京)

4. 学会発表(5件)

- 1) 長谷川雅美, 安達寛人(2021.1): 病相反復を抱えながら職業継続に至っている双極性障害者のレジリエンス 獲得の様相, 日本うつ病学会(福岡)
- 2) 長谷川雅美(2021.1): 精神看護専門職としてのキャリア開発, 日本うつ病学会(福岡)
- 3) 野末聖香, 杉山暢宏, 長谷川雅美(2021.1): 日本うつ病学会「うつ病看護ガイドライン」(その1), 日本うつ病学会(福岡)
- 4) 野末聖香, 杉山暢宏, 長谷川雅美(2021.1): 日本うつ病学会「うつ病看護ガイドライン」(その2), 日本うつ病学会(福岡)
- 5) 伊藤ひかる, 田口玲子, 長谷川雅美(2020.12): スタッフナースの主観的世界から捉える病棟看護師チームのレジリエンス, 日本看護科学学会(東京)

5. その他の研究活動(2件)

- 1) 長谷川雅美, 田口玲子, 後田穰, 安達寛人, 船山健二: 病相反復を抱えながら職業継続に至っている双極性障害者のレジリエンス獲得の様相, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 安達寛人 船山健二 長谷川雅美: 双極性障害者家族が抱える困難と対処の実際, 令和2年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本うつ病学会 評議員
- ・ 日本うつ病学会双極性障害委員会 委員
- ・ 日本うつ病学会倫理委員会 委員
- ・ 日本うつ病学会多職種連携委員会 委員
- ・ 日本精神保健看護学会 代議員
- ・ 周産期メンタルヘルス学会 顧問
- ・ 日本看護研究学会 査読委員
- ・ 日本精神保健看護学会 査読委員
- ・ 日本うつ病学会 査読委員
- ・ 日本看護科学学会

- ・ 看護実践学会
- ・ 中部M-GTA 研究会
- ・ 第17回日本うつ病学会総会 シンポジウム：多職種キャリアプラン シンポジスト

【社会活動】

- ・ 上越市自殺予防対策連携会議委員
- ・ 新潟県精神保健福祉協会上越支部理事
- ・ 上越地域ご当地ナンバー導入検討会副会長
- ・ 上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会 結婚・出産・子育て部会長
- ・ 石川県看護協会実習指導者講習会講師
- ・ 新潟県助産師会周産期メンタルヘルス研修会講師
- ・ 新潟県看護協会上越地区支部保健師職能研修会講師
- ・ 直江津地区自殺予防研修会講師
- ・ 糸魚川市地域精神保健市民講座講師
- ・ 長岡市地域精神保健市民講座講師
- ・ 上越保健医療専門学校「事例研究の取り組み」講師
- ・ うつ病当事者会「ひなたぼっこ」

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅱ, 国際看護活動論

博士前期課程：精神看護学特論, 精神看護学援助論Ⅰ, 精神看護学援助論Ⅱ, 精神看護学特別演習, 看護学領域別特別研究, 看護学研究法

博士後期課程：精神看護学特論, 看護学特別研究

【学内委員会等の活動】

ハラスメント防止特別委員会委員長, 自己点検評価特別委員会委員長, 情報ネットワーク特別委員会委員, 外部評価特別委員会委員, 教学委員会委員, カリキュラム検討委員会委員

【外部資金獲得】

1) 櫻井信人(研究代表者)

長谷川雅美(2020～2023)：心的外傷後成長を取り入れた自死遺族支援グループの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 安達寛人(研究代表者)

長谷川雅美(2020～2021)：うつ病患者における自殺再企図に至る経験, 日本精神保健看護学会研究助成

田口 玲子

1. 原著論文(1件)

1) 伊藤ひかる, 田口玲子, 長谷川雅美(2021.3): スタッフナースの主観的世界から捉える病棟看護師チームのレジリエンス, 看護実践学会誌, 33 (2), pp31 - 42(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

1) 伊藤ひかる, 田口玲子, 長谷川雅美(2020.12): スタッフナースの主観的世界から捉える病棟看護師チームのレジリエンス, 第40回日本看護科学学会学術集会(オンライン)

5. その他の研究活動(1件)

1) 長谷川雅美, 田口玲子, 後田穰, 安達寛人, 船山健二: 病相反復を抱えながら職業継続に至っている双極性障害者のレジリエンス獲得の様相, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本精神保健看護学会
- ・ 日本カウンセリング学会
- ・ 日本カウンセリング学会 認定カウンセラー会
- ・ 日本心理臨床学会
- ・ 日本看護歴史学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会 評議員

【社会活動】

- ・ 新潟労災病院倫理委員会令和2年度委員
- ・ 上越市自立支援協議会令和2年度委員
- ・ 冊子「看護職のためのメンタルヘルスケア—ホリスティックケアの視点から—<改訂第2版>」の編集と発行

【学内教育活動】

学 部: 精神看護学Ⅰ, 精神看護学Ⅱ, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 総合実習, 看護倫理, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: 看護倫理特論, 看護コンサルテーション論, がん看護学特別演習Ⅰ

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員長, 教務委員会委員, 研究推進委員会委員, 看護研究交流センター先駆的学習支援部門員

【外部資金獲得】

なし

後田 穰

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 長谷川雅美、田口玲子、後田穰、安達寛人、船山健二：病相反復を抱えながら職業継続に至っている双極性障害者のレジリエンス獲得の様相，令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本集団療法学会 会員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本看護管理学会 会員
- ・ 日本精神医学史学会 会員
- ・ 日本看護歴史学会 会員
- ・ 新潟看護ケア研究会 会員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅱ，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，精神看護学演習，精神看護学実習
博士前期課程：精神看護学特論，精神看護学援助論Ⅱ
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員，入試・広報委員会委員，倫理委員会副委員長

【外部資金獲得】

なし

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(3件)

- 1) 山田典子、船山健二(2020.10)：「日本フォレンジック看護学会」の活動紹介，日本セーフティプロモーション学会誌，13巻2号，pp3 - 8(査読無)
- 2) 船山健二(2021.2)：矯正施設における加害者への治療教育，日本フォレンジック看護学会誌，7巻2号，pp125 - 129(査読無)
- 3) 高橋康史、市川岳仁、船山健二、安田恵美(2021.1)：薬物依存の課題を抱える出所者への地域支援に関する研究—地域生活定着支援センターの取り組みから—，名古屋市立大学大学院人間文化研究科 人間文化研究，35巻，pp35 - 49(査読無)

3. 著書(3件)

- 1) 船山健二(2021.1)：『再犯防止から社会参加へ—ヴァルネラビリティから捉える高齢者犯罪』第2章 出所後を見据えた刑務所における処遇—社会参加に向けたケアのありよう—，日本評論社(東京)
- 2) 船山健二(2021.1)：看護学テキスト NiCE『看護倫理』よい看護・よい看護師への道しるべ改訂第3版，第VI章 社会的要配慮者の看護と倫理 3. 貧困”，南江堂(東京)
- 3) 船山健二(2021.1)：看護学テキスト NiCE『看護倫理』よい看護・よい看護師への道しるべ改訂第3版，第VI章 社会的要配慮者の看護と倫理 5. 受刑者，南江堂(東京)

4. 学会発表(2件)

- 1) 船山健二、五十嵐愛子(2020.5)：多様化する家族のあり様と看護倫理，日本看護倫理学会第13回年次大会(島根(現地開催中止により誌上開催))
- 2) 船山健二(2020.8)：矯正施設における加害者への治療教育：正しい用語の理解から、看護の対象を捉える，日本フォレンジック看護学会第7回学術集会(茨城(Web開催))

5. その他の研究活動(2件)

- 1) 長谷川雅美、田口玲子、後田穰、安達寛人、船山健二：病相反復を抱えながら職業継続に至っている双極性障害者のレジリエンス獲得の様相，令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 安達寛人、船山健二、長谷川雅美：双極性障害者家族が抱える困難と対処の実際，令和2年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本フォレンジック看護学会 理事(渉外担当)
- ・ 日本フォレンジック看護学会 理事(教育推進委員)
- ・ 日本フォレンジック看護学会 精読会運営担当
- ・ 日本フォレンジック看護学会第7回学術集会 第2分科会座長

【社会活動】

- ・ 日本看護系学会協議会(JANA) 利益相反(COI)検討ワーキンググループ メンバー
- ・ 新潟保護観察所上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ
- ・ 新潟保護観察所 上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ 2020/5/12
- ・ 新潟保護観察所 上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ 2020/6/9
- ・ 新潟保護観察所 上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ 2020/7/14
- ・ 新潟保護観察所 上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ 2020/8/11
- ・ 新潟保護観察所 上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ 2020/10/13
- ・ 國學院大學 法学部 犯罪学A 「受刑者処遇について：看護師の視点から」ゲストスピーカー 2020/6/25

- ・ 大阪市立大学法学部金澤ゼミ・國學院大學法学部安田ゼミ合同刑事政策ゼミゲストスピーカー 2020/7/2
- ・ 日本フォレンジック看護学会教育推進員会主催 第3回精読会「司法精神保健看護」担当 2020/11/9
- ・ 日本福祉大学社会福祉総合研修センター主催 日本版性暴力対応看護師養成プログラム講師 2020/11/28
- ・ 日本フォレンジック看護学会教育推進員会主催 第7回精読会 看護教育実践報告 2021/1/4
- ・ うつ病当事者会「ひなたぼっこ」スタッフ
- ・ 日本版性暴力対応看護師(SANE-J)として、男児や知的・発達障害児者への性教育について、支援者への助言等に応じています。

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅰ, 精神看護学Ⅱ, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 総合実習(精神看護学), 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員, ハラスメント相談員

学年担任

【外部資金獲得】

- 1) 船山健二(研究代表者) (2020～2023)：刑余者のヘルスケアニーズ, 科学研究費助成事業(若手研究)
- 2) 五十嵐愛子(研究代表者)
松下年子、日下修一、加藤隆、船山健二、田村勝弘(2020～2022)：刑の一部執行猶予制度下における薬物依存症者の地域連携に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 3) 松本俊彦(研究代表者)
研究分担者: 高橋康史 研究協力者: 市川岳仁 中川賀雅 中村正 西井開 船山健二 朴希渣沙 安田恵美 (2019～2021)：再犯防止推進計画における薬物依存症者の地域支援を推進するための政策研究, 厚生労働省科学研究費・障害者政策総合研究事業
- 4) 金澤真理(研究代表者)
渡邊賢、徳永元、井口尚樹、大屋未輝、高橋康史、船山健二、安田恵美(2019～2021)：ヴァルネラブルな高齢者の社会参加基盤の整備に関する研究, ウェルネスオープンリビング研究助成ラボ

安達寛人

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(1件)
 - 1) 長谷川雅美, 安達寛人(2021. 1) : 病相反復を抱えながら職業継続に至っている双極性障害者のレジリエンス獲得の様相, 第17回日本うつ病学会総会(Web開催)
5. その他の研究活動(2件)
 - 1) 安達寛人, 船山健二, 長谷川雅美 : 双極性障害を有する者の家族が抱える困難と対処の実際、令和2年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
 - 2) 長谷川雅美, 田口玲子, 後田穰, 安達寛人, 船山健二 : 病相反復を抱えながら職業継続に至っている双極性障害者のレジリエンス獲得の様相, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 入試・広報委員会出前講義「ハマるってどういうこと？」講師
- ・ 看護研究交流センター出前講座「こころを病むってどういうこと？」講師
- ・ 看護研究交流センター出前講座「ハマるってどういうこと？」講師
- ・ 精神科急性期病棟における睡眠改善に向けた取り組み
- ・ うつ病当事者の会「ひなたぼっこ」の運営

【学内教育活動】

学 部 : 精神看護学Ⅱ, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習
博士前期課程 : なし
博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

新カリキュラム検討委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員
陸上サークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 安達寛人(研究代表者)
長谷川雅美(2020~2021) : うつ病者における自殺再企図に至る経験, 日本精神保健看護学会研究助成

平澤則子

1. 原著論文(1件)

- 1) 前川絵里子, 平澤則子, 飯吉令枝(2020.12): 難病保健活動を担当する保健所保健師の役割の認識, 日本難病看護学会, 25(2), pp127 - 141(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 武田織枝 平澤則子 高林知佳子(2020.9): インスリン自己注射を導入して1年以内の独居高齢糖尿病患者が療養生活において抱く不安, 第25回日本糖尿病教育・看護学会(オンライン)
- 2) 土田雅美 平澤則子 高林知佳子(2020.10): 出産から退院までに受けた産後うつ病予防の保健指導とEPDSとの関連～産後1か月の褥婦を対象として～, 第61回日本母性衛生学会(オンライン)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 高林知佳子, 井上智代, 平澤則子, 野口裕子, 久保野裕子, 前川絵里子, 飯吉玲枝: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響—3年間の継続介入の影響分析—, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本地域看護学会代議員
- ・ 日本地域看護学会査読委員
- ・ 日本地域看護学会広報委員会委員
- ・ 日本地域看護学会「日本地域看護学会誌」編集委員会委員
- ・ 日本在宅ケア学会代議員
- ・ 日本在宅ケア学会実践・研究助成委員会委員
- ・ 北関東医学会 会員
- ・ 日本難病看護学会理事
- ・ 日本難病看護学会認定・難病看護師認定委員
- ・ 日本難病看護学会教育委員会委員
- ・ 日本難病看護学会査読委員
- ・ 日本ルーラルナーシング学会査読委員
- ・ 日本公衆衛生学会 会員
- ・ 日本公衆衛生看護学会 会員
- ・ 日本糖尿病教育・看護学会 会員
- ・ 日本母性学会 会員
- ・ 第25回日本難病看護学会日本難病看護学会 第8回日本難病医療ネットワーク学会合同学術集会 交流集会
- ・ 第25回日本在宅ケア学会学術集会一般演題の座長
- ・ 第9回日本公衆衛生看護学会学術集会シンポジウム2座長
- ・ 第25回日本難病看護学会 第8回日本難病医療ネットワーク学会合同学術集会優秀演題表彰推薦委員

【社会活動】

- ・ 上越市健康福祉部指定管理者選定委員会委員
- ・ 上越市子ども・子育て会議委員長
- ・ 魚沼市いのちを支える自殺対策推進会議委員

- ・新潟県看護協会看護管理者研修会講師
- ・県内看護職の学習支援ニーズの把握

【学内教育活動】

学 部：地域看護学概論, 公衆衛生看護学概論, 看護行政論, 総合科目, 公衆衛生看護管理論, 公衆衛生看護論演習, 公衆衛生看護学実習, 総合実習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：地域看護学援助論Ⅰ, 地域看護学特別演習, 看護研究法, 地域看護学援助論Ⅱ, 地域看護学看護学特別研究

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

教学委員会副委員長, 教務委員会委員, 自己点検評価特別委員会委員, ハラスメント防止特別委員会委員, 外部評価特別委員会委員, カリキュラム検討委員会副委員長, 看護研究交流センター先駆的学習支援部門長

【外部資金獲得】

1) 野口裕子(研究代表者)

表志津子、平澤則子他(2020～2023)：乳幼児を持つ養育者の防災行動, 教育プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

高林知佳子

1. 原著論文(2件)

- 1) 高林知佳子(2019.8): 女性看護師が抱く仕事と介護の両立への不安と職場に求める支援 家族を介護する役割の有無別にみた認識の違い, 新潟医学会雑誌, 133(7-8), pp293 - 303(査読有)
- 2) 高林知佳子, 坪倉繁美(2020.4): 親の介護をしながら働く女性看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトに関連する要因, 日本地域看護学会誌, 23(1), pp13 - 22(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(4件)

- 1) 土田雅美, 平澤則子, 高林知佳子(2020.10): 出産から退院までに受けた産後うつ病予防の保健指導と EPDS との関連 産後1ヵ月の褥婦を対象として, 第61回日本母性衛生学会総会・学術集会(浜松市 (Zoom))
- 2) 武田織枝, 平澤則子, 高林知佳子(2020.9): インスリン自己注射を導入して1年以内の独居高齢糖尿病患者が療養生活において抱く不安, 第25回日本糖尿病教育・看護学会学術集会(盛岡市 (Zoom))
- 3) 高林知佳子(2020.12): 日本の家族介護者の介護生活における自己健康管理の概念分析, 第40回日本看護科学学会学術集会(東京 (Zoom))
- 4) 高林知佳子, 坪倉繁美(2020.8): 親の介護をしながら働く女性看護師の職場環境におけるソフト面の現状と課題, 日本地域看護学会 第23回学術集会(大阪市 (Zoom))

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 高林知佳子, 井上智代, 平澤則子, 野口裕子, 久保野裕子, 前川絵里子, 飯吉令枝: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域住民に与える影響——3年間の継続介入の結果分析——, 令和元年新潟県立看護大学学内共同研究助成(延長)

【学会等における活動】

- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本地域看護学会
- ・ 日本健康教育学会
- ・ 日本生殖看護学会
- ・ 日本看護管理学会
- ・ 日本難病看護学会
- ・ 北陸公衆衛生学会
- ・ 新潟医学会

【社会活動】

- ・ 妙高市こころと命のネットワーク会議委員
- ・ 上越市健康づくり推進協議会委員
- ・ 妙高市健康づくり推進協議会委員
- ・ 新潟県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員
- ・ 富山福祉短期大学非常勤講師
- ・ 令和2年度第1回上越圏域新採用保健師研修会講師
- ・ 令和2年度第2回上越圏域新採用保健師研修会講師
- ・ 令和2年度第3回上越圏域新採用保健師研修会講師
- ・ 令和2年度上越圏域採用2・3年目保健師研修会講師

- ・ 令和2年度上越圏域採用4・5年目保健師研修会講師
- ・ 新潟県立看護大学地域看護学通信（第4号）発行
- ・ 新潟県立看護大学地域看護学通信（第5号）発行
- ・ 富山福祉短期大学非常勤講師

【学内教育活動】

学 部：公衆衛生看護技術論Ⅰ，公衆衛生看護技術論Ⅱ，対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ，公衆衛生看護学演習，
公衆衛生看護学実習，在宅看護論演習，在宅看護論実習，公衆衛生看護管理論，疫学，専門ゼミナール
Ⅰ，専門ゼミナールⅡ，総合実習

博士前期課程：地域看護学特論，地域看護学援助論Ⅰ，地域看護学援助論Ⅱ，地域看護学特別演習

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

教務委員会委員，国際交流委員会委員，新カリキュラム検討委員会委員，看護研究交流センター地域社会貢献
部門長

学年担任

【外部資金獲得】

- 1) 高林知佳子(研究代表者)(2020～2022)：主観的幸福感をトリガーとした家族介護者における介護予防行動
促進モデルの構築，科学研究費助成事業(基盤研究C)

川野英子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
 - 1) 東條紀子, 川野英子(2020. 9) :在宅看護学実習における訪問看護師の終末期ケアの実習指導に対する信条, 日本看護学教育学会(WEB 開催)
 - 2) 川野英子, 東條紀子(2020. 6) :訪問看護師から見た終末期ケアに関する実習時の学修評価, 日本在宅ケア学会(WEB 開催)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本家族看護学会
- ・ 日本看護管理学会
- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本在宅ケア学会
- ・ 日本地域看護学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本看護教育学会

【社会活動】

- ・ 介護支援員専門研修「専門研修課程Ⅰ」研修企画委員
- ・ 新潟県介護支援専門員協会「養成研修委員会」委員
- ・ 上越市介護保険運営協議会委員
- ・ 看護交流センター出前講座「家族の健康を考える」講師 2021. 3. 25
- ・ 新潟県福祉保健部 令和2年度看護学生公衆衛生・在宅・母性看護学実習指導者研修会 講師
- ・ 新潟県介護支援専門員協会「専門研修課程Ⅰ」講師

【学内教育活動】

学 部 : 在宅看護論, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 公衆衛生看護学実習, 公衆衛生看護学演習, 家族看護論, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : がん看護学特論Ⅰ, 老年看護学特論Ⅲ, 地域看護学特論, 地域看護学援助論Ⅰ, 地域看護学援助論Ⅱ, 地域看護学別演習

博士後期課程 : 地域・在宅看護学特論

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員, 入試広報委員会委員, 紀要委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

井上智代

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
 - 1) 渡辺修一郎, 井上智代, 田辺生子(2020.10): 農村部に在住する後期高齢者の運転状況とその関連要因, 第15回日本応用老年学会大会(東京)
 - 2) 渡辺修一郎, 田辺生子, 井上智代(2020.10): 農村部に在住する後期高齢者の体重の春と夏の相違の実態とその関連要因, 第79回日本公衆衛生学会総会(京都)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 高林知佳子, 井上智代, 平澤則子, 野口裕子, 久保野裕子, 前川絵里子, 飯吉玲枝: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響—3年間の継続介入の影響分析—, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 上越市食育推進会議 委員 (～令和2年6月)
- ・ 上越市開発審査会 委員
- ・ 妙高市介護保険運営協議会 委員
- ・ 新潟県看護協会 在宅看護研修会講師
- ・ 2020年度地域課題研究 A 地域輪番病院における看護師のACP認知度の実態とその関連要因
- ・ JA 新潟厚生連中央看護専門学校 新カリキュラム開発指導
- ・ 社会福祉法人 大石福社会 委員

【学内教育活動】

学 部: 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ, 公衆衛生看護技術論Ⅰ, 公衆衛生看護技術論Ⅱ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅲ, 公衆衛生看護管理論

博士前期課程: 老年高度看護援助論Ⅱ, 地域看護学援助論Ⅰ, 地域看護学援助論Ⅱ, 地域看護学特別演習

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

国家試験就職委員会副委員長, 研究推進委員会副委員長, 図書委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

保健指導員, 保健師国家試験対策 学内教員向けセミナー, FD 委員会 新型コロナウイルス感染拡大に伴う遠隔実習についての講師, 研究推進委員会研修会 講師

【外部資金獲得】

- 1) 井上智代(研究代表者)(2020～2022): 農村ソーシャル・キャピタル醸成に向けた高齢者のストレンクス活用モデルの構築, 科学研究費助成事業(若手研究)
- 2) 飯吉令枝(研究代表者)

井上智代(2018～2020)：豪雪地域高齢者の運転免許返納後の健康・生活行動の維持とその要因に関する縦断的研究，科学研究費助成事業(基盤研究C)

3) 伊藤直子(研究代表者)

渡辺修一郎 森田恵子 井上智代(2019～2021)：地域在住高齢者の口腔機能向上を目指した呼吸筋トレーニングプログラムの確立，科学研究費助成事業(基盤研究C)

野口裕子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
 - 1) 野口裕子, 表志津子(2020.8): 乳幼児をもつ家族の災害時の備えに関する文献検討, 第23回日本地域看護学会学術集会(Web開催)
 - 2) 大久保明子, 野口裕子(2020.12): 学童・思春期にある医療的ケアを必要とする児を養育する母親の支援ニーズ, 第40回日本看護科学学会学術集会(Web開催)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 高林知佳子, 井上智代, 平澤則子, 野口裕子, 久保野裕子, 前川絵里子, 飯吉令枝: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響—3年間の継続介入の影響分析—, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本公衆衛生学会 会員
- ・ 日本災害看護学会 会員
- ・ 日本地域看護学会 会員
- ・ 日本子ども虐待防止学会 会員
- ・ 日本難病看護学会 会員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 北関東医学会 会員
- ・ 日本公衆衛生看護学会 会員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部: 公衆衛生看護技術論Ⅰ, 公衆衛生看護技術論Ⅱ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅲ, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員, 図書委員会委員, 衛生委員会 (R2. 12月～) 委員

【外部資金獲得】

- 1) 野口裕子(研究代表者)
表志津子, 岡本理恵, 平澤則子(2020～2023): 乳幼児を持つ養育者の防災行動教育プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

前川絵里子

1. 原著論文(1 件)

1) 前川絵里子, 平澤則子, 飯吉令枝(2020. 12) : 難病保健活動を担当する保健所保健師の役割の認識, 日本難病看護学会, 25(2), pp127 - 141 (査読有)

2. その他論文(1 件)

1) 東條紀子, 前川絵里子(2021. 3) : 難病患者の QOL を測定する尺度に関する文献レビュー, 日本難病看護学会誌, 25 (3) , pp331 - 342(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1 件)

1) 高林知佳子, 井上智代, 平澤則子, 野口裕子, 久保野裕子, 前川絵里子, 飯吉令枝 : 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響—3 年間の継続介入の影響分析—, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本難病看護学会 会員
- ・ 日本地域看護学会 会員
- ・ 日本公衆衛生学会 会員

【社会活動】

- ・ 新潟県パーキンソン病友の会上越地区
- ・ 人生最終段階と説明を受けた患者の家族などの代理決定者の葛藤

【学内教育活動】

学 部 : 公衆衛生看護技術論 I, 対象別公衆衛生看護活動論 I, 対象別公衆衛生看護活動論 II, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナール I, 専門ゼミナール II, 総合実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員, 看護研究交流センター先駆的学習支援部門員

【外部資金獲得】

なし

小泉 美佐子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本老年看護学会
- ・ 日本認知症ケア学会・代議員
- ・ 日本老年泌尿器科学会・評議員
- ・ 日本看護研究科学会
- ・ 日本社会科学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：総合科目
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

【外部資金獲得】

なし

各種委員会等の 活動報告

活動報告掲載順

ハラスメント防止特別委員会	75
自己点検・評価特別委員会	76
情報ネットワーク特別委員会	77
国際交流委員会	78
災害時看護支援特別委員会	80
倫理委員会	82
教務委員会	83
実習委員会	86
学生委員会	88
研究推進委員会	90
F D委員会	92
国家試験対策・就職委員会	104
入試・広報委員会	106
図書委員会	108
紀要委員会	110
教学委員会	111
入学委員会	114

令和2年度 ハラスメント防止特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎長谷川雅美、○市川克巳、平澤則子、岡村典子、小林綾子、大口洋子
相談員：酒井禎子、徐淑子、船山健二、上坂唯子
事務局：吉澤恵二

2. 活動概要

- (1) 新入の教職員・学部生・大学院生に対し、大学におけるハラスメント防止と相談対応についてガイダンスを実施し、チラシを配布して周知を図った。
- (2) ハラスメント防止の啓発に向けて、名刺サイズのカードを作成し、男女トイレ、学部生の男女更衣室、院生室、教員談話室等に設置した。
- (3) ハラスメント相談のしやすい環境を整えるため、引き続き上越教育大学の教員に学外相談員を委嘱した。
- (4) 教職員・学部生・大学院生を対象として、新型コロナウイルス対策とアカデミックハラスメントをテーマに、ハラスメント防止研修会を開催した。

3. 次年度に向けた課題

学部生は相談する機会も多くあると思われるが、大学院生は個別指導が多く外から見えにくい場面が多くあることから、今後は学生数が増加している大学院生への対応も重要となる。

令和2年度 自己点検・評価特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎長谷川雅美、○市川克巳、境原三津夫、平澤則子、舟島なをみ、小野幸子
事務局：吉澤恵二

2. 活動概要

(1) 教員評価の実施（令和元年度業績に対する評価）

自己申告シート（教育研究活動業績入力フォーム）を前年度末までに提出いただき、エラーチェック、エラー修正及び集計作業を行った。その後、7月の教授会において集計結果を報告するとともに、学長表彰者の氏名公表を行い、学長表彰者へ各5万円ずつ個人研究費の追加配分を行った。

(2) 令和元年度自己点検評価報告書の編集

自己申告シート及び各種委員会の活動報告を前年度末までに提出いただき、エラーチェック、エラー修正及び集計作業を行い、5月末には本学リポジトリに登録した。

(3) 著書・論文数や学会発表数の集計

令和元年度の各教員の著書・論文数や学会発表数を集計し、法人の令和元年度実績値として計上した。

(4) 自己申告シートの改善に向けた検討

各自が自分自身の1年間の活動を振り返る材料とするため、評価項目と補正比率は変更しないこと、また、各自が自分の位置を確認しやすいように、集計表を職位別に作成することとした。

3. 次年度に向けた課題

令和2年度教育研究活動業績の評価・結果分析を行うとともに、令和3年度以降の評価方法や評価項目、評価基準の見直し等を行い、自己申告シートに反映させる。

令和2年度 情報ネットワーク特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎永吉雅人、境原三津夫、長谷川雅美、
市川克巳(事務局長)、柳澤義治(事務局次長)、吉澤恵二(教務学生課長)
事務局：佐藤利和(庶務係長)

2. 活動概要

- (1) COVID-19 拡大防止策として、遠隔授業の構想を提示し全教員・全学生に周知するとともに、遠隔授業に伴って随時教員・学生に対してサポートし、遠隔授業体制を整備した。同時に、遠隔授業の土台となるムードル（どこカレ）の整備も実施した。
- (2) 学内の遠隔授業の土台となる Wi-Fi 環境について、少人数のゼミや複数の部屋を利用した講義など、多様な授業形態に対応できるよう、授業に使用可能なすべての部屋、実習室の Wi-Fi 環境を整備した。合わせて、2つある接続先の両方を開放することで同時接続可能台数を2倍にした。
- (3) USB メモリ等の紛失防止策のひとつとして、領域別に利用できる専用フォルダを設置・周知し、サイバーセキュリティ対策を強化した。
- (4) 情報科学教室及び情報演習室のパソコン更新に伴って、システム機器の仕様書を検討・作成した。一般競争入札の結果、12月末にすべて設置完了、1月から新たなシステムが使用可能となった。
- (5) サイバーセキュリティ体制について、最高情報セキュリティ責任者（C I S O）は学長、戦略マネジメント層は事務局長、組織内 C S I R T は情報ネットワーク特別委員会としていたが、体制と役割について再確認と検討を行った。戦略マネジメント層については、より機能する体制とするため、情報ネットワーク特別委員会委員長も加えた。

3. 次年度に向けた課題

情報環境が著しく変化し、迅速かつ安全なセキュリティ対策が必要とされる事案が発生している状況を鑑み、まずは、情報セキュリティ対策に関する規程等の内容を「政府機関統一基準の平成30年度版」が定める遵守事項に準じたものへの改訂に向けて、現規程の見直しをすることが大きな課題である。

令和2年度 情報ネットワーク特別委員会 実行部会活動報告

1. 委員構成

委員：◎永吉雅人、柳澤義治（事務局次長）、佐藤利和（庶務係長）、森田裕美（教務係長）、山崎明彦（主事）
事務局：星野由衣（主事）

2. 活動概要

- (1) 自習室の情報機器の監視管理のための見回りは新型コロナウイルス感染症対策として見合わせた。
- (2) プリンター出力超過管理として毎月のプリンター出力を確認し、超過の学生に関して指導を行った。
- (3) Wi-Fi ルータおよび盗難防止システム確認
Wi-Fi ルータおよび盗難防止装置としてネットワークカメラの稼働確認を行い、無線 LAN 環境と物品の保全につとめた。
- (4) アドレス帳の更新
随時アドレス帳の更新を行い、学内ネットワークの保全につとめた。
- (5) セキュリティ情報の周知
脆弱性を有するソフトウェアのアップデート依頼や不審メールなどの周知を行い、学内ネットワークの保全につとめた。

令和2年度 国際交流委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎樺澤三奈子、○Simon Elderton、高林知佳子、西田絵美、渡辺弘之、
谷内田潤子
事務局：梅山 香織、星野 史

2. 活動概要

(1) 法人計画 [54] 研究水準の向上や国際的な視野を養える国際交流事業に関する事項

11月27日（金）V限に、JICA 青年海外協力隊派遣事業に参加した助産師の對馬朱香氏を招き、国際交流セミナー「青年海外協力隊における助産師活動 in Ghana」をオンライン併用方式にて開催した。対象者は本学の学生（学部生・大学院生）・教職員および上越市内に勤務する助産師など、計30名であった。セミナーでは、對馬氏の現地の人々の考えに添う姿勢に基づくプライマリ・ヘルス・ケアの実践に対して看護師・助産師課程の学生や4次年生の参加者から質問が多く寄せられ、海外での助産師活動に対する参加者の憧れや深い関心が窺えた。講演後、對馬氏による協力を得て講演内容をポスターに編集し、大学HP および大学内掲示板を用いて学内外への周知を図った。

(2) 法人計画 [55] 海外大学との交流協定締結・学生及び教員の国際交流促進に関する事項

① 危機管理対策マニュアルの修正

COVID-19 感染症の世界的な蔓延に鑑み、昨年度、本学の国際交流活動において学生と教職員が安全に研修を遂行することを目的に作成した危機管理対策マニュアルについて、「危機」の定義に感染症の発生を追加するとともに、研修の実施および中止の基準に大学判断のレベルを新たに追加した。

② ニュージーランド看護研修

<現地研修の企画>

令和2年度の国際看護演習（1単位）の開講に向け、クライストチャーチ工科大学（以下、Ara とする）との連携に基づくニュージーランド看護研修（令和3年3月履行）を企画したが、COVID-19 感染症の蔓延によりニュージーランドへの渡航が困難と判断し、8月 に中止を決定した。

<オンライン研修の企画と募集>

その後、世界的な感染拡大の状況下で当該科目の開講の可能性を模索するために、Ara と内容・日程・研修費用等について交渉を重ね、オンライン形式によるニュージーランド看護研修に変更した。本代替研修は、看護英語学習、ニュージーランドの文化や保健医療施策についての学習に加え、現地の人々との交流を望む学生のニーズを踏まえてAra の学生やホストファミリーとの交流を取り入れた、12日間、4時間/日、自己負担額2万円/名のプログラムであった。この12日間という日数は、利益を担保するためにAra 側から提示された最低日数であった。募集は、学年別の対面アナウンスや掲示板・メールでの募集の周知、プロモーション動画作成・学内オープンソースプラットフォームへの掲載等、あらゆる手段を用いて行った。しかし研修に関心を寄せる学生が少なからずいたものの参加希望者が最小催行人数である10名を満たさず本研修は中止となった。

<オンライン研修中止に伴う科目不開講への対応>

本研修の中止に伴い、今年度の国際看護演習が不開講となったが、当該科目の履修届は未提出の状態であることから、1月の本委員会・教授会と2月の教務委員会での報告をもって簡略的に科目不開講の手続きとすることになった。予定どおり、各委員会・教授会で委員長から科目不開講となった経緯とその手続きについて報告した。

なお参加希望者への不開講の説明はニュージーランド看護研修ワーキンググループが行った。希望者にはニーズに応じられるよう学内で行える国際交流活動を提案したが、希望の申し出はなかった。

<オンライン研修中止後の調査・検討>

次年度研修プログラムの刷新に向け、学生から研修参加が困難であった理由について調査を行い、オンラインでの海外研修に対する学生のニーズを次のとおり明確化した。

- ・ 学生は何よりも現地に赴くことを望んでいる。
- ・ 人と直接交流することを強く望んでいる。
- ・ 学生は、現地に赴かないのであれば3週間（12日）の研修期間を長いと感じている。

※研修費用を安くしてほしいという意見はなかった。

またオンラインプログラムの内容・方法について示唆を得るために、日本看護系大学協議会主催による「with コロナ時代の国際交流・連携の実際と課題」セミナー等に委員2名が参加した。研修では、オンライン留学の場合、渡航費がかからず、かつ学習内容が対面の場合と変わらないという理由で留学生から好評である傾向にあるが、短期研修等、現地での体験により重きを置くプログラムでは、オンラインの場合、学生の学習へのモチベーションが何より大切であり、その上でオンライン上での体験のリアリティを高める動画教材の工夫が必要であると考えられた。

3. 次年度の課題

(1) 法人計画 [54] 研究水準の向上を図り国際的な視野を養える国際交流事業の実施

国内外の大学や医療機関等の研究者による国際的なテーマの講座や講義など、研究水準の向上を図り、国際的な視野を養える国際交流事業を継続的に実施する。なお本事業における講座・講義は感染遷延を想定し、対面・オンラインの併用方法で企画する。具体的には、COVID-19感染拡大下における看護学基礎教育の工夫をテーマとする、海外看護学教員による本学教員対象のオンライン講演会等を検討している。

(2) 法人計画 [55] 海外大学との交流協定締結・学生及び教員の国際交流の促進

① 海外看護研修の企画

次年度の海外研修では、渡航による現地研修を優先して企画を進めるとともに、渡航できない場合に備えてオンラインによる代替企画を検討する方針である。この代替企画として、国際交流の機会を担保するため、学生・教員を対象とする看護英語を活用した短期的な国際交流活動を企画する。具体的には、上越市内に在住する外国籍住民の協力を得て、上越市内の施設や本学で開催できる短期・非連続的なプログラムを複数回検討する予定であり、一案として外国籍の模擬患者との看護場面のシナリオに基づくロールプレイを活用した看護コミュニケーション実習が挙げられている。

② エジプト看護管理者研修の受け入れ

現在中断されているエジプト看護管理者研修の受け入れについては、依頼待ちとする。

1. 委員会構成

委員：◎堀江正男、○河原畑尚美、川島良子、野口裕子、舩山健二、大口洋子
事務局：佐藤利和、宮崎達也

2. 活動概要

(1) 学生および教職員への訓練、研修および啓発活動

① 安否確認システムについて

新入生（学部、大学院）および新任教職員に対し、安否確認システム（以下、ANPIC）へのメールアドレス登録のサポートを行った。

ANPICの活用について、学生と教職員全員を対象とした安否報告訓練を3回（5月、10月、2月）実施した。学内の電源が使用できない状況を想定し、発電機を用いた訓練結果集計およびプリントアウトを行った。また、ANPICの掲示板機能を活用するため、学部生を対象に掲示板閲覧訓練を実施した。

昨年度に作成したANPIC運用マニュアルを改訂した。これまでの災害時の安否確認のみではなく、気象警報発令時における休講等の連絡など、多様な用途のANPIC運用を鑑みた措置である。

② 研修について

新任の教職員を対象に避難所開設初動対応シミュレーション研修会を実施した。対象者全員の参加があり、実施後のアンケートから初動対応を理解できたという回答を得た。

今年度はコロナ禍における災害への危機意識啓発を目的とし、新潟県防災局危機対策課の専門家を講師とする教職員向けの研修会を初めて行った（8月）。

③ 防災啓発活動について

学生に対する防災・減災教育としては、AED設置場所、防災への日頃の備え、災害発生時の行動及び大学への安否報告方法等を周知した。また、学生各自が備えている防災グッズのコンテストを実施し、災害に備えた防災グッズの紹介と防災意識の啓発を図った。

(2) 他団体との連携事業

① 上越市主催の避難所に関する本学および本学周囲6町内会との打合せ会議に出席し、災害時における上越市、本学と町会との連携について確認した。

② 上越市から感染症対策に配慮した避難スペースについての拡大要請を受けて検討を行い、最大で現在の収容人数の約2倍を収容できる拡大避難スペース案を上越市に提供した。これに伴い、避難所開設支援初動対応マニュアルの改訂を行った。

③ 上越市健康福祉環境部主催の上越災害医療研修会に参加し、地域の防災に取り組んだ。

④ 新潟県看護系大学等災害支援連携協議会定例会に参加し、参加校、新潟県および新潟市との意識共有を図った。

⑤ 高等教育コンソーシアム久留米主催「災害時における大学職員の役割」に関するSD研修会に参加し、熊本地震（2016年）における熊本学園大学の避難所開設と運営および講義再開までの道のりについての情報を得た。

⑥ 日本看護系大学協議会（JANPU）災害担当者初会合にリモート参加し、加盟する全国の看護系大学との意識共有を図った。

(3) 災害時支援の必要物品の管理

委員会管理の物品点検・確認を行い、支援用物品の充実及び必要物品の検討を行った。また、上越市の災害用備蓄品の管理も適正に行っている。予算50,400円は、物品収納棚や防災啓発物品を購入し、50,241円を執行した。啓発物品は効果的に使用する予定である。

3. 次年度に向けた課題

ANPIC機能を活用するために、全学生と教職員のメールアドレスの登録サポートを継続するとともに、

ANPIC 運用マニュアルの周知およびマニュアルの有効性を検証する。避難所開設支援を含めた実践的な研修や訓練を継続あるいは発展させ、有事に備える。

1. 委員会構成

委員：◎酒井禎子、○藤田尚（～9月）、○後田穰、堀江正男、岡村典子、徐淑子（10月～）
学外委員：村中智彦、小林優子、橋本明浩
事務局：柳澤義治、星野史

2. 活動概要

(1) 倫理審査とその結果について

倫理審査申請書（研究計画書）の審査を、基本方針である「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守するとともに、「公立大学法人新潟県立看護大学研究倫理規程」に則って行った。なお、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、4月～9月はメール審査とし、10月以降は対面審査を実施した。

審査件数は総計36件（新規申請23件、変更申請13件）であり、3月末時点での承認件数は35件、非該当1件であった。

(2) 研究倫理研修会の開催について

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を踏まえた研究倫理研修会を、令和2年8月25日（火）17時～18時に対面・遠隔同時開催にて実施した。「研究計画書作成における倫理的配慮の留意点」をテーマとし、倫理委員会委員長が講師を務めた。対象は、本学の教員および大学院生とし、研修会当日の参加人数は、教員48名、大学院生40名（本学教員は除く）であった。研修会欠席者については、当日の研修会をZoom録画したものをZoomクラウドに保存し、各自動画視聴することにより受講の代替とした。研修会出席およびZoomでの動画視聴が確認された教員・大学院生計95名に、受講証を発行した。

(3) その他

新型コロナウイルス感染予防対策に関連した大学院生の研究計画の変更申請に対する特別措置として、変更内容が「軽微な変更」に該当しない「研究（調査）方法の変更」であり、かつ、新型コロナウイルス感染拡大に伴うやむを得ない事情によると判断される場合には、研究科委員会により研究計画の変更が承認されていることを条件として、倫理委員会学内委員全員の回覧による「迅速審査」で対応した。

3. 次年度に向けた課題

次年度も教員・大学院生の研究倫理に関する理解を高め、かつ受講しやすい方法を工夫しながら研究倫理研修会を開催する。また、審査件数も多くなっていることから、効率的に審査が進むよう、審査に必要な提出資料の精選をするなど審査システムの見直しを図ることが望まれる。

令和2年度 教務委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎中島通子、○岡村典子、平澤則子、中村義実、大久保明子、
田口玲子、渡辺弘之、樺澤三奈子、高林知佳子、西田絵美、原等子
事務局：山崎 潤主任

2. 活動概要

(1) シラバスに関する事項

シラバス記入要領の「評価方法、評価基準」における表記や評価基準について、学生からの質問等はなくなっている。「実務経験のある教員が担当します」を名前の欄に入れることも統一できた。①科目担当教員として助手も含めて名前を記載すること、②科目担当責任者に◎をつける統一できた。オフィス・アワーの記載についても記載されるようになっていく。遠隔授業への対応についても記載されるようにした。今後の課題：シラバス記載内容を分析し、公正な評価基準に則り評価が行われているかについて検討する。学習にシラバスをさらに有効活用させ、学習効果を向上させるための取り組みを行う。

(2) 時間割に関する事項

看護師課程、看護師・保健師課程、看護師・助産師課程を選択する学生があり、時間割表の枠組みを、必要な学年は課程別に表示できるよう運用している。学内教員の科目は変更希望もある。多数の科目を担当する者と単科目を担当する者があり、希望時間を申請するよりも、遂行不可能な時間帯を示してもらう方が効率よく組むことが出来る。1年の科目において、前期は空きコマがほとんどなく時間割作成は困難である。課題としてカリキュラム改正に合わせた進度・深度を考慮した時間割配置について検討が必要である。

(3) 専門ゼミナールの実施に関する事項

① 看護研究フィールド調整

今年度はコロナ感染拡大と感染予防対策に伴い、文献研究がほとんどであった。

課題：研究フィールド実習4病院については、「看護研究のフィールドについての実習病院側の意向とフィールド依頼をする際の留意点」について全指導教員に周知を図る。実習4病院においては、看護管理者より希望する学生数が病院によって偏っていること、また部署の偏りによる調整困難を指摘されるなど調整に困難を要する。また、実習4病院以外の施設においても、倫理審査を受ける条件が付加される場合もあることそれに伴い、申請までの準備および承諾までの時間を要する可能性、研究開始の遅滞も考慮すること、さらに、研究フィールドとして病院を希望する場合は、早期にフィールド調整、研究計画書作成が必要となる事、調整担当教員および学生の負担増を検討する必要がある。

② 専門ゼミナール希望調査と振り分け

専門ゼミナール希望調査についてオリエンテーションを実施した。優先順位をつけ2020年は第2希望まで、2021年は「第1希望」「第2希望」「第3希望」とした。定員を超えない場合は科目群で振り分ける。教員側が記述内容からその学生の配置領域を判断せず、学生自らが書いた「希望する領域・科目群」を最大限尊重した。

(4) 看護研究発表会に関する事項

2020年度は遠隔による発表形態とした。遠隔に対応できない学生は学内の情報処理演習室からアクセスし発表を行った。また、当日参加できなかった下級生等は視聴できるように日時を決め配信できる体制を取った。途中音声・画像が途絶えるといった不具合が生じたがすぐに対応はできた。課題：学生の意見からブースを決め発表となったが、再三練習をしたメンバーの内容であり、ランダムに発表者を配置してほしいとの意見があった。このことに対しては、担当教員ごとに発表者をグループ化しており、自由にブースを移動し視聴できるので自身で行動すれば解決できる。2021年の発表形式（オンライン、対面）、関係者への開催案内の周知など今後メリット・デメリットを整理しながら検討していく必要がある。

(5) 教務ガイダンス・成績確認・実習先行要件の確認・各教育課程履修学生の確認

学年別に半期ごとに教務ガイダンスを実施。その学年での履修科目の特徴や学習上の留意点など学年に応じた学習指導を行った。特に、オフィス・アワーやシラバスの有効活用について強く推奨した。また、各学年に、ディプロマ・ポリシーの学年別到達目標の配布を行い、各学年における到達目標の意識づけを図った。前期および後期の成績確認を行い、教授会に諮った。さらに、2年次以降の看護学実習における先行要件となる科目の履修状況の確認を行い、教員及び学生に周知した。また、半期ごとのGPAが2.0未満の学生について、クラス担任に学習支援を依頼した。それ以外にも必要時、クラス担任や学生委員会と連携を図り指導を行った。2年次基礎看護学実習Ⅱ以降の看護学実習の履修先行要件となる単位取得状況を正・副委員長で確認し、担当教員に周知するとともに学生にも掲示にて周知した。また、看護師課程、看護師・保健師課程、看護師・助産師課程の履修者名簿および卒業要件を確認し、教授会で報告するとともに学生にも掲示にて周知した。

(6) 学年暦作成

学生委員会、入試広報委員会、実習委員会等に各所掌事項の日程を確認するとともに、前期・後期の授業コマ数を確保できるよう配慮し、令和3年度学年暦を作成した。

(7) 非常勤講師の採用・ゲストスピーカー申請の確認

新規の非常勤講師について審議を行い、その結果を教育研究審議会に報告した。初回講義開始前に、非常勤講師には辞令交付を利用し、学生の学習状況について情報交換を行うとともに、看護学教育モデルコアカリキュラムの該当学習目標を説明し教育目標の共有に努めた。また、非常勤講師が試験監督を行えない場合は、教務委員と事務局が担当した。教務委員が担当できない場合は、他の教員にも協力を要請することとなったが、今年度は教務委員と事務局で全て対応できた。ゲストスピーカーの申請では規程に見合った申請内容であるかを確認・検討しその結果を教育研究審議会に報告した。科目担当数とゲスト申請の割合については1/3以内の時間数が条件であり、申請の条件や科目数からも検討が必要な事案があった。

(8) 学長からの委託事項：成績評価の疑義照会および異議申し立てに関する検討

成績評価の疑義照会および異議申し立ての機会を3回設けている。①試験結果発表時、②成績通知から1週間以内の質疑応答の機会、③更に②で解決されない場合、異議申し立て申請と委員会の設置において質疑応答の機会がある。この最終段階において異議がある場合には、申し合わせ事項の通り、申請用紙と回答用紙によって対応することとしている。今年度は異議申し立ての案件はなかった。

(9) 学習成果に関する自己評価の実態調査

法人計画11について

学生が看護専門職としての自己の成長と課題を明確化すること、および教育方法・内容の工夫と改善に資する基礎的資料を得ることを目的に、新カリキュラム適用学生384名を対象に、「学習の成果に関する自己評価表」を用いた質問紙調査を実施。「学習の成果に関する自己評価表」は、ディプロマ・ポリシーに基づく学年別到達目標の達成度やカリキュラムの満足度を尋ねる多肢選択式・一部自由回答式質問紙調査で、どこカレより投票するオンライン調査を実施。(回収率:1年次生(95名休学1名)94名中87名92.6%、2年次生(100名2名休学)98名中71名72.4%、3年次生92名(休学4名)88名中80名90.9%、4年次生95名(休学1名)95名中75名78.9%)。但し、4名生に旧カリキュラム学生が2名おり、この統計には含んでいない。

4年次生の単純集計結果では、学年別到達目標の到達度について約9割が「十分できる」「まあまあできる」と回答し、学習成果を高く評価する傾向にあった。カリキュラムに対する満足度については、平均4.21「満足」「どちらかといえば満足」と回答していた。概ね満足と答えているものの、空き時間がある一方で、終了時期が遅いこと、国家試験の学習と総合実習、就活と多様な状況であることが記載されていた。科目配置の偏重や順序について意見が出されていた。DP 4.0以下の例を示す。

・国際保健・国際看護学の基礎的概念を理解する 3.84

- ・国際社会における健康課題を各国および地域の文化と関連づけて理解でき、課題解決に向けて看護の果たす役割・機能について理解を深める 3.88
- ・国際的な看護活動の意義を理解する 3.95

3. 次年度に向けた課題

(1) 新カリキュラム申請に向け情報提供

看護学教育モデルコアカリキュラムの学修内容は本学現カリキュラムでほぼ網羅していることを確認している。新カリキュラムにおける専門支持科目の学習順序性について非常勤講師からも意見が複数寄せられている状況であること、過密化した時間割を整理する必要性、時間数と単位数の統一等、指定規則改正に2022年に向け、継続的に新カリキュラム検討委員会に意見を出してゆく。

(2) 時間割作成

非常勤講師の日程を優先し、本学教員の調整を行う手順である。非常勤講師の調整は事務局が担い、本学教員においては、希望調査を行い作成に当たっている。多くの科目を担当している教員と1・2年次時間割において、各教員との調整が必要であり、担当委員の負担は大きい。事務局にも入力ミス等のチェック機能を担っていただき、作成方法や体制について検討する時期に来ている。

(3) 学生に対するアンケート調査

学習成果に関する自己評価の実態調査で得られたデータを学年別に分析し、結果から教育方法・内容の改善点を検討する。なおこの調査は、学生が経年的な自己評価に基づき成長と課題を明確化できるように、データの蓄積と入力・集計作業の効率化を図るための電子フォーム入力システムを整備する必要がある。さらに学生においても成長過程をリフレクションできるようシステムの整備が課題である。

(4) 遠隔授業と対面授業の対応

今年度は、看護交流センターの協力を得て非常勤の対応はできたが、次年度は事務局の協力を得る必要がある。体制の整備を行うことが課題である。

(5) 実習委員会との情報交換

従来、教務委員会には実習委員長が充て職としてメンバーとなっていた。昨年は実習副委員長がメンバーとなっており情報共有ができたが、今年度は、メンバーから外れていることやコロナ禍にあり、教育遂行に関する正確な情報共有が儘ならない状況であった。情報共有が行える体制作りが課題である。

令和2年度 実習委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎石田和子、○河原畑尚美、岩永喜久子、中島通子、大久保明子、川野英子、後田穰、石岡幸恵、杉山泰子
事務局：山崎潤一

2. 活動概要

(1) 臨床実習施設の選定、交渉及び調整に関する事項

① 実習懇談会（担当：河原畑、石岡）

令和2年5月27日（水）に予定されていたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、大学での開催中止となった。準備されていた資料、委嘱状のみ郵送する形とした。次年度については人数を限定し開催する方向で企画している。

② 実習指導者研修会（担当：河原畑、石岡）

看護研究交流センターと共催で令和2年6月4日（木）に舟島教授の講演を企画していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止となった。次年度は、9月16日に対面とオンライン両方で開催することとなった（実習委員会主催）。今年度予定されていた「看護学実習指導における臨床指導者と教員の連携」について舟島教授にご講演いただく予定である。

③ 領域別実習配置表（担当：大久保、河原畑）

令和2年度の3年次領域別実習配置は、4月中旬に調整し、5月の実習懇談会で学生名を入れない形での学生配置案を配布し、オリエンテーション時、学生に配布した。

令和3年度の実習配置については、昨年度同様オリンピックによる休日変更等があり、7月および9月開始は各領域の実習施設等の都合を考慮し、それぞれの希望に即した計画でローテーションを組んだ。ローテーションの希望調査、調整については調整会議までに検討できた。次年度は、新カリキュラムの実習と合わせ、実習配置シミュレーションを検討していくことが課題となる。

④ 総合実習（担当：川野、後田、杉山）

昨年度と同様に総合実習は完全パッケージ化にて2単位の実習を6月22日～7月10日の間で実施した。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大により、遠隔での実習となった。

2021年度総合実習にむけた総合実習オリエンテーションは、遠隔にて1月8日（金）に実施し、希望調査票を2月12日（金）までに学習支援システム（どこカレ）に提出とした。学生の希望は特定の領域に集中したが、第3希望の範囲内にすべての学生を配置できた。各コース決定の掲示は3月9日に発表した。

⑤ 上越地域看護学実習連絡調整協議会（担当：石田、河原畑）

今年度は、当番校は上越看護専門学校側で10月2日（金）に本学で開催された。出席者は学部長、実習委員長、副委員長、山崎主任、上越看護専門学校教員5名、水澤（県立中央病院）、飯田（新潟労災病院）、松岡・廣田・小竹（上越総合病院）、秋山（上越地域医療センター病院）、中田（さいがた医療センター）山田（上越地域振興局）であった。事前に上越看護専門学校との配置希望の調整を行い、協議会で確認された。病院側は新型コロナウイルス感染症対応のため、病棟の変更や患者数の減少などがあり、実習受け入れが難しい状況もあるが、臨機応変に対応していただくことになった。また、訪問看護については、同日、別途協議会を開催した。ステーション管理者の参加者は3名であったが、学校間の調整とともに新型コロナウイルス感染症対策を含め、訪問ステーションにおける実習に対する意見交換ができた。

(2) 臨床実習の実施方法に関する事項

① 実習オリエンテーション（担当：大久保、河原畑）

領域別オリエンテーションを令和2年6月22日（火）16:10～17:40、3密を避けるために体育館で対面により実施した。例年、領域別実習配置表は、事前に実習掲示板に掲示していたが、学生は感染拡大防止のため登校自粛となっていたため、オリエンテーション当日に実習要項と共

に配布した。実習の概要と留意点、実習に係る倫理的配慮、看護技術到達度リストの使用法、各領域別の実習概要の説明に加え、新型コロナウイルス感染（拡大）防止に関わる留意点についても説明した。臨地での実習時間の短縮や、急な実習中止の可能性を鑑みて、学内実習に使用する講義室の調整を行った。さらに、感染予防対策のためのマスクやフェイスシールド、消毒用アルコール、非接触型体温計などの手配を事務教に依頼し、対応していただいた。

その他、ふれあい実習において、オリエンテーション時に、情報倫理に関する説明を実施した。

② 看護技術到達度リスト（担当：川野、杉山）

1年次のふれあい実習オリエンテーション時に配布し、委員が活用方法と管理について説明した。領域別実習オリエンテーション時には、担当者が改めて記載の仕方と管理法について説明を行った。総合実習終了後に、全学生のリストを回収し、昨年度（2019）と今年度（2020）の4年生実習終了時の到達度の比較を行った。その結果、8割以上が到達目標に達した技術項目は、170項目中81項目であった。回収した技術到達度リストの返却は、2月4日（木）国試受験票配布時に行い、今後の技術到達度リスト活用方法について伝えた。

(3) 臨床実習要項に関する事項

① 実習要項（担当：石田、後田）

今年度は新型コロナ禍の影響で、実習懇談会も中止となったが、実習要項は例年通りの5月中旬に完成させた。基礎看護学、成人看護学、母性看護学、小児看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護論、臨地実習の概要の実習要項を各300部作成した。

(4) その他

① 継燈式（担当：大久保、岩永）

令和2年度の継燈式実行委員13名が選出されていたが、新型コロナウイルス感染（拡大）防止のため、例年同様の継燈式は中止となった。実行委員長に、別の方法での継燈式の実施について検討を求めたが、中止の意向であるとの報告を受け中止した。

次年度は継燈式を実施したいという学生の意向があり、1年生の実行委員11名が選出された。

② ユニフォーム（担当：岩永、後田）

2020年度から新たな業者として合資会社ヨシザキに依頼することとなった。新型コロナウイルス感染症対策のため例年より遅れて、また、学生が密にならないよう2020年7月15日（水）と7月29日（水）の2日にかけて14時半から17時の間に多目的室（女子）、大会議室（男子）において採寸を実施した。採寸日に合わせてカーディガン、ナースシューズの注文も行った。学生への販売は10月29日（木）10時50分から12時30分に行った。

③ 実習物品購入（担当：石岡）

今年度はコロナ感染症対策として、マスクや消毒用アルコール、マスク、ディスプレイ、パーテーション等について委員会経費と運営費で購入した。前期と後期の2回に分けて購入したが、特に前期は物流の不足や価格の上昇があり、必要なものが購入できないこともあった。次年度以降も不足する可能性があり、計画的な購入が必要と考える。

3. 次年度の課題

(1) 現カリキュラム上の実習についての課題の明確化とともに新カリキュラムにおける実習配置の検討（カリキュラム検討と並行して検討の必要がある）。

- ・ 新型コロナウイルス感染（拡大）防止を講じて行う継燈式は、学生も教員も初めての試みであるため、学生への丁寧なサポートが必要と思われる。
- ・ 新カリキュラムに合わせた看護技術到達度チェックリストの検討が必要と思われる。
- ・ 新カリキュラムにおける実習施設の確認
- ・ 現行カリキュラムから新カリキュラム移行期の実習配置シミュレーションについて

令和2年度 学生委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎大久保明子、○酒井禎子、堀江正男、藤田尚、エルダトン サイモン、原等子、小林綾子、谷内田潤子、東條紀子、相澤達也

事務局：亀井宣幸、笠原志寿子（R3.1.31まで）、岡田優佳（R3.2.1から）

2. 活動概要

(1) 学生自治会活動支援（担当：酒井、小林、相澤）

- ・自治総会は、9月1日（火）～9月30日（水）の間にmoodleを使用した資料の提示と承認・非承認の投票を求める形で実施した。対面での新入生歓迎レセプションは中止したが、球技大会は感染対策を講じた上で午前・午後に分かれて開催した。
- ・11月1日（日）に開催された桜蓮祭は、「発憤興起～今できることを最大限に～」をテーマとし、学内者のみを対象にオンラインで開催した。Zoomを使用し、成果発表や学生対抗ゲームを行った。時間的余裕を持った準備や各係の連携が次年度の課題となった。
- ・高等教育コンソーシアムにいがた看護系大学タスクフォースの活動では、幹事校であることから本学自治会学生を中心に、ニュースレター（NSN通信 第2号）の発刊（1月）を行った。
- ・経費：8,746円

(2) 学生との意見交換会（担当：原、藤田、小林、谷内田）

- ・実施日時：令和2年12月17日（木）16:30～17:45
- ・出席者：学生19名、教職員：25名
- ・内容：学生生活状況、学年別の課題や生活上のトラブルへの対処、大学への要望、さらにオフィスアワーの活用について、話し合いが行われた。
- ・結果の活用：意見交換会で話合われた内容の要約を参加した教職員に配布し、学生には学内掲示板とどこカレ掲示板に掲示した（3月）。

(3) 学生生活実態調査（担当：原、藤田、小林、谷内田）

- ・実施日：9月28日（月）～10月5日（月）
- ・対象者（回収率）：1年生94名（65%）、2年生98名（89%）、3年生89名（61%）、4年生96名（95%）
- ・調査方法・内容：どこカレ上に調査用紙を設置し入力する方法で行った。内容は前年度と同様。
- ・結果の活用および周知：集計結果は、ポスターを学生食堂前に掲示するとともにどこカレ学年掲示板（11月）及び学内HPに掲載した（12月）。教授会にて集計結果の印刷資料を配布。学生との意見交換会の資料とした。
- ・経費：32,769円（18時間程を外注）

(4) 学生の地域交流支援（担当：エルダトン、藤田、東條、相澤）

今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点で例年の高田祇園まつりの民謡流しは中止となり、学生の地域交流の機会はなかった。

(5) 学生のボランティア活動支援（担当：エルダトン、藤田、東條、相澤）

今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点で行事等が制限されたため、上越市からのボランティア協力要請もなかった。

(6) 新入生オリエンテーション（担当：酒井、エルダトン、東條）

対面によるオリエンテーションは中止となり、学年担任と連携してオンラインでのプログラムを企画、実施した。4月30日（木）に「オンラインで友達になろうーZoomで自己紹介」をテーマとし、学

生同士で自己紹介を行った（参加者 81 名）。6 月 12 日（金）には、「オンラインで先輩に聞いてみよう！ーZoom で大学生生活 Q&A」（参加者 31 名）をテーマとし、上級生 7 名からの大学生生活に関するアドバイスの質疑応答が行われた。

(7) 学修支援・学生相談・教育環境の向上他（担当：堀江、原、谷内田）

- ・年度当初からコロナ禍によりガイダンスなどでオフィスアワーの周知ができなかったが、1 年生クラスミーティングで紹介し、登校自粛などで大学生生活への不安を強くしている 1 年生を中心に 5 月にオンラインでオフィスアワーウィークのキャンペーンを実施、上級学年の学年にも広く呼び掛けた。オンラインでのオフィスアワーとして 5 月はメールのみ、7 月は Zoom も活用できるようにした。利用者は 2 回とも数人であった。しかし、後期学生生活実態調査でのオフィスアワーの認知度は例年より高かった。また、LMS (Moodle: どこカレ) やオンライン教材、Zoom などを活用した講義が実施されるようになり、メール等を活用して教員とのコミュニケーションが例年よりも日常的に行われている状況がみられた。学生との意見交換会においても、オフィスアワーを周知し、利用は少なかったかもしれないが、キャンペーンを開催することで学生の安心につながったようでもある。コロナ禍における課外活動の制限がある中で、今後も教員との関係構築をすすめ学修支援できるよう工夫していきたい。
- ・学生相談関係者会議を例年同様 2 回開催し各担当者の活動状況を共有した。コロナ禍による学生の心身社会的な状況変化や、休学・復学の学生への対応、学生に関する情報の共有など、学生相談・支援体制の課題について検討した。

(8) 各種奨学金等（担当：事務局 亀井、笠原、岡田）

- ・日本学生支援機構：1 年；4 6 名、2 年；6 7 名、3 年；5 6 名、4 年；4 6 名
前年度の成績（GPA）を基準に対象者を選別し、「警告」の対象となった奨学生に対し、担任による個別指導を行った。
- ・その他の奨学金：1 年；5 名、2 年；1 0 名、3 年；1 0 名、4 年；1 3 名。
合計 2 5 3 名

(9) 情報倫理等に関するガイダンス検討会議（担当：大久保、堀江）

- ・8 月 28 日（金）10:00～11:00 に情報倫理ガイダンス検討会議を実施した。実習委員長、教務委員長、ネットワーク委員長、学生委員会担当者が参加し、各担当者が実施している情報倫理に関する講義・ガイダンスの内容について確認し、情報倫理に関する現状の問題点と学生指導における課題、及びその対応について話し合った。

3. 次年度に向けた課題

- ・学生自治会活動においては、継続して感染予防を徹底して行うこと、今年度の自治会総会や桜蓮祭の開催にあたって活用した moodle や ZOOM の状況や準備などについて、次年度に引き継ぎ、円滑な運営ができるように支援していく必要がある。
- ・今後も、対面だけでなく、メールや ZOOM を活用したオフィスアワーの活用促進に向けて検討していくこと、学生相談関係者会議を軸とした学生の相談・支援体制の充実を図ることが課題である。
- ・個人情報保護と情報倫理の徹底に向けて、臨地実習やふれあい実習前のオリエンテーション、及び情報処理演習等で学生に指導をしていることが明らかとなった。今後も学生には繰り返し指導していく必要がある。次年度の情報倫理等に関するガイダンス検討会議の開催については、学生の状況等を鑑みて開催を検討する。

1. 委員会構成

委員：◎舟島なをみ、○井上智代、田口玲子、永吉雅人、徐淑子

事務局：宮崎達也

2. 活動概要

(1) 教員の研究計画立案能力向上に向けた支援（Research Proposal Consultation）について

Research Proposal Consultation（以下「R.P.C.」）を通して教員が研究計画立案と洗練に向け個別指導を受ける機会を提供し、教員1名が指導を受けた。また、助教・助手を対象とした研究計画立案に関わる学習機会としてR.P.C.CAFÉを開催し、13名の助教・助手が参加し、計画立案に関わる問題とその克服に関しコンサルテーターも交えたグループディスカッションを行い、参加者からは高い満足度を得られた。

(2) 科研費申請に関する説明会の開催について

令和2年9月29日(火)に令和2年度科研費申請学内説明会を開催し、科学研究費の制度や制度の変更点に関する情報提供や科研費電子申請システムによる令和3年度応募書類の学内送信スケジュールについて説明した。

(3) 研修会の開催について

① 令和2年8月5日(水)に助教・助手を対象とした研修会「R.P.C.CAFÉ」を開催し、13名の助教・助手の参加があった。舟島委員長がファシリテーターを務め、研修会参加者からの質問に対し、自身の経験を交えながら質問に回答される等、参加者からは高い満足度を得られた。

② 令和3年3月16日(火)に科研費を獲得している学内の教員2名を講師とした研修会「優れた研究計画書の作成」を開催し、21名が参加した。終了後に行ったアンケートの結果、参加者は高い満足度を示していた。

(4) 学内共同研究助成について

① 学内共同研究助成募集について

前年度に引き続き、学内共同研究助成に関する募集を行い、2件の応募があった。委員会にて審査を行い、委員会意見として学長へ報告し、応募のあった2件すべてに研究助成を行うことを決定した。

② COVID-19 流行の影響による研究期間の延長措置

COVID-19の流行による、研究活動の中断・遅延に対応するため、本年度のみの特例として、各研究代表者の申請にもとづき、研究期間延長を認める措置をとった。

③ 令和元年度採択 学内共同研究助成成果報告について

令和2年11月18日(水)に令和元年度に採択された2件の学内共同研究に係る研究成果報告会を開催した。

報告形式については、口頭発表による報告会とし43名の教職員及び大学院生の参加があり、活発なディスカッションが展開された。

研究成果報告書については、別に様式を定め、令和3年3月19日(金)までに全ての研究代表者からの提出が確認された。

(5) 研究活動の活性化に資する本学図書館蔵書の展示について

図書委員会との合同企画「研究活動のためのおすすめ資料展示」を令和2年8月3日(月)から令和2年10月16日(金)までの期間、実施した。

研究能力向上や研究助成金獲得に資する図書を新規に購入し、既存の図書と合わせ77点を特別展示し、期間中に13件の貸し出しがあり、また利用者からは好評だったため、次年度以降も定例開催するこ

とを確認・決定した。

(6) 研究活動活性化に向けたニード調査について

研究活動を推進するための具体的な支援を検討するため、本学における研究環境の把握及び研究を阻害する要因と支援ニーズを明らかにすることを目的として本学の教員を対象にアンケート調査を実施し、分析を終了した。また、令和2年11月18日(水)にその結果を学内研究成果報告会第2部として発表した。さらに、調査結果から得られた内容を参考に具体的支援策の検討を開始している。

(7) 科学研究費の新規申請件数及び採択件数について

区 分	R 2 申請件数	R 2 採択件数	R 3 申請件数
基盤研究 (S)	0	0	0
基盤研究 (A)	0	0	0
基盤研究 (B)	2	0	1
基盤研究 (C)	1 3	4	1 3
挑戦的研究 (開拓)	1	0	0
挑戦的研究 (萌芽)	2	0	3
若手研究	8	2	2
合 計	2 6	6	1 9

1. 委員会構成

委員：◎高柳智子、○徐淑子、小野幸子、永吉雅人、石原千晶
事務局：山崎明彦

2. 活動概要

(1) 教員の教育評価および教育能力の開発に関する事項

① 学生による授業評価アンケート調査

前期科目の学生による授業評価アンケートは、新型コロナウイルス感染拡大による登校自粛及び遠隔授業開始に伴い、従来の対面授業でのアンケート用紙配布による調査を実施できず、協議の結果、見送りとした。そのため、講義科目、演習科目、実習科目それぞれの全般的な満足度についてweb調査を行い、集計結果をFD通信第4号ならびに学内ホームページに掲載するとともに、自由記載内容は学長ならびに科目群責任者にフィードバックした。後期よりドコカレ内のweb調査に切り替え、従来通り科目ごとの授業評価アンケートを実施した。しかし、従来のアンケート用紙配布による調査と比較して、回収率の低い科目が目立ち、回収率は0~97%であった(開講科目で回答者0名の科目が4科目)。集計結果については、担当教員に提示するとともに、学内専用ホームページ及び自己点検評価報告書に掲載した。また、web調査への移行により、アンケート集計作業日数の短縮および集計作業費用の節減につながった。

(全体集計結果) ※学内専用ホームページ公開の全体集計結果は別紙に示す

前期科目 遠隔授業の全般的な満足度:講義科目の「満足」・「どちらかといえば満足」は28.6~53.1%、演習科目の「満足」・「どちらかといえば満足」は24.5~36.2%、実習科目の「満足」・「どちらかといえば満足」は36.2~51.01%であった。

通年科目・後期科目:法人計画評価指標である授業満足度は、講義・演習科目4.3±0.8、実習科目4.3±0.6であり、法人計画評価指標目標値(4.2)を上回っていた。しかし、この結果の読み取りには、昨年度までの調査と比較して回収率が大幅に低下していることによるバイアスを考慮する必要がある。

② FD研修会

昨年度に引き続き、新潟大学准教授 上島洋佑氏を外部講師として招き、「続・チームとして教育力を高める」をテーマとした研修会を3月4日(木)15時~16時30分にオンラインにて開催した。教員24名が参加し、参加者アンケートにおいて回答者全員が「とても有意義であった」「やや有意義であった」と回答しており、他領域の教員とのグループセッションを理由に挙げている者が多かった。

③ 広報誌 FD通信第4号の発行

FD通信第4号を12月に発行した。掲載内容は、前期授業検討会開催報告や前期遠隔授業に関する学生の授業満足度調査結果等であり、学生及び教職員に配布するとともに機関リポジトリに登録した。また、令和3年度入学生の保護者に、後援会だよりとともに配布する予定である。

④ 授業検討会の開催

昨年度の試行を経て2回(前期・後期)開催した。前期は、本学教員2名の遠隔授業の実践例をもとに、「遠隔授業の実践と課題」をテーマとした授業検討会を開催した(8月6日 木曜 16時~17時30分)。教員30名が参加し、参加者アンケートにおいて、企画の満足度は「大変満足」61.0%、「やや満足」30.0%と高評価であった。後期は、1年次英語リーディングⅡの授業参観(12月23日 水曜Ⅱ限)及び事後協議会(12月25日 金曜 10時30分~11時40分)を行い、9名の教員が参加した(うち、3名は事後協議会を紙面参加)。

3. 次年度に向けた課題

① 学生による授業評価アンケート調査 回収率向上に向けて

今年度前期の新型コロナウイルス感染拡大による登校自粛及び遠隔授業開始に伴い、後期よりドコカレ内の web 調査に切り替えた。入力フォーム QR コード付の掲示物を学年掲示板に掲示するとともに、各授業最終日に担当教員より入力呼びかけを行ってもらったが、回収率向上にはつながらなかった。web 調査への切り替えにより、集計作業経費は節約できるため、次年度についてもこの調査方法を継続していく方針である。そのため、学生が入力フォームによりアクセスしやすい工夫を行うとともに、今年度同様に FD 通信や授業を通じて学生への協力を呼びかけていく必要がある。

② 授業検討会の開催

昨年度の試行を経て今年度は前期・後期と 2 回開催した。今年度は、実習期間を避けて開催したため、昨年度の試行よりも参加者数は増加した。しかし、授業公開者は手上げ式を原則として募集しているものの、今まで応募者はなく担当委員が各教員に打診し引き受けてもらっている状況である。また、授業参観者についても助教・助手といった若手教員の参加が少ない状況にある。授業検討会の今後の課題として、若手教員の授業公開や授業参観を促進していくために、参加しやすい日程や参加方法の工夫を継続して検討していくことが挙げられる。

令和2年度 前期科目 遠隔授業に関する学生の授業満足度 集計結果
 1年生 前期履修学生94名 回答77名
 【講義科目】



遠隔授業で行った講義科目全般の満足度を教えてください

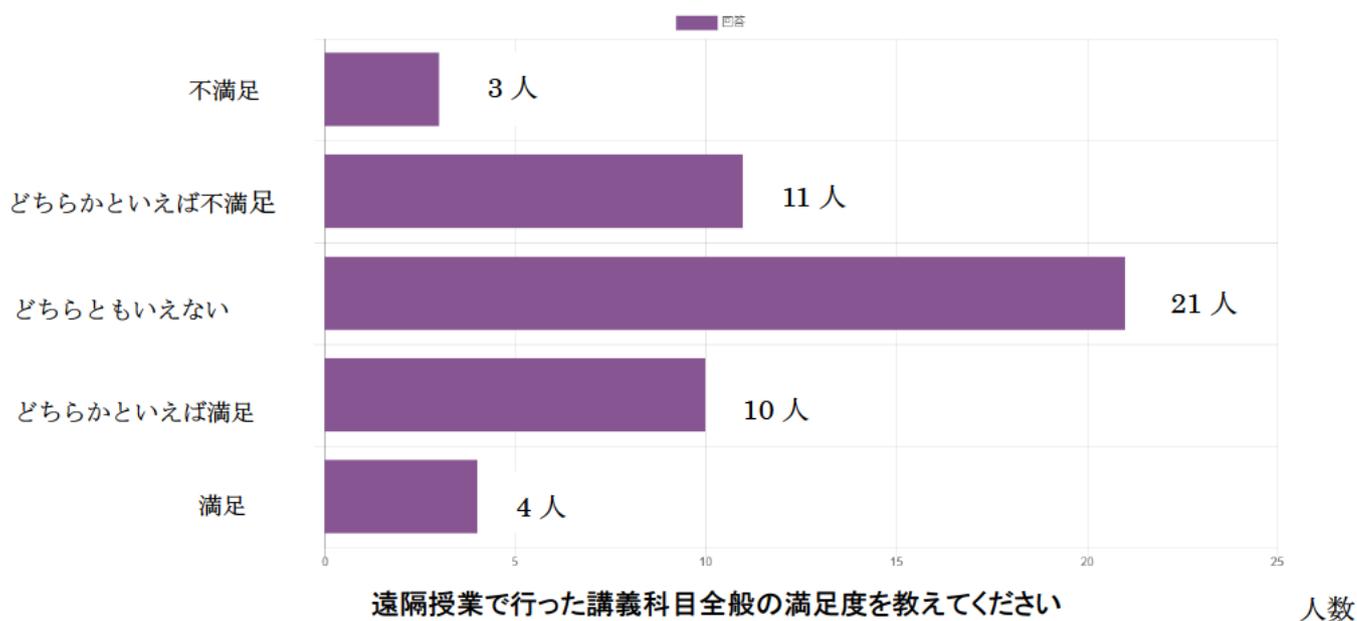
人数

主な回答理由 ()内は記述件数

1. 不満	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoom 接続の不具合により十分に受講できなかった(2) ・授業時間短縮により進行が速くついていけなかった(1) ・分からないことをすぐに相談できなかった(1)
2. どちらかといえば不満	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoom 接続の不具合により十分に受講できなかった(8) ・授業の進行が速く、ついていくのが大変だった(1) ・一方向の授業形態は不満だった (1) ・自宅での受講は集中できなかった(1) ・提出課題のフィードバックコメントが殆どなかった(1)
3. どちらともいえない	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoom 接続の不具合により十分に受講できないことがあった(8) ・集中力が続かず、対面授業よりも理解度が下がった(2) ・学内で遠隔授業を受けることの意義が分からなかった(2) ・登校しない分、時間に余裕を持てた(2)
4. どちらかといえば満足	<ul style="list-style-type: none"> ・授業自体は満足しているが、Zoom 接続の不具合により十分に受講できないことがあった(18) ・遠隔授業開始当初の不具合は、徐々に改善してもらえた(6) ・遠隔授業に切り替えて授業を継続できた(3) ・対面授業よりもスライドが見やすかった(3) ・登校しない分、時間に余裕が持てた(2) ・周りに友人がいないため、不安だった(2)
5. 満足	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoom 接続の不具合に迅速に対応してもらえた(2) ・3密を回避して受講できた(2) ・遠隔授業の方が質問しやすかった(1)

2年生 前期履修学生 98名 回答 49名

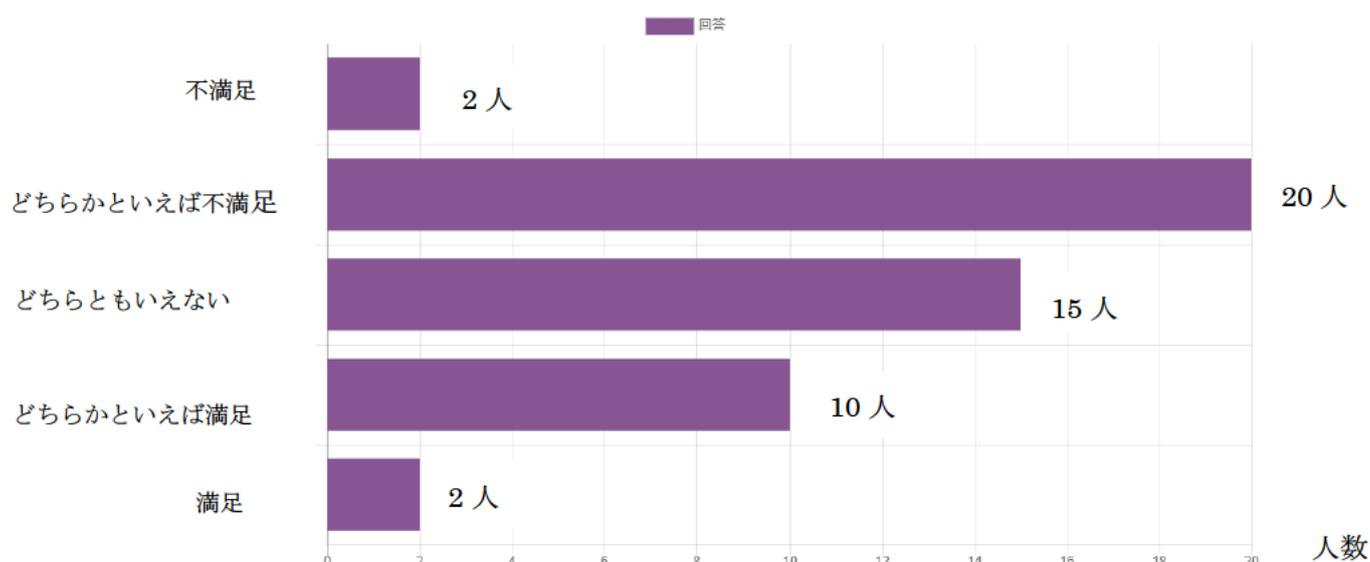
【講義科目】



主な回答理由 ()内は記述件数

1. 不満足	<ul style="list-style-type: none"> ・課題量の多さ (2) ・遠隔授業に変更後の成績評価方法・基準について、提示がない科目があった(1) ・出席確認方法が科目により異なり混乱を生じた (1)
2. どちらかといえば不満足	<ul style="list-style-type: none"> ・課題量の多さ (6) ・授業に集中できなかった(3) ・講義資料の印刷が負担であった(2)
3. どちらともいえない	<ul style="list-style-type: none"> ・課題量の多さ(科目間で調整を望む意見もあり) (9) ・授業に集中できなかった(4) ・対面授業よりもスライドが見やすかった(4) ・十分に学習できているのか不安がある(3) ・登校しない分、時間に余裕が持てた(3) ・Zoom 接続の不具合により十分に受講できないことがあった(2)
4. どちらかといえば満足	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業よりもスライドが見やすかった(3) ※1名は後期以降も遠隔授業の併用を希望 ・自ら学修しようとする気持ちが強くなった(2) ・分かりやすい授業を工夫してもらえた(2)
5. 満足	<ul style="list-style-type: none"> ・感染リスクを配慮した最善の対応であった(3) ※1名は後期も遠隔授業の継続を希望 ・対面授業よりもスライドが見やすかった(1) ・授業に参加しただけで勉強した気になっていた今までの学習スタイルを変更することができた(1)

【演習科目】



遠隔授業で行った演習科目全般の満足度を教えてください

主な回答理由 ()内は記述件数

1. 不満	・動画視聴では技術を習得した実感がない(2)
2. どちらかといえば不満	・実際に技術演習を行っていないので、習得した実感がない(16) ・課題量の多さ(2)
3. どちらともいえない	・仕方ないことではあるが、実際に技術演習を行っていないので、習得した実感がない(12) ・動画はわかりやすかった(2)
4. どちらかといえば満足	・技術演習は対面授業再開後に補う機会があった(2) ・動画や教員の説明で理解できた(2) ・課題が工夫されていた(2)
5. 満足	・自主的に練習するモチベーションにつながった(1) ・技術演習は対面授業再開後に補う機会があった(1)

【実習科目】



遠隔授業で行った実習科目全般の満足度を教えてください

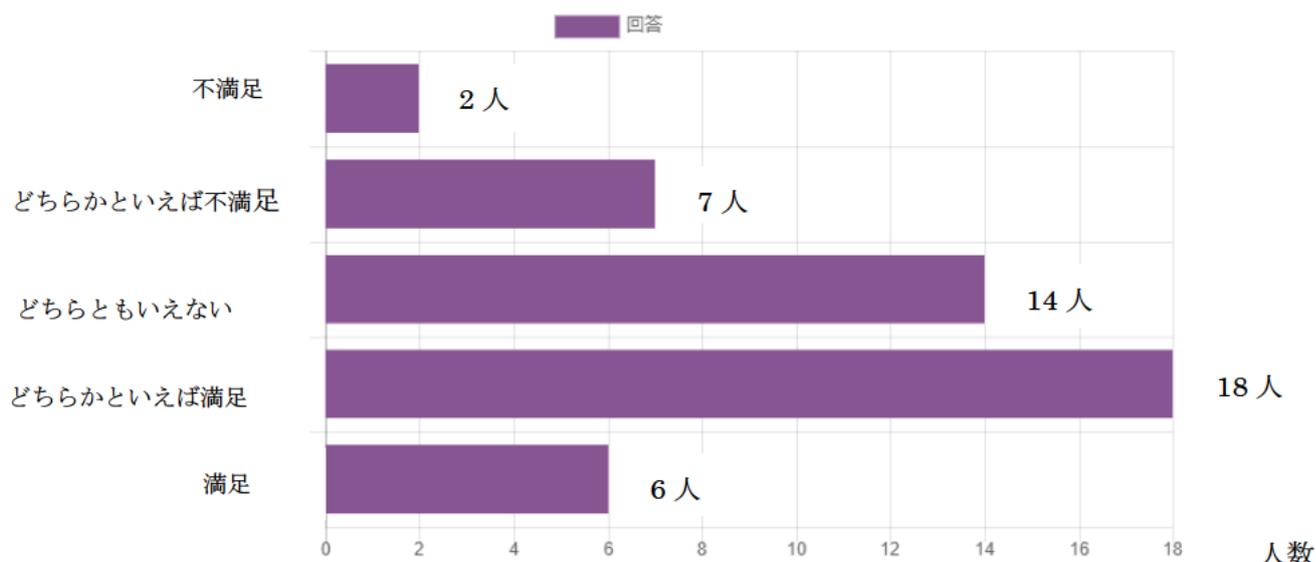
人数

主な回答理由 ()内は記述件数

1. 不満足	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと臨地実習をしたかった(2) ・市外への外出規制の周知が遅かった(1)
2. どちらかといえば不満足	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習でないと学べないことがある(3) ・ZoomによるGWはやりづらかった(2)
3. どちらともいえない	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日数が少なく、次年度の実習が心配 (4) ・Zoom活用により学習に支障はなかった (2) ・遠隔授業は実習とはいえない(2)
4. どちらかといえば満足	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoom活用により学習に支障はなかった (8) ・臨床看護師の講義を遠隔で受けることができた(4) ・短期間であるが臨地で実習できた(2)
5. 満足	<ul style="list-style-type: none"> ・ZoomでのカンファレンスやGWは有効であった(3) ・感染リスクを避け安心して学習できた(2) ・最善の方法で、実習を実施してもらえた(2)

3年生 前期履修学生 90名 回答 47名

【講義科目】



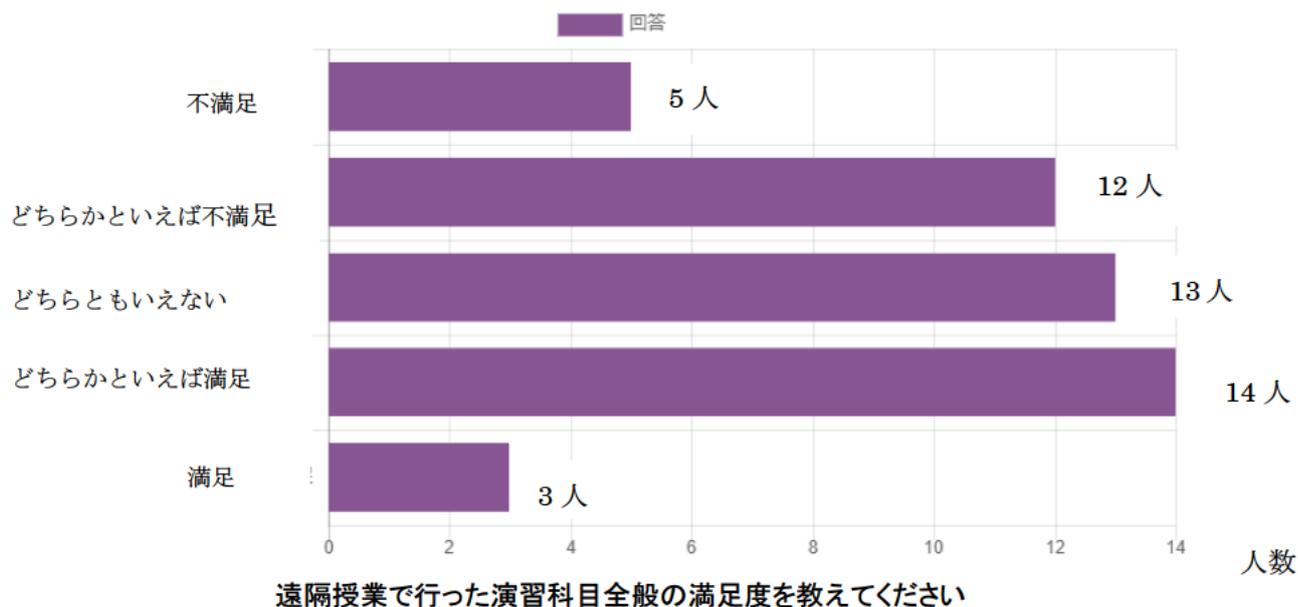
遠隔授業で行った講義科目全般の満足度を教えてください

主な回答理由 ()内は記述件数

1. 不満足	<ul style="list-style-type: none"> ・課題量の多さ(1) ・分からないことをすぐ質問できず、そのままにしてしまった (1)
2. どちらかといえば不満足	<ul style="list-style-type: none"> ・本来よりも授業時間が短かった (1) ・講義資料の印刷費用が負担であった(1) ・質問する機会がなかった(1)
3. どちらともいえない	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料の印刷費用が負担であった(3) ・一方的な授業であった(2) ・Zoom接続の不具合により十分に受講できないことがあった(2) ・対面授業と変わらない学習ができた(2)

4. どちらかといえば満足	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業と同じ学びができた(4) ・講義資料の印刷が多く負担であった(2) ・最初は不安だったが問題なく受講できた(2)
5. 満足	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の質は対面授業と変わらなかった(2) ・分からないところは何度も視聴できてよかった(1)

【演習科目】



主な回答理由 ()内は記述件数

1. 不満	<ul style="list-style-type: none"> ・技術演習ができず、実習が心配(4) ・GWができず一人で課題を進めるのが大変であった(1)
2. どちらかといえば不満	<ul style="list-style-type: none"> ・技術演習ができず、実習が心配(9) ・課題量の多さ(1)
3. どちらともいえない	<ul style="list-style-type: none"> ・技術演習ができず、実習が心配(4) ・課題量の多さ(2)
4. どちらかといえば満足	<ul style="list-style-type: none"> ・教員からの手厚い指導があった(6) ・動画で学びを補うことができた(2) ・当初の演習計画通りに学びたかった(2)
5. 満足	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が多かった分、学びも多かった(1) ・教員からの手厚い指導があった(1)

4年生 前期履修学生 96名 回答 64名

【講義科目】

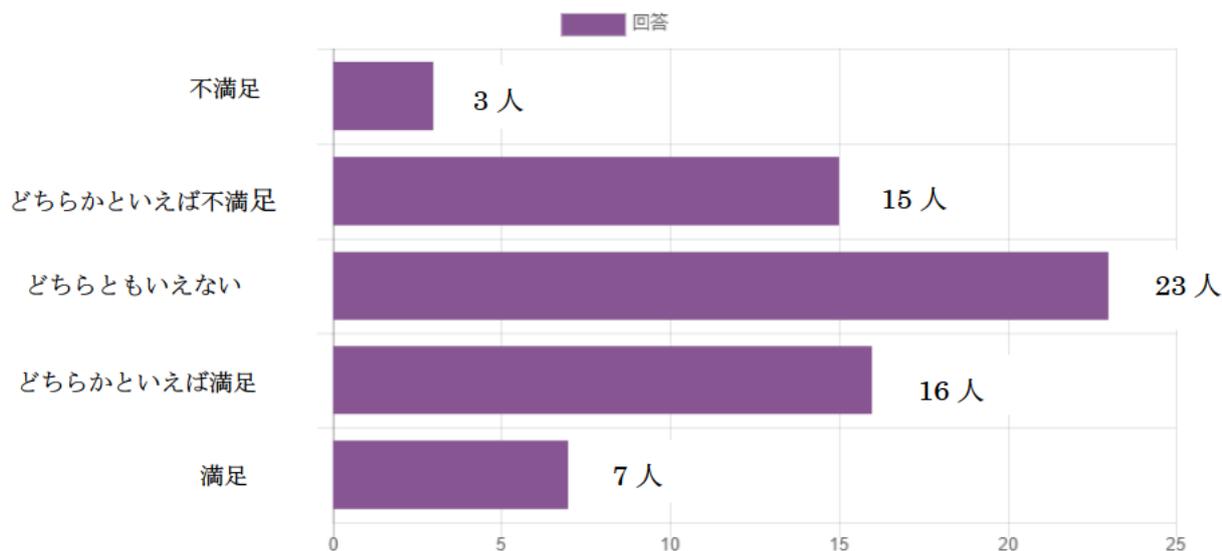


遠隔授業で行った講義科目全般の満足度を教えてください

主な回答理由()内は記述件数

2. どちらかといえば不満	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料の印刷が負担であった(2) ・質問しづらい(1) ・音声が聞き取りづらい時があった(1)
3. どちらともいえない	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料の印刷が負担であった(4) ・Zoom 接続の不具合により十分に受講できないことがあった(2) ・90分授業が短縮され、授業料分学べたのか心配(1)
4. どちらかといえば満足	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業と同様に受講できた(10) ・特に不自由なく受講できた(5) ・感染予防対策として適切(2) ・Zoom 接続の不具合により十分に受講できないことがあった(2) ・講義資料の印刷が負担であった(2)
5. 満足	<ul style="list-style-type: none"> ・特に不自由なく受講できた(2) ・対面授業よりも安全 後期も遠隔授業を望む(1)

【実習科目】



遠隔授業で行った実習科目全般の満足度を教えてください

人数

主な回答理由

1. 不満足	・実習として学んだ実感はない(3)
2. どちらかといえば不満足	・臨地で実習したかった(5) ・記録提出方法を統一してほしかった(1) ・教員への連絡の取り方を統一してほしかった(1)
3. どちらともいえない	・実習としての学びを深めることはできなかった(4) ・変更が多く情報伝達が行き届かないことがあった(2) ・長時間の遠隔授業で疲労が大きかった(1) ・教員にメールで質問しても返信が遅い(2)
4. どちらかといえば満足	・教員からの手厚い指導があった(6) ・遠隔授業ならではの演習を行うことができた(2)
5. 満足	・GW や自己学習で学びを深めることができた(4) ・感染予防対策として適切(1)

令和2年度学生による授業評価アンケート結果報告（後期・通年 講義・演習）

1. 授業評価アンケート実施教員数・実施科目数

教員数	科目数	履修者数(のべ)	回答者数(のべ)
65	52	3,788	1,374

※開講科目のうち回答者が0名の科目4科目 科目別の回答率0～96%

2. 全体集計結果

<評価基準> 1. そう思わない 2. どちらかといえばそう思わない 3. どちらともいえない 4. どちらかといえばそう思う 5. そう思う

学年	項目	授業内容						学生自己評価				総合評価		
		学習目標	構成適切	評価基準	教材	内容工夫	適切対応	環境づくり	シラバスを参考	遅刻欠席	自主的	積極的	知的刺激	満足
1学年		4.5 ± 0.9	4.3 ± 1.0	4.4 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.3 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.2 ± 1.1	4.8 ± 0.7	4.1 ± 1.0	4.6 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.4 ± 0.8
2学年		4.6 ± 0.7	4.5 ± 0.7	4.3 ± 0.9	4.4 ± 0.9	4.3 ± 0.9	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.7	4.9 ± 0.4	4.3 ± 0.8	4.7 ± 0.5	4.4 ± 0.8	4.4 ± 0.9
3学年		4.3 ± 0.7	4.2 ± 0.7	4.0 ± 1.0	4.0 ± 0.9	3.9 ± 0.9	4.2 ± 0.8	4.1 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.3 ± 1.2	4.6 ± 0.6	3.9 ± 1.0	3.9 ± 0.8
4学年		4.5 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.8	4.4 ± 0.9	4.4 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.7 ± 0.8	4.5 ± 0.7	4.6 ± 0.8	4.3 ± 0.8	4.4 ± 0.8
大学全体平均		4.5 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.4 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.8 ± 0.6	4.3 ± 0.9	4.6 ± 0.7	4.3 ± 0.9	4.3 ± 0.8

項目	学年	授業内容						学生自己評価				総合評価		
		学習目標	構成適切	評価基準	教材	内容工夫	適切対応	環境づくり	シラバスを参考	遅刻欠席	自主的	積極的	知的刺激	満足
基礎科目		4.4 ± 1.0	4.2 ± 1.0	4.3 ± 0.8	4.3 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.5 ± 0.7	4.4 ± 0.8	4.4 ± 1.0	4.8 ± 0.6	4.0 ± 1.1	4.6 ± 0.7	4.3 ± 0.9	4.4 ± 0.8
専門支持科目		4.6 ± 0.7	4.5 ± 0.8	4.4 ± 0.9	4.4 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.9 ± 0.5	4.1 ± 1.0	4.6 ± 0.7	4.3 ± 0.9	4.5 ± 0.8
専門科目		4.6 ± 0.7	4.5 ± 0.7	4.3 ± 0.9	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.8 ± 0.5	4.4 ± 0.9	4.7 ± 0.6	4.3 ± 0.8	4.4 ± 0.8
大学全体平均		4.5 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.4 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.8 ± 0.6	4.3 ± 0.9	4.6 ± 0.7	4.3 ± 0.9	4.3 ± 0.8

令和2年度後期・通年 授業科目別集計（講義・演習）

項目 科目群		授業内容							学生自己評価				総合評価	
		学習目標	構成適切	評価基準	教材	内容工夫	適切対応	環境づくり	シラバスを参考	遅刻欠席	自主的	積極的	知的刺激	満足
基礎科目	人間と文化	4.6 ± 0.7	4.3 ± 1.0	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.9	4.8 ± 0.6	4.0 ± 1.2	4.7 ± 0.8	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5
	人間と自然	3.9 ± 1.6	3.4 ± 1.4	3.7 ± 0.7	3.4 ± 1.2	3.3 ± 1.3	3.9 ± 0.8	3.6 ± 1.3	4.0 ± 1.4	4.9 ± 0.3	3.6 ± 1.2	4.6 ± 0.7	3.7 ± 1.3	3.6 ± 1.3
	英語	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.7	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.8	4.9 ± 0.4	4.3 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.7	4.6 ± 0.6
	健康スポーツ	4.4 ± 0.9	4.4 ± 0.8	4.2 ± 0.9	4.4 ± 0.7	4.2 ± 0.9	4.4 ± 0.7	4.5 ± 0.6	4.4 ± 0.8	4.8 ± 0.7	3.9 ± 1.1	4.6 ± 0.7	4.1 ± 1.1	4.4 ± 0.7
	総合	4.4 ± 1.0	4.3 ± 1.0	4.4 ± 0.9	4.6 ± 0.8	4.6 ± 0.9	4.8 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.5 ± 1.0	4.8 ± 0.8	4.4 ± 1.0	4.7 ± 0.8	4.6 ± 0.9	4.6 ± 0.8
専門支持科目	人間と社会	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.4 ± 1.1	4.5 ± 0.9	4.5 ± 0.6	4.4 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.7	4.9 ± 0.4	4.0 ± 1.0	4.6 ± 0.6	4.3 ± 1.0	4.5 ± 0.8
	人間と情報													
	人間のからだと健康	4.6 ± 0.7	4.4 ± 0.9	4.5 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.3 ± 1.0	4.5 ± 0.7	4.4 ± 0.9	4.1 ± 1.1	4.8 ± 0.6	4.2 ± 1.0	4.6 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.4 ± 0.8
専門科目	基礎看護	4.5 ± 0.7	4.4 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.5 ± 0.5	4.4 ± 0.8	4.5 ± 0.7	4.5 ± 0.7	4.3 ± 1.0	4.7 ± 0.7	4.3 ± 1.0	4.7 ± 0.8	4.5 ± 0.9	4.6 ± 0.6
	臨床看護	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.4 ± 0.7	4.3 ± 0.8	4.4 ± 0.7	4.5 ± 0.7	4.9 ± 0.4	4.4 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.7	4.5 ± 0.7
	地域生活看護	4.6 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.1 ± 1.0	4.3 ± 1.0	4.1 ± 1.0	4.4 ± 0.8	4.4 ± 0.9	4.4 ± 0.9	4.8 ± 0.4	4.3 ± 0.8	4.7 ± 0.5	4.3 ± 0.9	4.3 ± 1.0
	看護の統合	4.5 ± 0.9	4.4 ± 0.9	4.3 ± 1.0	4.4 ± 0.9	4.3 ± 1.0	4.3 ± 0.9	4.3 ± 1.0	4.3 ± 1.2	4.7 ± 0.9	4.4 ± 0.9	4.5 ± 0.9	4.2 ± 1.0	4.3 ± 1.0
	看護の探求	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.2 ± 1.1	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.9 ± 0.4	4.5 ± 1.2	4.9 ± 0.4	4.4 ± 1.0	4.4 ± 0.8
	公衆衛生看護学	4.3 ± 0.8	4.2 ± 0.8	4.0 ± 1.0	4.1 ± 0.9	4.0 ± 1.0	4.2 ± 0.9	4.2 ± 0.9	4.4 ± 1.0	4.7 ± 0.7	4.4 ± 0.9	4.6 ± 0.7	4.0 ± 0.9	4.0 ± 0.9
	助産学													
大学全体		4.5 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.4 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.8 ± 0.6	4.3 ± 0.9	4.6 ± 0.7	4.3 ± 0.9	4.3 ± 0.8

令和2年度学生による授業評価アンケート結果報告（後期・通年 実習）

1. 授業評価アンケート実施教員数・実施科目数

教員数	科目数	履修者数(のべ)	回答者数(のべ)
44	9	725	298

※科目別の回答率21～97%

2. 全体集計結果

<評価基準> 1. そう思わない 2. どちらかといえばそう思わない 3. どちらともいえない 4. どちらかといえばそう思う 5. そう思う

※1年次ふれあい実習は、「オリエンテーション」を「事前学習会」、「看護師」を「現地スタッフ」に読み替え

項目 学年	授業内容						学生自己評価				総合評価	
	学習目標	評価基準 が明確	オリエン テーション が役立った	学習目標	授業時間	提出物の量	質問に答 えていた	学生に期待 する行動	教員と看護 師の連携	教員は配慮 していた	積極的に取 り組んだ	満足
1学年	4.6 ± 0.9	4.5 ± 0.9	4.5 ± 0.9	4.6 ± 0.9	4.6 ± 0.9	4.5 ± 1.0	4.5 ± 0.9	4.5 ± 0.9	4.3 ± 1.1	4.4 ± 1.0	4.8 ± 0.7	4.6 ± 0.8
2学年												
3学年	4.4 ± 0.7	4.5 ± 0.6	4.3 ± 0.8	4.2 ± 0.9	4.3 ± 0.9	4.1 ± 0.9	4.3 ± 1.0	4.2 ± 0.9	3.9 ± 1.2	4.3 ± 1.0	4.7 ± 0.5	4.3 ± 0.9
4学年												
大学全体平均	4.4 ± 0.6	4.5 ± 0.5	4.4 ± 0.6	4.2 ± 0.8	4.4 ± 0.9	4.1 ± 0.8	4.3 ± 0.8	4.2 ± 0.8	4.0 ± 1.1	4.3 ± 1.0	4.7 ± 0.5	4.3 ± 0.6

項目 学年	授業内容						学生自己評価				総合評価	
	学習目標	評価基準 が明確	オリエン テーション が役立った	学習目標	授業時間	提出物の量	質問に答 えていた	学生に期待 する行動	教員と看護 師の連携	教員は配慮 していた	積極的に取 り組んだ	満足
基礎科目	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.3 ± 0.9	4.6 ± 0.7	4.5 ± 0.9	4.4 ± 0.9	4.3 ± 0.9	4.4 ± 0.8	4.0 ± 1.2	4.2 ± 0.9	4.8 ± 0.4	4.4 ± 0.7
専門支持科目												
専門科目	4.4 ± 0.6	4.5 ± 0.5	4.4 ± 0.6	4.2 ± 0.8	4.4 ± 0.9	4.1 ± 0.8	4.3 ± 0.8	4.2 ± 0.8	4.0 ± 1.1	4.3 ± 1.0	4.7 ± 0.5	4.3 ± 0.6
大学全体平均	4.4 ± 0.6	4.5 ± 0.5	4.4 ± 0.6	4.2 ± 0.8	4.4 ± 0.9	4.1 ± 0.8	4.3 ± 0.8	4.2 ± 0.8	4.0 ± 1.1	4.3 ± 1.0	4.7 ± 0.5	4.3 ± 0.6

1. 委員会構成

委員：◎田口玲子（委員長）、○井上智代（副委員長）、酒井禎子、原等子、
山田恵子、川島良子、石原千晶、山岸美奈子、前川絵里子、杉山泰子
事務局：笠原志寿子（～1月）、岡田優佳（2月～）

2. 活動概要

(1) 国家試験対策の企画および実施について

① 国家試験対策講義

看護師・保健師国家試験の受験対応として、7月～11月にかけて国家試験対策講義を23回実施した。昨年度の学生へのアンケート結果とともに、受講生のその日のアクセス等も配慮し、対面授業とオンラインの使い分け、やむなく公休する受講希望者のため講義を録画する等、きめ細やかに配慮した。昨年度に引き続き、保健師国家試験対策にも力を入れた。学生からの反応は概ね好評だった。助産師に対しては学生の学習状況をみて個別に指導した。

さらに、学生への国家試験対策指導の充実のための教員セミナーを、今年も実施した。

② 国家試験模擬試験のサポート

業者模試および委員会作成の模試を、看護師は計8回、保健師は計4回、助産師は計3回実施した。今年は使用する業者を昨年に続きさらに工夫し、評価の偏りを避けるようにした。模試の結果は、ゼミ担当教員および国家試験対策委員会で継続的にフォローし、特に気がかりな学生については、注意深くフォローした。

③ 国家試験激励会および国家試験受験状況及び結果

今年度卒業生全員（96名）が看護師国家試験を受験した。保健師国家試験は90名が受験、助産師国家試験は4名が受験した。

国試受験者が受験票を受け取りに来る機会を使い、受験生を激励する会を開催した。

今年度の国試結果は以下のとおりである。

		受験者数	合格者数	合格率	全国合格率 (新卒のみ)	全国合格率 (既卒含む)
看	新卒	96名	95名	98.9%	95.4%	90.4%
保	新卒	90名	88名	97.7%	97.4%	94.3%
助	新卒	4名	4名	100.0%	99.7%	99.6%

(2) 進路指導について

学生がキャリア形成の意義を理解し自らの進路が決定できるように、進路ガイダンスを4回計画した（対面：2回、オンライン：2回）。主たる対象学年を明確にした上で、1年生向けには将来のキャリアと人生、学修コース選択の準備を（11月）、2年生には「適切な職場探しのコツ」を説明、外部の就職説明会などの情報提供も行った（12月）。3年生には「就職活動の基礎知識」として具体的な助言を行った（1月）。1年生向けのガイダンスには就職の決定した4年生が、2年生向けのガイダンスにはその録画視聴を（希望者）、3年生向けのガイダンスには4年生の有志が就職活動の相談のためにそれぞれ関わり、活発な意見交換が行われた。4年生向けには、看護師・助産師・保健師として働く卒業生からの助言をいただく機会を提供した。

今年度の進路状況は、県内就職者は67.0%（昨年度：50.6%）、新潟県出身者の県内就職率は78.7%（昨年度：61.1%）であった。

(3) 求人訪問対応と進路情報の提供

3件の求人訪問に対する対応を行った（前年度より30件減少）。就職情報コーナー、Vドライブの求

人施設情報、どこカレの就職掲示版などにおける情報提供を周知した。しかし学生が登校できる機会自体が少なかったため、学内のオンラインシステムを使った掲示板を工夫するなどして、必要な情報が学生に届くように工夫した。また、4年生の就職活動についての声を下級生に届けたり、進路相談のためのオフィスアワーを設けるなどして、利用・相談しやすい環境づくりに努めた。

(4) 進路状況調査

進路ガイダンス、国家試験手続き、ゼミを通じて学生に周知した。

3. 次年度に向けた課題

- ・学生へのキャリアガイダンスの周知と参加の促しの工夫。
- ・新型コロナウイルス、東京オリンピック（予定）の影響による就職戦線の早まりの予想に対する、就職活動への影響を考慮した対応の検討。
- ・新型コロナウイルス感染の影響による不安定な学習環境下にあっても、必要な教育の質を落とさない方法の工夫。

令和2年度 入試・広報委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎中村義実、石田和子、○堀江正男、○川野英子、西田絵美、エルダトンサイモン、後田穰、石岡幸恵、東條紀子、久保野裕子、大倉由貴
事務局：森田裕美、星野史、関口詩織、星野由衣（敬称略）

2. 活動概要

(1) 入試実施本部会議に関する事項

① 令和3年度入学試験の実施

学校推薦型選抜・社会人選抜（11/21）、一般選抜〔前期日程（2/25）、後期日（3/12）〕を実施した。追加合格者5名を含め、総計104名が選抜され、94名（辞退者10名）が入学手続きを行った。推薦の志願倍率は1.91倍（実質倍率1.91倍）、一般の志願倍率は3.05倍（実質倍率1.50倍）だった。前年度、前々年度を含めた詳細は下表参照。

推薦及び一般選抜従事者のための学内説明会（推薦11/4、一般2/10）、入試実施本部会議における合否判定（推薦12/2、前期3/3、後期3/19）、合格発表（推薦12/4、前期3/5、後期3/19）を実施した。

その他、科目等履修生入学試験、聴講生選考の概要の提案を行った。

令和3年度入試実績（令和3年3月31日時点） R3(上段)/R2(中段)/H31(下段)

※追加合格者5名のうち1名が辞退

	募集人員 (人)	志願者数 (人)	志願倍率 (倍)	受験者数 (人)	受験率 (%)	受験倍率 (倍)	合格者数 (人)	実質倍率 (倍)	入学者数 (人)
							括弧内は 辞退者数		括弧内追加合 格者数
学校推薦型選 抜	35	67	1.91	67	100	1.91	35	1.91	35
	35	54	1.54	54	100	1.54	35	1.54	35
	35	74	2.11	74	100	2.11	36	2.06	36
社会人選抜	若干名	0							0
	若干名	1		1	100		0		0
	若干名	2		2	100		2		2
一般選抜(前)	50	66	1.32	63	95.4	1.26	51(4)	1.24	47
	50	133	2.66	128	96.2	2.56	51(6)	2.51	45
	50	99	1.98	95	96.0	1.90	53(4)	1.79	49
一般選抜(後)	10	117	11.7	27	23.1	2.70	13(5)	2.08	8
	10	110	11.0	28	25.5	2.80	14(1)	2.00	13
	10	144	14.4	53	36.8	5.30	10	5.30	10
一般選抜(計)	60	183	3.05	90	49.2	1.50	64(9)	1.41	55(5)
	60	243	4.05	156	64.2	2.60	65(7)	2.40	58
	60	243	4.05	148	60.9	2.47	63(4)	2.35	59
総計	95	250	2.63	157	62.8	1.65	99 ^{+追加5} (9+1) ※	1.59	94
	95	298	3.14	211	70.8	2.22	100(7)	2.11	94
	95	319	3.36	224	70.2	2.36	101(4)	2.22	97

(2) 大学入学共通テストの実施に関する事項

大学入学共通テスト（1/16、1/17）を実施した。試験従事者説明会およびリスニング説明会（12/23）を実施した。

(3) 入試問題の作成、管理、実施に関する事項

「入学者選抜におけるミス防止マニュアル」に基づいて各入学試験を実施した。チェック体制を強化し、ミス防止に万全を尽くした。大学入学共通テストに関しては、問題の受け取り、仕分け、保管などを厳正な管理のもとに行い、全ての業務に関して厳正かつ適正に行った。いずれの試験においても、大きなトラブルが発生することなく無事に終了した。

(4) 学生募集に関する事項

① オープンキャンパス、出前講義、大学説明会、学内見学について

オープンキャンパスは、オンラインで2回開催（①7月30日-8月23日、②10月7日-11月6日）し、それぞれ271名（学生258名）、59名（学生51名）の参加があった。

出前講義は、大学ホームページを通して申し込みを行うシステムを継続した。16教員による25講義の登録があり、年度を通して延べ11回の講義が実施された。

外部における大学説明会には13回の参加（資料参加を含めると16回）、学内見学の受入れは2回行った。

② 高校訪問について

高校訪問を実施した。年度を通して、43校を訪問し、本学PR、ならびに高大連携の強化を図った。

③ 広報誌の作成

大学案内（キャンパスガイド）を作成し6月に発行した。広報誌（ポルティコの広場）2号分（第37号/7月、第38号/1月）を発行した。

④ 大学のホームページに関する事項

入試関連の情報を随時更新するなど、大学ホームページの管理及び運営を行った。

3. 次年度に向けた課題

2021年度入学者選抜は、学校推薦型選抜（推薦入試）と一般選抜（一般入試）で成否が分かれた。

学校推薦型選抜は、志願者が67名（前年度比+13）、受験倍率1.91倍（+0.37）で、2019年度の74名に次ぎ過去2番目に高い数字だった。センター試験が共通テストに変更されるのに伴い、一般選抜を敬遠した受験生が一定の割合でいたものと思われる。

一方、一般選抜では、前期の志願者数が66名（-67）に落ち込んだ。2014年度の80名を下回り過去最低の数字である。内訳は、県内54名（-25）、県外12名（-41）と県外勢の減少が目立った。後期の志願者数は117名（+7）で、県内73名（+9）、県外44名（-2）とほぼ前年度の水準を維持したものの、入学辞退者5名は前例がない。コロナ禍や大雪といった一時的なマイナス要因も考えられるが、近隣の看護系大学の志願倍率と比較すると本学の状況は懸念される。ここ数年、近隣に看護系大学、専門学校の設立が相次いだことの余波を受けており、今後も競争の激化が続く。

大学進学率の上昇に伴い、ここ10年ほど大学志願者数が67万人前後で推移していたが、2021年度より18歳人口減少とともに受験人口が緩やかに減少していくという。もはや志願者増は大きく望めない状況にある。新しい入試・広報戦略の工夫、展開はもちろん必要だが、それ以上に、全学をあげて、本学の魅力作りに取り組むことが求められる。入学者にいい教育を提供し、いかに成長させていくかが問われる。持続可能な入試・広報活動はその土台の上に築かれていく。

4. その他

特になし

1. 委員会構成

委員：◎境原三津夫、○舟島なをみ、渡辺弘之、井上智代、石原千晶、野口裕子
事務局：亀井宣幸、飯田孝枝

2. 活動概要

(1) 管理運営

① 図書館費 12,699 千円

② 入館者数、貸出冊数、文献依頼件数などの利用統計を月別にまとめ分析した。

③ 各種協議会・研修会等への参加

- ・公立大学協会図書館協議会第1回大学図書館研究編集委員会（ZOOM）（飯田職員）
- ・公立大学協会図書館協議会第2回大学図書館研究編集委員会（ZOOM）（飯田職員）
- ・新潟県大学図書館協議会総会（書面審議・ZOOM）（飯田職員）
- ・新潟県大学図書館協議会研修会 中止
- ・公立大学協会図書館協議会関東・甲信越地区館会議（書面審議）
- ・電子資料契約実務研修会（飯田職員）
- ・東海地区医学図書館協議会 2020 実務担当者研修会（飯田職員）
- ・学術コミュニケーション技術セミナー（飯田職員）

④ 上越教育大学附属図書館と共同で蔵書交換展示会を実施した。

期間：10月5日～11月30日

交換展示図書は100冊。

⑤ 蔵書点検

図書館2月16日～2月22日、研究室1月7日～29日に実施した。

(2) 図書館のちからプロジェクト

図書館の利用促進を図るプロジェクトとして以下の活動を行った。

・オンラインブックハンティング（11月16日～11月23日）

学部生3名が自ら書店で選書を行った。17冊全てを購入し、学生作成のPOPを付けて館内展示した。

(3) 広報活動

「新潟県立看護大学図書館Library Newsletter」No44を11月に発行した。大学配布先は、大学役員・県内大学図書館・病院を中心に、72箇所であった。

(4) 図書館ホームページ

教員推薦図書「おすすめの一冊」について、学内教員に依頼して実施した。

(5) 図書購入

① 教員選書図書及び推薦図書

予算890,000円で選書図書及び推薦図書を募った。結果、図書156冊の推薦があり、全てを購入した。

② 学生リクエスト図書

学生より12冊のリクエストがあり、10冊を購入した。

(6) 雑誌購入

購読雑誌の継続購入について審議し、メディカルオンラインで閲覧可能な14誌を除き、購入継続を決定した。購読雑誌の利用状況については、通年にて調査を実施した。

(7) 蔵書の更新・除籍に関すること

① 寄贈図書（2月末現在）：図書220冊、視聴覚3巻

② 除籍：図書2,206冊、視聴覚33巻

(8) リポジトリ

リポジトリへの登録を全教員に呼びかけ、さらに学会誌に論文を発表した教員に対して個別に登録を依頼した。その結果、学術論文を5件登録し、累計50件となった。他にも図書の一部を2件、学内発行物を7件登録した。

(9) その他

① 新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 図書と文献の郵送サービスを開始し、図書1件、文献51件の利用があった。
- ・ 10月～学外者の事前予約サービスを開始した。

② 企画展示

- ・ 新入生に向けた「看護大生のためのスタートブック」の展示
新入生向けのブックリストを作成し、新入生ガイダンスで配布した。3月27日～6月31日まで展示を行った。
- ・ 研究推進委員会との合同企画展示
図書の展示あるいは蔵書紹介をとおして、研究計画策定、ことに科研費調書作成に資する情報の共有や、意欲の喚起を図るため、8月3日～10月16日まで研究推進委員会との合同企画展示を行った。
- ・ 認知症を知ろう！世界アルツハイマーデー
「認知症の人と家族の会」との共催で「認知症を知ろう！世界アルツハイマーデー」の展示を9月1日～30日に実施した。

3. 次年度に向けた課題

- ・ 新規購入図書のスペースを確保するため、古い雑誌、古い図書の除籍をさらに進める。
- ・ 図書館のちからプロジェクトは今後も継続する。

1. 委員会構成

委員：◎岩永喜久子、○原等子、川野英子、Elderton Simon、小林綾子
事務局：亀井宣幸、飯田孝枝

2. 活動概要

(1) 新潟県立看護大学紀要第10巻発行

新潟県立看護大学紀要第10巻を発行するにあたり、年間計画を立て、ホームページや大学院ガイダンス、事前届出書を活用するなどして投稿者を増やす取り組みや呼びかけを行った。4編の論文投稿があり、編集委員会で査読者の意見を踏まえて採否を検討し、2編の論文（報告と資料）の掲載を決定した。発行形態が電子ジャーナルであるため、リポジトリに登録し令和3年3月9日に一般公開した。

(2) 新潟県立看護大学紀要査読要項の改定

新潟県立看護大学紀要に投稿された論文について、投稿者、査読者、委員会の三者による認識を共有する目的で、査読要項を見直すと共に、付随した資料も合わせて改定した。具体的な見直しは、査読過程をより可視化した「査読方針」について新たな項を追加し、査読結果通知書2部を明確化したことである。次年度の第11巻より改定した査読要項を適用することとした。

(3) 予算の執行状況について

令和2年度の予算額150,400円の執行額は76,032円であった。

(4) その他

令和2年の1月から12月期間の本学紀要第1巻から第9巻までの閲覧・ダウンロードの総数は14,903件であった。

3. 次年度に向けた課題

新潟県立看護大学紀要第11巻を発行する予定である。課題は、投稿者数を増やすことと、投稿された論文が査読を経て掲載が可能となるよう、投稿者が査読者の意を理解し査読過程がスムーズに運ぶべく委員会がサポートすることである。そこで、委員会は事前投稿届出書の提出を周知すると共に、新たに改定した査読要項を投稿者、査読者、委員会が理解し共通認識ができるよう働きかけ、紀要第11巻の発刊に資する予定である。

令和2年度 教学委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎石田和子 ○平澤典子、舟島なをみ、長谷川雅美、小野幸子、岩永喜久子、高柳智子、
中島通子、岡村典子
事務局：森田教務係長、亀井図書学生係長

2. 活動概要

(1) 年間活動計画

令和2年度大学院の教務運営に関して研究科委員会と連動した年間活動計画を立て活動した。また、本委員会の記録については、森田教務係長と亀井図書学生係長が交互に担当することとされた。

令和2年度の教学委員会内の役割分担を検討した。以下のとおり決定した。

役 割	担 当
教育環境整備	舟島教授，石田委員長
論文発表会	平澤教授，岡村准教授
学生便覧	石田委員長，岩永教授
シラバス	高柳教授，小野教授，石田委員長
時間割	中島教授，舟島教授

(2) 教育環境整備

① コロナウイルス拡大に伴う措置

・ Zoomによる遠隔授業開始

大学院生にZoomのインストール方法および使用方法を指導し必要に応じて遠隔授業を開始した。

大学院予算でフェイスシールドを購入し必要に応じて活用するようにした。対面授業により蜜が予測される場合、専門看護師実習、研究論文および計画書審査時など

・ 後期日程における授業のあり方

学部の方針と足並みを揃える必要性や、勤務先の病院から移動制限をかけられることを想定して対応していくことの必要性が話し合われた。学生の不利にならないよう、共通必須科目については遠隔授業対応が中心となる(臨床薬理学は学部と調整)。専門領域は各領域で対応することが確認された。

・ 大学院生との意見交換会

大学院博士前期・後期課程において、新型コロナウイルス拡大に伴い、今年度は意見交換会を実施せず、学生から書面にて意見等をもらった。

② 履修登録の取扱いについて

博士前期課程における「人類学特論」担当教員が退職することになり、後期日程で予定されていた同科目が開講できなくなった。科目の履修を希望していた4名の学生には、改めて履修届の提出を促し、卒業単位数等に不利益が生じないよう措置することが周知され、委員会の承認を得た。「人類学特論」については令和3年度入学生より講義を行わないことを決定し研究科委員会および教育研究審議会にて承認され、文部科学省へ削除申請を行った。

③ 他大学院の単位互換及び入学前の既修得単位認定の改正について

大学院設置基準の一部を改正する省令」(令和2年文部科学省令第24号)が令和2年6月30日に施行されたことに伴い、本学大学院学則における、他大学院の単位互換及び入学前の既修得単位認定の取扱いに係る規定について改正する必要があること、並びにその具体的改正案の説明

があり、審議の結果、原案どおり承認された。他大学院から単位 10 単位、当大学での科目履修 10 単位、total 15 単位の単位が認められることが承認された。

(3) 論文発表会

① 学位論文審査

博士前期課程学位論文提出 13 名（10 名は研究コース、3 名は CNS コース）あり、論文審査委員会を組織して論文審査・口頭試問を行った。結果、全員合格と認定され修了要件を確認して研究科委員会の審議を経て全員修了の運びとなった。

② 学位論文発表会の開催

学位論文発表会は令和 3 年 3 月 4 日に行われた。昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス（Covid-19）感染拡大を予防するために教職員、発表予定大学院生のみでの出席とし、Zoom を併用した発表会を行った。

(4) 学生便覧

P17 科目一覧表 遠隔授業対応欄を設けたものと差し替える。人類学特論を科目から外す。（研究科委員会、教研審の承認を得て文科省への届出）

P24・25 スケジュール 論文審査委員会の委員決定は 2 年次の 1 月上旬とする。学位論文の提出 要旨 4 部にかかる下線を消す。学位論文の研究科委員会で審議は 2 年次の 2 月下旬とする。学位授与式は 2 年次の 3 月上旬とする。

P35 及び P68 論文作成要項の図にある「ランニングヘッドを入れる」を削除する。

P35 4. 目次 にかかる論文構成の順番が P26 ページと異なる（博士後期 P61 へについても同様）ため、整理する。

P44 白紙を入れ、博士後期課程に入るページが表紙になるようにする。

P45 カリキュラムポリシーの文言をアドミッションポリシー、ディプロマポリシーと揃えた表現にする。

P63 及び P65 に改正された研究計画書審査基準と学位論文審査基準表を入れる。

本年度改正された大学院学則、大学院学位規程、大学院看護学研究科博士學位論文審査内規について差し替える。

(5) 時間割

昨年度、時間割編成の基本的な考え方や表枠・入力方法等を整理し事務局へ引きつながれた。看護基盤分野及び共通基盤分野科目を記載した時間割 A が 3 月に作成された後、各領域別科目を記載した時間割 B を作成すること、学生への説明は、入学ガイダンス時に時間割 A を、領域別ガイダンス時に時間割 B を説明することとなった。

(6) 新入生及び学年ガイダンス

入学式当日、新入学博士後期課程 2 名博士前期課程 8 名に対してガイダンスを行った。同日、D2 および D3・M2 生に対してもガイダンスを実施した。

D3 M2 生に対しては論文提出および審査日程の確認について資料を用いて説明を行った。

(7) 大学院説明会の開催について

入学委員会と連携し 11 月 14 日（土）に大学院博士前期課程および後期課程入試説明会を、本学第 2 ホールで開催し Zoom 参加希望者及び県外者については Zoom によるオンライン参加実施した。

(8) 大学院生向け特別セミナーの開催

今年度の大学院特別セミナーについては、令和 2 年 10 月 20（火）14:30～16:00 「ウィズコロナ・ポストコロナにおける地域医療の展開」として新潟県庁福祉保健部長 松木晴樹先生から Zoom による遠隔講義が行われた。

(9) 大学院博士前期課程を新たに担当する教員の選考

「大学院専任教員の資格内規」についてワーキンググループ 4 名（舟島研究科長、小野教授、石田教学委員長、事務森田）で行い、大学院博士前期課程「大学院専任教員の資格内規」の改正を行った。

大学院看護学研究科修士課程を担当する専任教員の選考に関する申し合わせ資料に基づき検討した。研究指導教員 8 名、研究補助教員 1 名、科目担当者（CNS）1 名が承認された。

- (10) 令和2年特任講師実践活動報告会（専門看護師実践活動報告会）の開催
特任講師実践活動報告会については延期し、次年度の発表と併せて行うことが決定した。それにあわせ、支給される研究費を次年度の支出としてもよいことを確認した。
- (11) 令和2年度特任講師選定
教学委員会にて4名（がん看護学3名、老年看護学1名）の特任講師を推薦し、研究科委員会で承認を得た。
- (12) 大学院博士前期課程学生における前期修了に関すること
博士前期課程学生より前期修了の希望があったが、大学院規定によると前期修了は『特別な理由』のみ認めることになっており、検討を行った。今回においては特別な理由として前期修了を承認した。今委員長から、本学博士前期課程で前期修了と後期修了の2回論文審査を行っている取扱いについて、他の看護系大学院の状況や本学の過去の状況について説明があり、意見交換が行われた。その結果、本学大学院学位規程第7条第3項において「学位論文の審査及び最終試験は、毎年2月末日までに行うものとする。ただし、特別の事由があるときは、研究科委員会の議を経て、その時期を別に定めることができる。」と規定されていることについて、その解釈が全指導教員に十分共有されるよう、博士後期課程の完成年度となる次年度を目途に検討していくことが確認された。また、「特別な理由」について共通認識を図りたいとの提案があり、意見交換を行った。
- (13) 博士後期課程の研究計画審査基準および研究論文審査基準を作成
開学して初めての博士後期課程における研究論文計画審査が始まり、その審査における基準・手順について再確認したいとの提案が令和元年度に提案があり、ワーキング4名（メンバー：舟島研究科長・小野教授・石田教授・事務局森田）により検討し委員会および学長の意見を取り入れ博士後期課程の研究計画審査基準および研究論文審査基準が完成し、研究科委員会を経て承認された。
- (14) 論文博士の学位授与制度
論文博士の学位授与制度についてワーキンググループ4名（舟島研究科長、小野教授、石田教学委員長、事務局吉澤）にて行った。ワーキンググループにて検討を重ね、さらに教学委員会で検討及び討議を行い、学長からの意見を伺い、研究科委員会を経て承認された。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 社会人が学習しやすい環境を整える目的で遠隔講義について検討する。
- (2) 博士後期課程の専任教員の審査基準を作成し後期課程を担当できる教員審査を行う（ワーキングを立ち上げて行う）。
- (3) 博士後期課程論文提出における審査結果用紙、申請書など提出審査書類の作成を行う（ワーキングを立ち上げて行う）。
- (4) 大学院助産学教育課程について検討を始める。

令和2年度 入学委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎岩永喜久子、○大久保明子、舟島なをみ、小野幸子、中村義実
高柳智子、樺澤三奈子、徐淑子
事務局：森田裕美

2. 活動概要

(1) 入学者の選考に関する事項

① 令和3年度大学院入学者の選抜試験の実施

大学院博士前期課程の入学者選抜試験を令和2年8月27日（8月入試）と令和3年1月28日（1月入試）に実施し8名が受験した。また、大学院博士後期課程の入学者選抜試験を令和3年1月28日に実施し2名が受験した。最終的な令和3年度大学院入学者として、博士前期課程6名と博士後期課程2名が選抜された。

② 令和3年度科目等履修生入学者選抜の実施

令和3年度大学院博士前期課程と大学院博士後期課程の科目等履修生を募集したところ、大学院博士前期課程3名と、大学院博士後期課程4名の応募があり、規定に基づき審査を行い博士前期課程全員（延べ12科目）と後期課程3名（延べ3科目）が選抜された。

(2) 大学院（博士前期課程・後期課程）入学定員充足と周知への取り組み

① 大学院説明会の実施

入学定員充足と大学院周知目的で、大学院博士前期課程と後期課程ならびに科目等履修に関する大学院説明会を実施した。事前に周知活動を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け6月実施予定を中止し、11月に対面と遠隔によって開催した。前年度の大学院修了生2名による大学院での学びに関するプレゼンテーションを行い、9名の参加があり受験につながった。

② 大学院の周知活動

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を鑑み、次のように行った。大学院のホームページを充実させるとともに、大学院博士前期課程と後期課程のアドミッションポリシーを大学案内のチラシや学生募集要項などに掲載し配布した。さらに、学内教員や大学院修了生・在学生を通じた周知活動を行った。学士課程の1年次生から4年次生全員への説明と、大学の同窓会を通じた案内を行った。

③ 大学院博士前期課程の授業体験の取り組み

大学院博士前期課程の授業体験を計画し募集を開始したが、新型コロナウイルス感染症の感染対策により中止した。県内の入学者が少ないことから対象を県内の看護職に絞り、大学院を知ってもらうために内容を検討し大学院科目担当者に働きかけプログラムの検討やホームページ等による周知を図ったところであったが、次年度に生かすこととした。

(3) 大学院入試ミスの発生防止に係る取り組み

大学院入学選抜における試験問題の出題・採点ミス防止について、入試実施までのプロセスに間違いがないかチェックリストを用いて確認した。今後に向けた出題に関するミス防止策を向上させるべく、改めてチェック機構を見直し、ガイドラインとチェックリスト4種類の改定を行った。次年度より適用する予定である。

(4) 予算の執行状況について

令和元年度の予算額50,400円の執行額は4,950円であった。

3. 次年度の課題

次年度の課題は以下の通りである。

① 引き続き、大学院入学定員充足と周知への取り組みを行う。ホームページやチラシを充実させ、コロナ

禍を鑑みながら直接病院や関係団体を訪れ大学院入学試験について説明する。特に、設置主体が同一の県立病院の看護部を通して看護職に働きかける。

- ② 新潟県内の大学院受験者や入学者が少ないことから、県内看護職を対象とした大学院広報のための大学院前期課程科目の授業体験を実施する。
- ③ 大学院入学者選抜における試験問題の出題・採点ミス防止を徹底して講ずる。
- ④ 大学院科目履修制度における科目履修制限について検討する。